WN-G54/BBR　＆　WN-AG/CB2
WN-AG/BBR　＆　WN-AG/CB2

取扱説明書

143869-01

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
4) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
5) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各1部だけ複写できるものとします。
6) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
7) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
8) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
9) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関る設備や機器、及び海底中継機、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
10) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。
また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
11) お客様は、本サポートソフトウェアを一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
12) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
13) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

● I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
● Microsoft,Windowsは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
● Apple, Macintosh, Power Macintosh, PowerBook, iMac, iBook, Power Mac, Mac, Mac OS, AirMac, Mac OS ロゴおよびその標章は、米国Apple Computer,Inc.の登録商標です。
●その他、一般に会社名、サービス名、ソフト名、製品名は各社の商標または登録商標です。

もくじ

本製品を使ってインターネットに接続するまでの手順

以下の流れにしたがって、本製品を使う環境をつくりましょう。

必要なときに読むところ

本製品の付属情報や使用中のトラブルがあったときの解決法です。

必ずお守りください

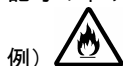
ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

■警告及び注意表示

警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵記号の意味

この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。

記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「発火注意」を表す絵表示

この記号は禁止の行為を告げるものです。

記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「分解禁止」を表す絵表示

この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。

記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「電源プラグを抜く」を表す絵表示

⚠ 警告

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守し、正しい手順で使用してください。

警告・注意事項を無視すると人体に多大な損傷を負う可能性があります。また、正しい手順で操作しない場合、予期せぬトラブルが発生する恐れがあります。ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意事項、正しい手順を厳守してください。

本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因となります。
修理は弊社修理センターにご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有料修理となる場合があります。

煙がでたり変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

コンセントから電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

本製品の取り扱いは、必ず取扱説明書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

- 接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。指定品以外を使用すると火災や故障の原因となります。
- ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。

本製品の取り付け、取り外し、移動の際は、本製品の取扱説明書をご確認になり、必ずパソコン本体・周辺機器および本製品の電源を切り、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。

電源コードを抜かずに行うと、感電および故障の原因となります。

給電されているLANケーブルは絶対に接続しないでください。
給電されているケーブルを接続すると、発煙したり、火災の原因になります。

水ぬれ
禁止

本製品をぬらしたり、水気の多い場所で使用しないでください。

お風呂場、降雨降雪中の屋外、海岸、水辺などでの使用は火災・感電・故障の原因となります。

禁止

故障や異常のまま、通電しないでください。

本製品に故障や異常がある場合は、必ずパソコンから取り外し、コンセントから電源プラグを抜いてください。また、絶対に通電をしないでください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

禁止

本製品を病院内で使用しないでください。

医療機器の誤動作の原因になることがあります。

厳守

心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以上離して使用してください。

電波によりペースメーカーの動作に影響を与える恐れがあります。

禁止

本製品を飛行機の中で使用しないでください。

飛行機の計器などの誤動作の原因になります。飛行機の中ではコンピュータから本製品を取り外してください。

禁止

日本国外で使用できません。

禁止

《WN-AG/BBR、WN-AG/CB2 のみ》
本製品を 5.2GHz 帯で使用する場合、屋外で使用しないでください。

本製品を屋外で使用する場合は、あらかじめ 5.2GHz 帯の電波を無効にしてください。法令により 5.2GHz 無線機器を屋外で使用することは禁止されています。

⚠ 注意

注意

本製品を使用中に、データが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。

取扱説明書などで、操作方法を確認して操作してください。
また、故障などに備えて定期的にバックアップを行ってください。

禁止

本製品は以下のような場所（環境）で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。

●振動や衝撃の加わる場所
●直射日光のあたる場所
●湿気やホコリが多い場所
●温湿度差の激しい場所
●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
●強い磁力・電波の発生する物の近く
（磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
●水気の多い場所（台所、浴室など）
●傾いた場所　●本製品通風孔をふさぐような場所（保管は問題ありません）
●腐食性ガス雰囲気中（Cl_2、H_2S、NH_3、SO_2、NO_Xなど）
●静電気の影響の強い場所
●保温性・保湿性の高い（じゅうたん・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所（保管は問題ありません）

禁止

本製品は精密部品です。以下のことにご注意ください。

●落としたり、衝撃を加えたり、無理な力を加えたりしない
●本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
●重いものを上にのせない
●本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない

禁止

本製品のコネクタ部分には直接手を触れないでください。

静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。また、静電気は衣服や人体からも発生するため、本製品の取り付け・取り外しは、スチールキャビネットなどの金属製のものに触れて、静電気を逃がした後で行ってください。

禁止

パソコンから本製品にアクセス中にパソコンや本製品の電源を切ったり、リセットしないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

厳守

本製品の電源をOFFにした後、再度電源をONにする場合は、5秒以上待ってください。

瞬時に電源をONにすると、正常に本製品がリセットされない場合があります。

使用上の注意

本製品で使用する電波について

本製品は、2.4GHzおよび5.2GHz帯域の電波を使用しています。
（5.2GHz帯域は、WN-AG/BBR、WN-AG/CB2のみ）
本製品を使用する上で、無線局の免許は必要ありませんが、以下の注意をご確認ください。

・以下の近くでは使用しないでください。

・ペースメーカー等の産業・科学・医療用機器等
・工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）
・特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

上記の近くで本製品を使用すると、電波の干渉を発生する恐れがあります。
そのため、通信ができなくなったり、速度が遅くなったりする場合があります。

・携帯電話、PHS、テレビ、ラジオを、本製品の近くではできるだけ使用しないでください。

携帯電話、PHS、テレビ、ラジオ等は、無線LANとは異なる電波の周波数帯を使用しています。
そのため、本製品の近くでこれらの機器を使用しても、本製品の通信およびこれらの機器の通信に影響はありません。
ただし、これらの機器を無線LAN製品に近づけた場合は、本製品を含む無線LAN製品が発する電磁波の影響によって、音声や映像にノイズが発生する場合があります。

・間に鉄筋や金属およびコンクリートがあると通信できません。

本製品で使用している電波は、通常の家屋で使用されている木材やガラス等などは通過しますので、部屋の壁に木材やガラスがあっても通信できます。
ただし、鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されている場合、電波は通過しません。部屋の壁にそれらが使用されている場合、通信することはできません。
同様にフロア間でも、間に鉄筋や金属およびコンクリート等が使用されていると通信できません。

・屋外で、5.2GHz帯(IEEE802.11a)を使用しないでください。(WN-AG/BBR、WN-AG/CB2のみ)

本製品を屋外で使用する場合は、あらかじめ5.2GHz帯の電波を無効にしてください。法令により5.2GHz無線機器を屋外で使用することは禁止されています。

2.4GHz帯使用の無線機器について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器等のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

・この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運営されていないことを確認してください。
・万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数帯を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
・その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きた場合は、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：サポートセンター　電話：　金沢　076-260-3644
東京　03-3254-1144

その他のご注意

本製品は非常に精密にできておりますので、お取り扱いに際しては十分注意してください。

・ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズを与えることがあります。
・モータなどノイズが発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してお使いください。
・本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。
改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意
（お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です！）

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁等)を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
IDやパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報
メールの内容
等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

●不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。
従って、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANカードや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関する全ての設定をマニュアルにしたがって行ってください。
なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用下さい。
セキュリティの設定などについて、お客様ご自分で対処できない場合には、弊社サポートセンターまでお問い合わせ下さい。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

※セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、株式会社アイ・オー・データ機器は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

使う前に

ここでは、本製品を使う前の作業について説明します。

箱の中を確認する

内容物リストを確認します。

☞ 12ページ

▼

動作環境を確認する

本製品を使うことができる機種やOSなどを確認します。

☞ 14ページ

▼

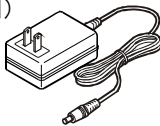
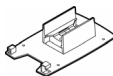
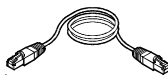
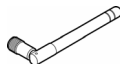
各部のなまえとはたらき

本製品の各部のなまえとはたらきを確認します。

☞ 18ページ

箱の中を確認する

ご使用の前に以下のものがそろっていることを □ にチェックをつけながらご確認ください。
万一、不足品がありましたら、弊社サポートセンターまでお知らせください。

内容物	
□ アクセスポイント付きブロードバンドルータ（１台）	□ PCカード（１枚）
□ ACアダプタ（１個）	□ PCカード用サポートソフトCD-ROM（１枚）
□ スタンド（１個）	□ ハードウェア保証書（２枚）
□ スタンド用ゴム足（４個）	□ 「無線LANについて」シール（２枚）
□ LANストレートケーブル（１本：約１m）	□ 「インターネットにつなごう!!」（１枚）
□ アンテナ（１個） ※アンテナは添付のものをご使用ください。	☑ 取扱説明書（１冊：本書）

■箱や梱包材は大切に保管し、修理などの輸送の際にご利用ください。
■イラストは若干異なる場合があります。

《ユーザー登録やサポートソフトのダウンロードについて》

ユーザー登録をする際や、弊社ホームページよりサポートソフトをダウンロードする際にS/N(シリアル番号)が必要な場合があります。
S/Nは本製品に貼られているシールに印字されている12桁の英数字です。
（ 例： ABC1234567ZX ）

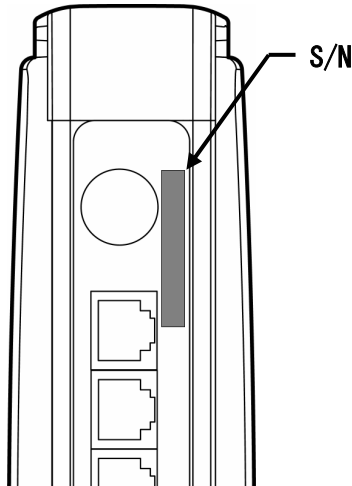
▼S/Nをメモしてください。（ブロードバンドルータ）

▼S/Nをメモしてください。（PCカード）

●ユーザー登録 ⇒ **http://www.iodata.jp/regist/**
●サポートソフトのダウンロード ⇒ **http://www.iodata.jp/lib/**

《ブロードバンドルータのS/Nの位置》

ブロードバンドルータのS/Nは、下図の位置に添付されています。

▼ブロードバンドルータ背面のアンテナ端子横

動作環境を確認する

<table>
<tr><th colspan="2">通信できる無線LAN機器</th></tr>
<tr><th>WN-G54/BBR(ブロードバンドルータ)の場合</th><th>WN-AG/BBR(ブロードバンドルータ)、WN-AG/CB2(PCカード)の場合</th></tr>
<tr><td>IEEE802.11g、IEEE802.11b準拠の無線LAN製品と通信できます。
弊社製品例（最大リンク速度）
●WN-G54シリーズ（54Mbps）
●WN-AGシリーズ（54Mbps）
●WN-B11シリーズ※（11Mbps）
●WN-ABシリーズ（11Mbps）</td><td>IEEE802.11a、IEEE802.11g、IEEE802.11b準拠の無線LAN製品と通信できます。
IEEE802.11g/b と IEEE802.11a を同時に利用する通信はできません。(排他利用)
弊社製品例（最大リンク速度）
●WN-G54シリーズ（54Mbps）
●WN-A54シリーズ（54Mbps）
●WN-AGシリーズ（54Mbps）
●WN-B11シリーズ※（11Mbps）
●WN-ABシリーズ（54Mbps）</td></tr>
</table>

※ WN-B11/LANは除く

注意！

■ブロードバンドルータはアクセスポイント機能付きです。
そのため、弊社製アクセスポイント「WN-G54/AXP」など他のアクセスポイント（本製品同士も含む）とは無線通信できません。(アクセスポイント同士の無線通信はできません。)

■以下の弊社製品とは通信できません。
- 「WN-B11/LAN」
- 無線 LAN PC カード「PCWN-W10」
- コードレスネットワークシンフォニーシリーズ「WN-S/560」「WN-S/PCI」「PCWN-S」
- 無線スイッチングハブ「WNA-FSWH4」
- WN-A54 シリーズ（WN-G54/BBR のみ）

■弊社製電源延長 BOX「WN-OP/POW」は使用できません。

ブロードバンドルータの設定ができるパソコン	
機種	OS（日本語版に限る）
LANアダプタを使用できる下記の機種 ・NEC PC98-NXシリーズ ・DOS/Vマシン ※弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認しています。	・Windows XP ・Windows 2000 ・Windows Me ・Windows 98 Second Edition
LANアダプタを使用できる下記の機種 ・Power Macintosh ・iMac、iBook、PowerBook	・Mac OS 8.6～9.2.2※ ・Mac OS X（10.1～10.2.6）

ブロードバンドルータの設定に必要なソフトウェア
本製品を設定するには、Internet Explorer バージョン5.0以上が必要です。お持ちで無い場合は、別途ご用意ください。

※ AirMacはMac OS 9.0.4以降対応です。
また、AirMac ExtremeはMac OS Xのみ対応です。
AirMac、AirMac Extremeは常に最新のバージョンをご利用ください。

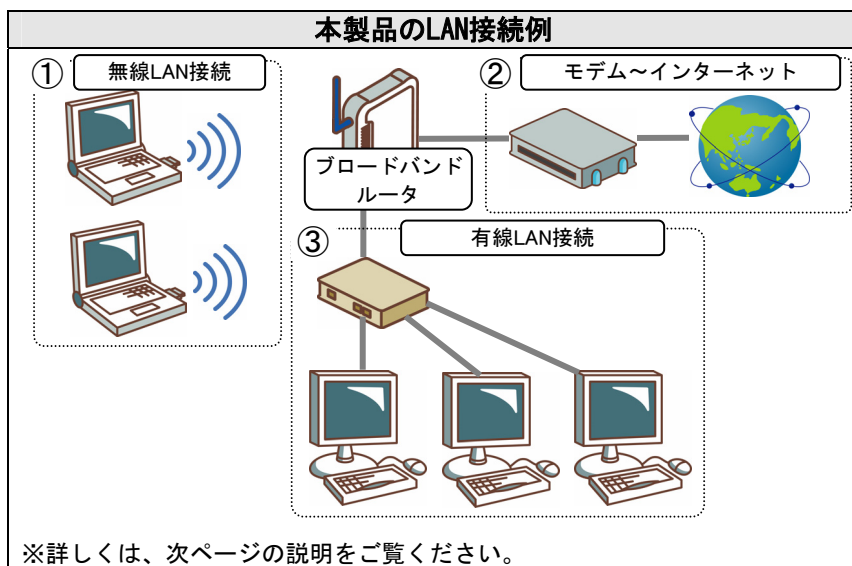
PCカードの動作環境	
CardBus規格に準拠したPCカードスロット(PCMCIA TYPEⅡ）を搭載し、CD-ROMドライブ（インストール用）を搭載※1※2した下記の機種・OS	
機種	OS（日本語版に限る）
・NEC PC98-NXシリーズ ・DOS/Vマシン ※弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認しています。	・Windows XP ・Windows 2000 ・Windows Me ・Windows 98 Second Edition

●弊社では、上記の OS でご利用いただく場合のみをサポート/保証範囲とさせていただいております。UNIX 系 OS などでご利用いただく場合はサポート/保証対象外となります。

●Internet Explorer のバージョン情報は、Internet Explorer 画面の[ヘルプ]→[バージョン情報]で確認できます。Internet Explorer は、最新のバージョンのご使用をおすすめします。

インターネット接続環境の準備、確認 （下記をご用意、ご確認ください。）	
契約	インターネットに接続するには、FTTH/ADSL/CATV（インターネットサービスプロバイダ）との契約が必要です。本製品を使用する前に契約しておいてください。
インターネット接続の確認	**本製品を接続する前に**、パソコンとモデムを直接つないで、インターネットに接続できることをご確認ください。方法について、詳しくはプロバイダにお問い合わせください。
プロバイダの資料	本製品を設定する際に、プロバイダの資料が必要になります。本製品の設定前にご用意ください。

本製品のLAN接続例

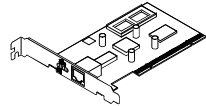
※詳しくは、次ページの説明をご覧ください。

①：無線LAN接続する

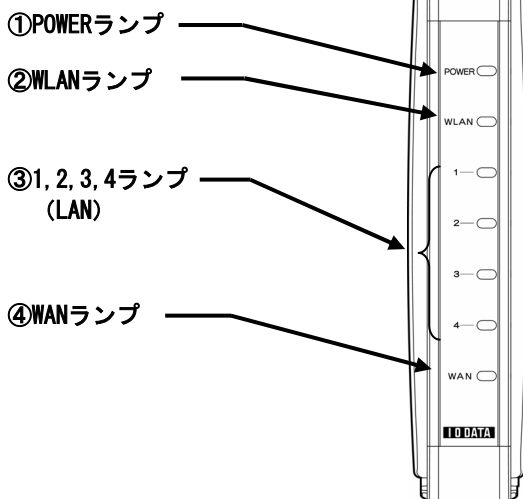
本製品添付のPCカードや【通信できる無線LAN機器】
（14ページ）を搭載したパソコンと通信できます。
（無線LANアダプタは、パソコンへ取り付け、
ドライバソフトなどをインストールしておきます。）

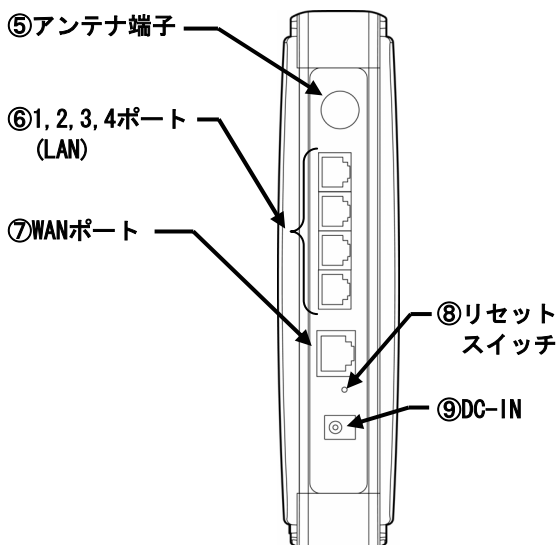
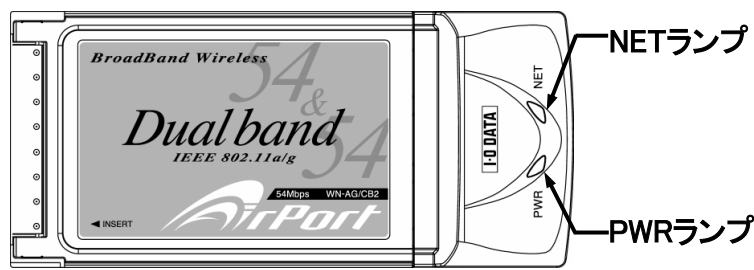
②：本製品を通してインターネットに接続する

プロバイダ指定のFTTH/ADSL/CATVモデムが必要です。
本製品の[WAN]ポート ⇔ FTTH/ADSL/CATVモデムを、LANケーブルで接続するとインターネットに接続できます。
※本製品を使用する場合、フレッツ接続ツールなどのPPPoEクライアント
　ソフトウェアは使用しません。

③：有線LAN接続する場合

LANポートを搭載したパソコンと接続できます。
（LANアダプタは、パソコンへ取り付け、ドライバ
　ソフトなどをインストールしておきます。
　パソコンによっては、初めからついているものもあります。）
本製品のLANポート([1]～[4])の数以上のパソコンを接続する場合は、
別途ハブとパソコンの台数分のLANケーブルが必要です。

各部のなまえとはたらき

■ブロードバンドルータ前面

前面		
名称	色	機能
①POWERランプ	緑	点灯：電源ON 消灯：電源OFF
②WLANランプ	緑	点灯：無線LANが有効の状態 点滅：無線LANアダプタと送受信中 消灯：無線LANが無効の状態
③1,2,3,4ランプ (LAN)	緑	点灯：有線LANが100BASE-TXで接続中 点滅：有線LAN(100BASE-TX)でデータを送受信中 消灯：LANポートのリンクが確立していない状態
	赤	点灯：有線LANが10BASE-Tで接続中 点滅：有線LAN(10BASE-T)でデータを送受信中 消灯：LANポートのリンクが確立していない状態
④WANランプ	緑	点灯：WAN側が100BASE-TXで接続中 点滅：WAN側(100BASE-TX)でデータを送受信中 消灯：WANポートのリンクが確立していない状態
	赤	点灯：WAN側が10BASE-Tで接続中 点滅：WAN側(10BASE-T)でデータを送受信中 消灯：WANポートのリンクが確立していない状態

■ブロードバンドルータ背面

背面	
名称	機能
⑤アンテナ端子	付属のアンテナを取り付けます。 ※付属のアンテナ以外を接続して使用すると、法律で罰せられることがあります。 ※WN-AG/BBRの場合は弊社製オプションアンテナ(別売)が使用できます。（製品型番：[WNO-G/NDF]、[WNO-AG/DF]）
⑥1,2,3,4ポート(LAN)	LANケーブルでパソコンやハブを接続します。 ※10Mbps/100Mbpsを自動判別します。また、LANクロスケーブル/LANストレートケーブルも自動判別します。
⑦WANポート	LANケーブルでFTTH/ADSL/CATVモデムを接続します。 ※10Mbps/100Mbpsを自動判別します。また、LANクロスケーブル/LANストレートケーブルも自動判別します。
⑧リセットスイッチ	本製品の設定を初期値に戻します。パスワードを忘れてしまった場合などに使用します。（【出荷時設定に戻す】122ページ参照）
⑨DC-IN	付属のACアダプタを接続します。

■PCカード

NET	PWR	状態 インフラストラクチャモード、アドホックモード共通
点滅		通信中 （通信量により、点滅速度が変わります。）
5秒ごとに 点滅	消灯	通信待機中 （通信可能な状態ですが、データの送受信は行われていません。）
交互にゆっくり点滅		PCカードに問題はありませんが、接続が確立されていません。
消灯		PCカード電源OFF （PCカードが通電していない。パソコンから取り外せる状態）

●**インフラストラクチャ(Infrastructure)モード**

無線LANアクセスポイント（無線LANブロードバンドルータ）経由で通信するモードです

●**アドホック(Ad hoc)モード**

無線LANアダプタ同士で通信するモードです。

設定準備をする

本製品を設定するための環境を作ります。

①つなぐ前に確認する

本製品と設定用パソコンをつなぐ前の確認をします。

☞ 22ページ

▼

②設定用パソコンをつなぐ

本製品と設定用パソコンをつなぎます。

☞ 27ページ

▼

③IPアドレスを設定する

設定用パソコンのIPアドレスを変更します。

☞ 35ページ

▼

④IPアドレスを確認する

設定用パソコンの変更したIPアドレスを確認します。

☞ 44ページ

▼

⑤設定画面を開く

本製品のWeb設定画面を開きます。

☞ 48ページ

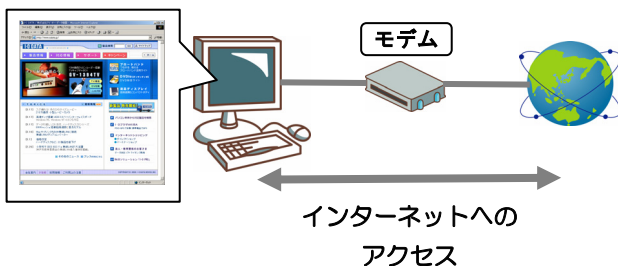
①つなぐ前に確認する

ここではまだ本製品を接続しないでください。

【①つなぐ前に確認する】の作業は、本製品を接続しない状態で行います。
本製品との接続は、【②設定用パソコンをつなぐ】で行います。

確認①　インターネット接続を確認する

FTTH/ADSL/CATVモデムとパソコンを直結して、インターネットに接続できることを確認します。

プロバイダからの資料にしたがって設定してください。
WEBブラウザを起動して、ホームページを表示できることをご確認ください。
接続方法は、プロバイダの資料にしたがってください。

インターネット接続を確認したら、パソコンとモデムを直結したまま【確認②　現在のIPアドレスを確認する】（次ページ）へお進みください。

確認② 現在のIPアドレスを確認する

ここではまだ本製品を接続しないでください。

【確認② 現在のIPアドレスを確認する】の作業も、本製品を接続しない状態で行います。
（パソコンとモデムを直結して行います。）

本製品を接続しない状態でのIPアドレスを記入してください。

IPアドレスの調べ方は、ページ下部の参照ページをご覧ください。

▼確認したIPアドレスを記入してください。

IPアドレス	. . .

※ここで確認したIPアドレスが **192.168.0.xxx** である場合、後でモデムと本製品を接続する前に、本製品のIPアドレスを変更する必要があります。詳しくは、54ページの参考をご覧ください。

IPアドレスを記入したら、【②設定用パソコンをつなぐ】（27ページ）へお進みください。

～IPアドレスの調べ方～
▼お使いのOSによって調べ方が異なります

●Windows XP/2000でのIPアドレスの調べ方

1 パソコンとモデムが、LANケーブルで直結されていることを確認します。
また、モデムの電源が入っていることも確認します。
ここでは、本製品を接続しないときのIPアドレスを確認します。

2 [コマンドプロンプト]を起動します。
⇒Windows XPの場合
［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。
⇒Windows 2000の場合
［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

3 IPCONFIGと入力し、[ENTER]キーを押します。

```
C:¥>IPCONFIG
```

4 IPアドレスを確認して、23ページに書き込みます。
※下記のアドレスは架空のものです。

```
IP Address .................... :202.███.10.1
Subnet Mask ................... :255.███.255.0
Default Gateway ............... :202.███.10.2
```

確認

5 EXIT　と入力後、[Enter]キーを押して画面を閉じます。

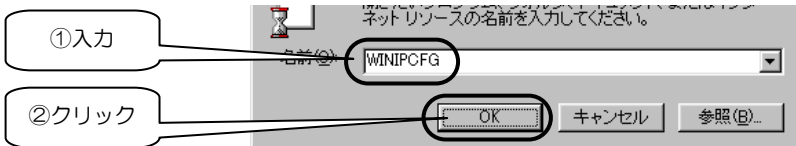
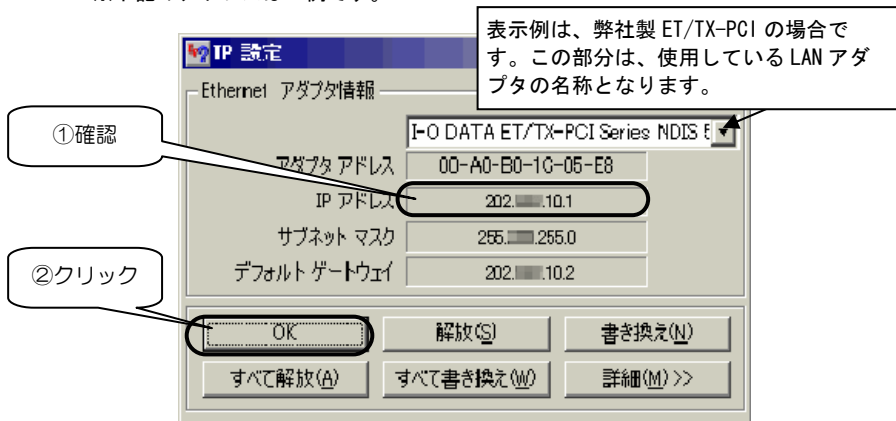
```
C:¥>EXIT
```

6 Windowsを終了し、パソコンからLANケーブルを抜きます。

●Windows Me/98 SEでのIPアドレスの調べ方

1 パソコンとモデムが、LANケーブルで直結されていることを確認します。
また、モデムの電源が入っていることも確認します。
ここでは、本製品を接続しないときのIPアドレスを確認します。

2 ［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックします。

3 ［名前］に WINIPCFG と入力し、［OK］ボタンをクリックします。

4 IPアドレスを確認して、23ページに書き込みます。
書き込んだら、[OK]ボタンをクリックします。
※下記のアドレスは一例です。

5 Windowsを終了して、パソコンからLANケーブルを抜きます。

●Mac OS X でのIPアドレスの調べ方

1. パソコンとモデムが、LANケーブルで直結されていることを確認します。
   また、モデムの電源が入っていることも確認します。
   ここでは、本製品を接続しないときのIPアドレスを確認します。

2. ［アップルメニュー］→［場所］→［ネットワーク環境設定］をクリックします。

3. ［表示：］でお使いのLANアダプタを選択します。

4. 表示されたIPアドレスを確認して、23ページに書き込みます。

5. Mac OSを終了して、パソコンからLANケーブルを抜きます。

●Mac OS（Classic）でのIPアドレスの調べ方

1. パソコンとモデムが、LANケーブルで直結されていることを確認します。
   また、モデムの電源が入っていることも確認します。
   ここでは、本製品を接続しないときのIPアドレスを確認します。

2. ［アップルメニュー］→［コントロールパネル］内の［TCP/IP］をクリックします。

3. ［経由先：］でお使いのLANアダプタを選択します。

4. 表示されたIPアドレスを確認して、21ページに書き込みます。

5. Mac OSを終了して、パソコンからLANケーブルを抜きます。

②設定用パソコンをつなぐ

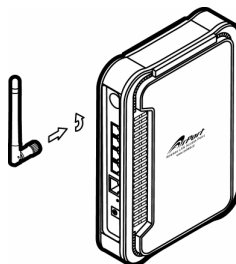
本製品をパソコンに接続し、設定用パソコンの準備をします。

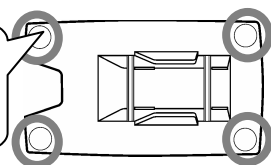
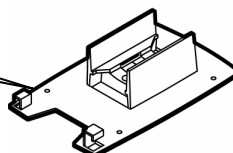
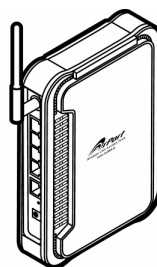
本製品を組み立てる

1 アンテナを取り付けます。

本製品背面のアンテナ端子に、添付のアンテナの根元を回して取り付けます。

※WN-AG/BBRの場合は弊社製オプションアンテナ(別売)が使用できます。
（製品型番：[WNO-G/NDF]、[WNO-AG/DF]）

アンテナは必ず専用
アンテナ（付属のもの）
をご使用ください。

2 本製品をスタンドに取り付けます。

①スタンド底面に添付のゴム足をつけます。
②スタンドに本製品を取り付けます。

注意！

本製品は縦置き専用です。横置きでのご利用はできません。

本製品をパソコンに接続する

ここではまだモデムを接続しないでください。

FTTH/ADSL/CATVモデムの接続は本製品の設定がすべて終了した後に行います。ここでは、本製品と設定用パソコンを１対１で接続してください。

設定用パソコンの種類を確認します。

設定は、有線LAN接続または無線LAN接続のどちらからでも行えます。

設定時のトラブルを避けるため、有線LANから設定することをおすすめします。

▼接続方法
設定するパソコンが有線LAN接続か無線LAN接続かで方法が異なります。

有線LAN接続のパソコンから設定する場合(推奨) …………次ページ
無線LAN接続のパソコンから設定する場合 ………………… 30ページ

本製品をパソコンに接続する（つづき）

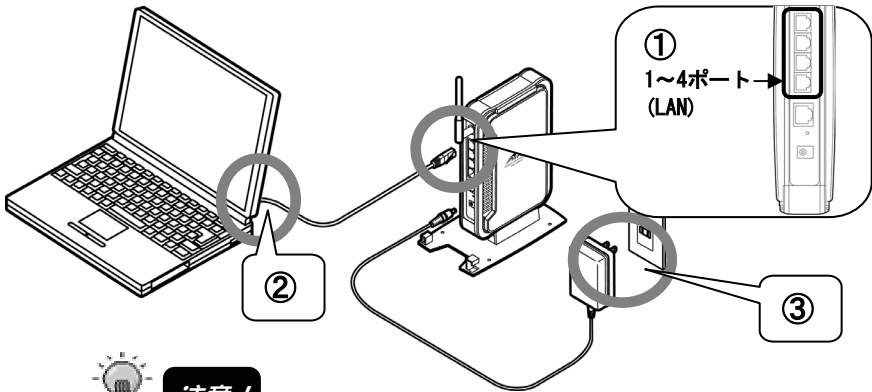
有線LAN接続のパソコンから設定する場合（推奨）

添付のACアダプタとLANケーブルを接続します。

①パソコンの電源を切った状態で、本製品の1～4ポート(LAN)のいずれかに添付のLANストレートケーブルをつなぎます。

②LANストレートケーブルをパソコンのLANポートにつなぎます。

③ACアダプタを本製品のDC-INにつなぎ、コンセントに接続します。

注意！

- ACアダプタは必ず添付のものをご使用ください。
- ACアダプタを抜いた後、再度挿す場合は5秒以上待ってください。

以上で取り付けは終了です。【③IPアドレスを設定する】（35ページ）へお進みください。

本製品をパソコンに接続する（つづき）

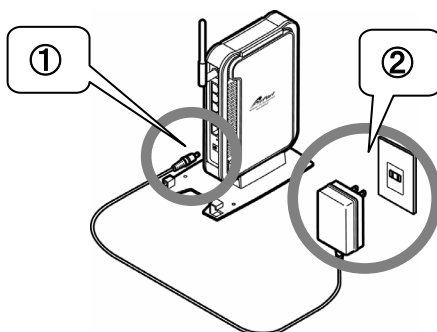
無線LAN接続のパソコンから設定する場合

注意！

有線 LAN 接続のパソコンから設定する場合は、無線 LAN の設定は必要ありません。
【③IP アドレスを設定する】（35 ページ）へお進みください。

1 添付のACアダプタのみを接続します。

①本製品のDC-INにACアダプタをつなぎます。

②ACアダプタをコンセントに接続します。

2 無線LANアダプタを設定します。

パソコン（無線LANアダプタ）側の設定を本製品の初期値（次ページ参照）と一致させます。設定方法は無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。また、32ページ以降の手順を参考にしてください。

注意！

- **ACアダプタは必ず添付のものをご使用ください。**
- **ACアダプタを抜いた後、再度挿す場合は5秒以上待ってください。**

無線LANアダプタの設定が完了したら、【③IPアドレスを設定する】（35ページ）へお進みください。

本製品をパソコンに接続する（つづき）

《パソコン(無線LANアダプタ)側の設定内容》

項目	本製品の初期値	無線LANアダプタ側で設定する値
通信モード	Infrastructure	［Infrastructure］（インフラストラクチャ)に設定
SSID (ESSID)	default	［default］に設定 ※大/小文字の区別あり
チャンネル	6 ch	設定の必要はありません。 ※インフラストラクチャモードで動作させる場合は、無線LANアダプタが本製品のチャンネルへ自動的に合わせるので設定の必要はありません。 ※弊社製無線LANアダプタでは、インフラストラクチャモードの場合、チャンネルを設定できない仕様となっています。
暗号キー (WEP Key)	無効	［無効］や［なし］などに設定

次ページ以降は、LANアダプタ側の設定例です。

WN-AG/CB2、WN-AG/CB、WN-G54/CBでの設定例・・・・・ 次ページ
Mac OS Xでの設定例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33ページ
Mac OS (Classic)での設定例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34ページ

《WN-AG/BBRのみのご注意》
本製品の初期状態で無線通信するためには、IEEE802.11g/bの無線LANアダプタのみ使用できます。
本製品の初期状態でのチャンネル設定がIEEE802.11g/b用のものであるため、IEEE802.11aの無線LANアダプタでは通信できませんのでご注意ください。

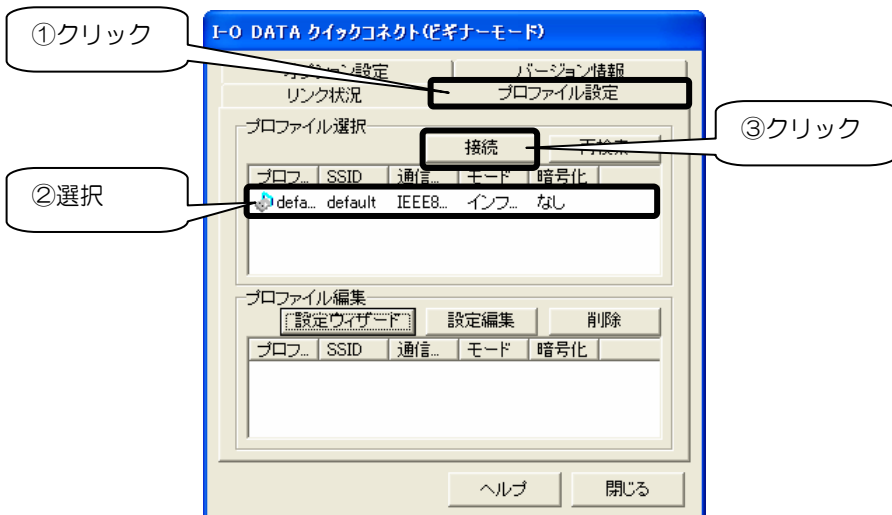
WN-AG/CB2、WN-AG/CB、WN-G54/CBでの設定例

PCカードのインストールを完了しておいてください。

ドライバ、クイックコネクトのインストールを完了してください。
※本製品添付のPCカード(WN-AG/CB2)の場合は、オンラインマニュアルをご覧ください。

1 **クイックコネクトを起動します。**

[スタート] → [すべてのプログラム] ([プログラム]) → [I-O DATA 無線LAN] → [クイックコネクト] を順にクリックします。

2 **[プロファイル設定] タブで、[SSID]が[default]であるプロファイルを選択して、[接続]ボタンをクリックします。**

これで、ブロードバンドルータに接続できます。

Mac OS Xでの設定例

1 メニューバーのAirMacアイコンをクリックし、[AirMacを入にする]を選択します。

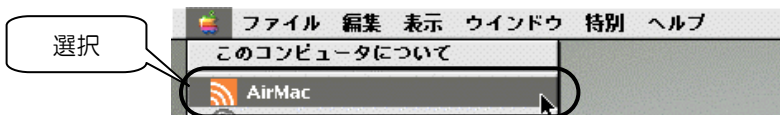
2 AirMacのメニューから［default］を選択します。

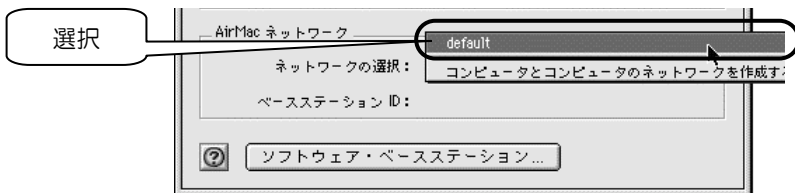
[default]は、本製品のSSID(初期値)です。SSIDは自動的に検索されます。

3 メニューバー上のAirMacアイコンがになっていることを確認します。

これで、ブロードバンドルータに接続できます。

Mac OS（Classic）での設定例

1　［アップルメニュー］→［AirMac］をクリックします。

2　［AirMacネットワーク］内の［ネットワークの選択］で［default］を選択します。

[default]は、本製品のSSID(初期値)です。SSIDは自動的に検索されます。

3　［状況］内にSSID（default）と信号レベルが表示されていることを確認します。

これで、ブロードバンドルータに接続できます。

③IPアドレスを設定する

設定用パソコンのIPアドレスを、自動的に取得する設定（[IPアドレスを自動的に取得]、[DHCPサーバーから取得］など）に設定します。

～IPアドレスの設定変更～
▼お使いのOSによって設定方法が異なります

Windows XPの場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 次ページ

Windows 2000の場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38ページ

Windows Me/98 SEの場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40ページ

Mac OS Xの場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42ページ

Mac OS (Classic)の場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43ページ

Windows XPでIPアドレスを設定する

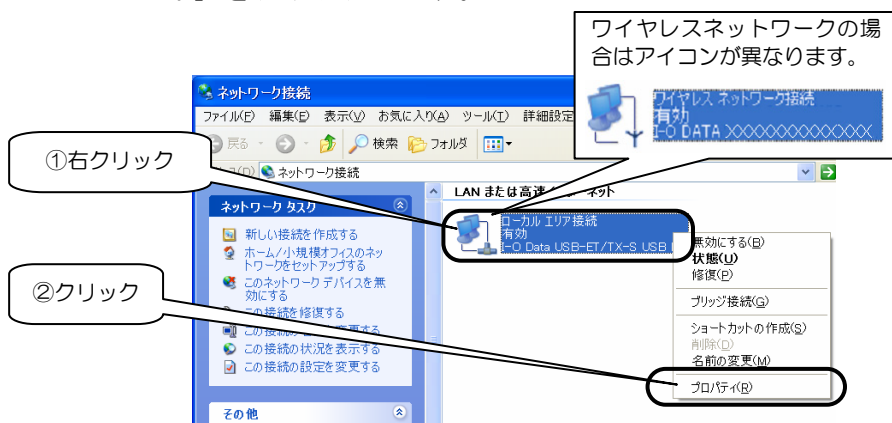
1 パソコンの電源を入れ、コンピュータの管理者のアカウントでログオンします。

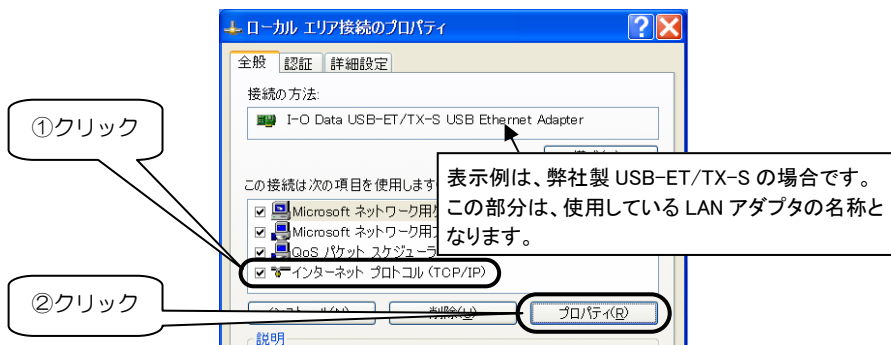
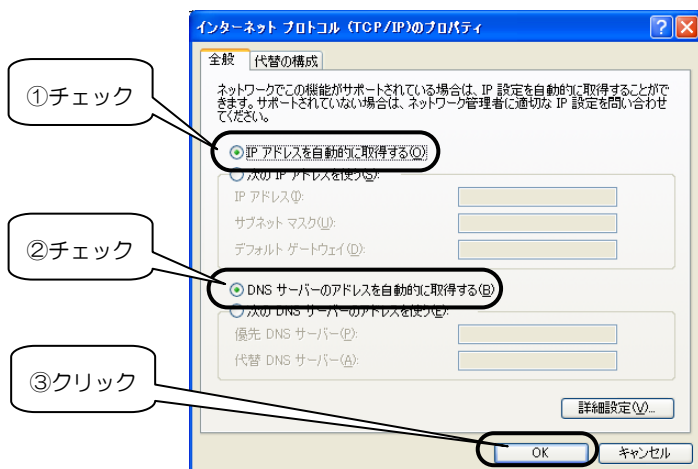
2 [スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。

3 [ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

[クラシック表示]の場合は、[ネットワーク接続]アイコンをダブルクリックして手順*5*へお進みください。

4 [ネットワーク接続]をクリックします。

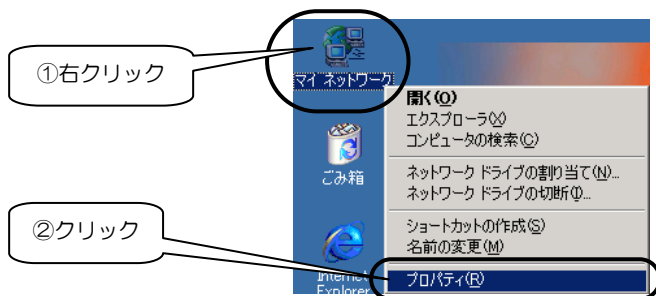
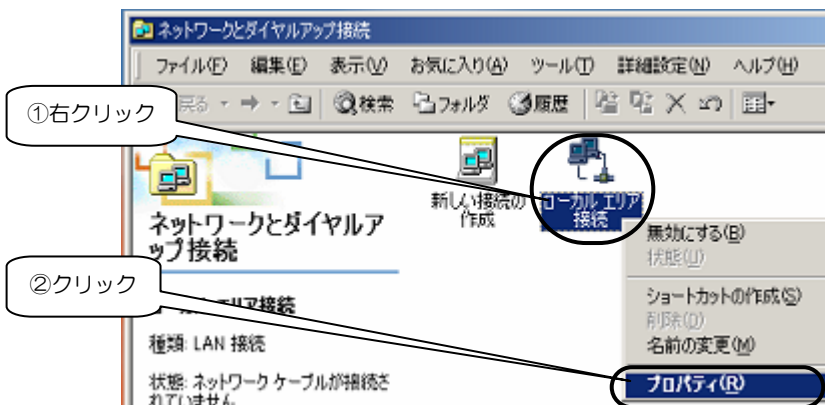
5 ［ローカルエリア接続］（無線LANの場合は、[ワイヤレスネットワーク接続]）を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

Windows XPでIPアドレスを設定する（つづき）

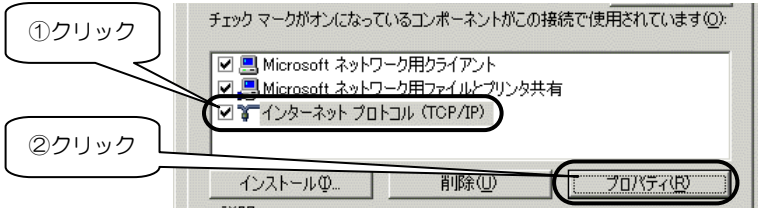
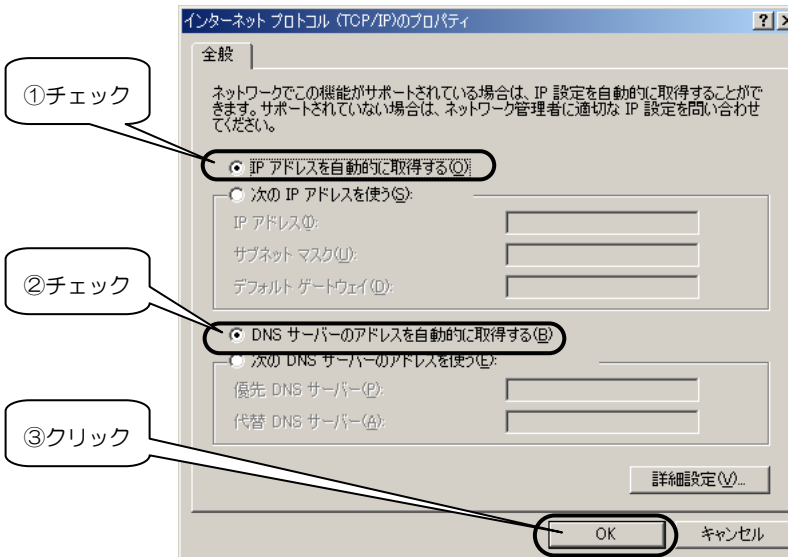
6 ［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

7 ［IPアドレスを自動的に取得する］と［DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する］にチェックして、［OK］ボタンをクリックします。

8 すべての画面を閉じて、パソコンを再起動します。

【④IPアドレスを確認する】（44ページ）へお進みください。

Windows 2000でIPアドレスを設定する

1 パソコンの電源を入れ、Administrators権限で Windows 2000にログオンします。

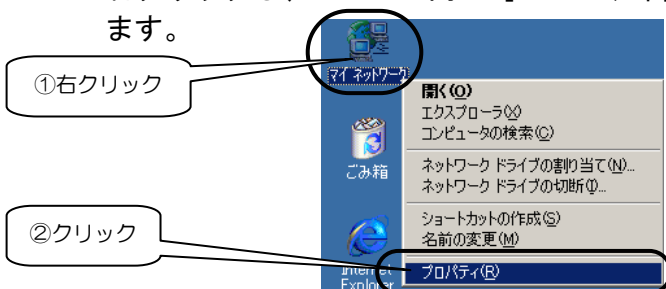
2 ［マイネットワーク］を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

3 ［ローカルエリア接続］を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

Windows 2000でIPアドレスを設定する（つづき）

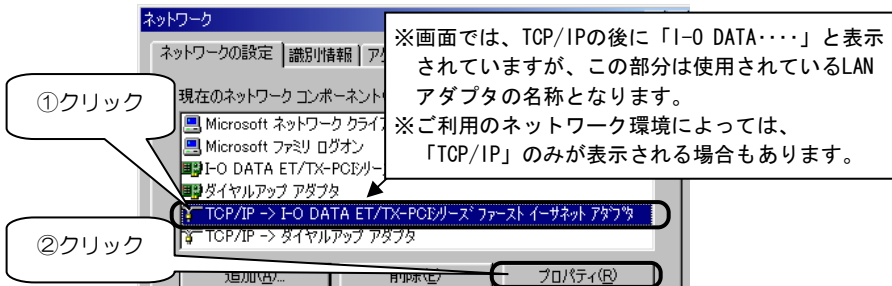
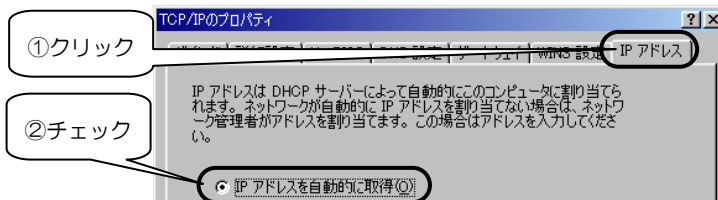
4 ［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

5 ［IPアドレスを自動的に取得する］をチェックし、［DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する］をチェック後、［OK］ボタンをクリックします。

6 すべての画面を閉じて、パソコンを再起動します。

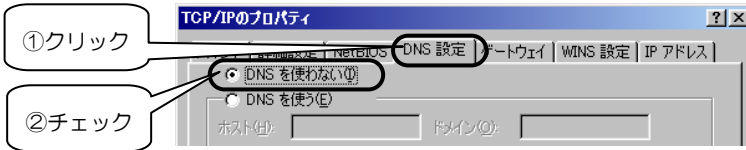
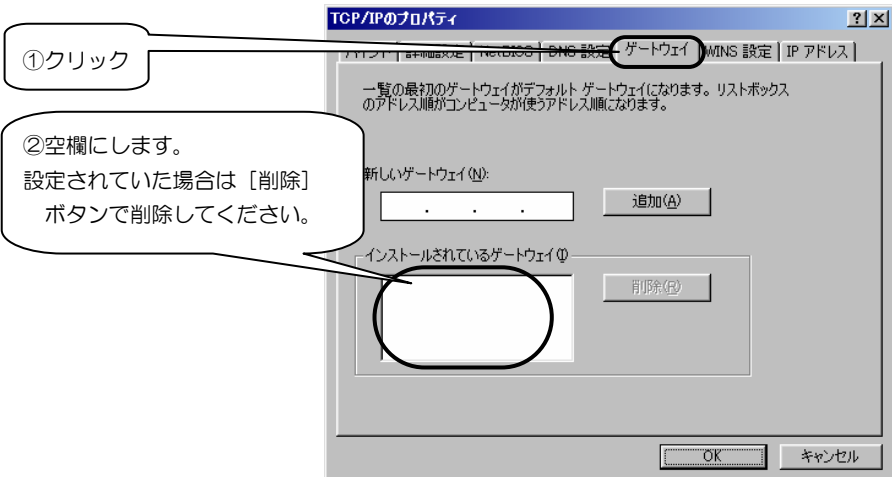
【④IPアドレスを確認する】（44ページ）へお進みください。

Windows Me/98 SEでIPアドレスを設定する

1 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動します。

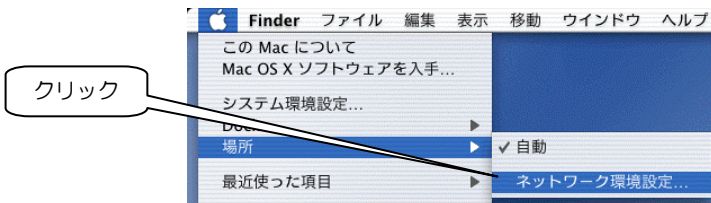
2 ［マイネットワーク］（または［ネットワークコンピュータ］）を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

3 ［TCP/IP］（あるいは［TCP/IP -> xxxxxxx］）をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

※アダプタが複数ある場合、[TCP/IP―>xxxxxxxx]と表示されます。

4 ［IPアドレス］タブをクリックして、［IPアドレスを自動的に取得］をチェックします。

Windows Me/98 SEでIPアドレスを設定する（つづき）

5 ［DNS設定］タブをクリック後、[DNSを使わない]をチェックします。

6 ［ゲートウェイ］タブをクリック後、すでに設定されているゲートウェイがある場合は、［削除］ボタンで設定を削除してください。

7 ［OK］ボタンをクリック後、パソコンを再起動します。

【④IPアドレスを確認する】（44ページ）へお進みください。

Mac OS XでIPアドレスを設定する

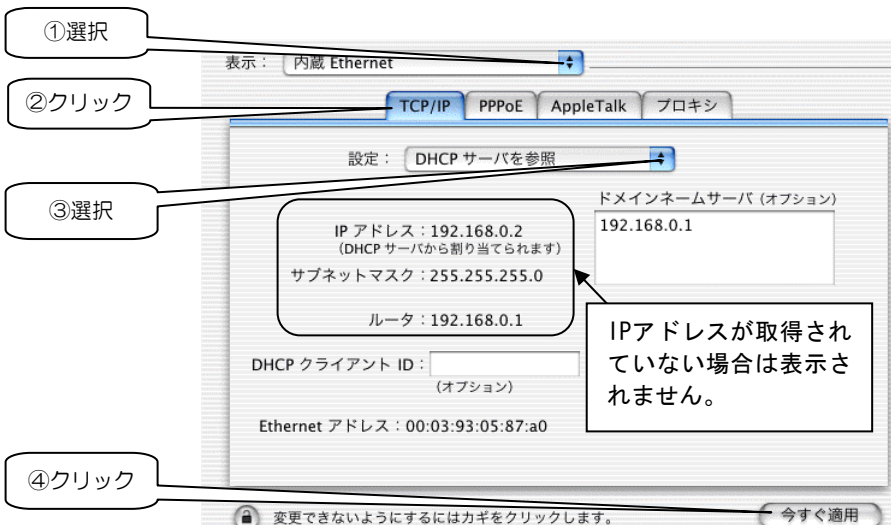
1 [場所]→[ネットワーク環境設定]をクリックします。

2 ネットワーク環境設定をします。

①[表示]で、ご使用のLANアダプタ（内蔵Ethernet、AirMacなど）を選びます。

②[TCP/IP]をクリックします。

③[設定]で[DHCPサーバを参照]を選びます。

④[今すぐ適用]をクリックします。

①選択
表示： 内蔵 Ethernet
②クリック
TCP/IP PPPoE AppleTalk プロキシ
設定： DHCP サーバを参照
③選択
ドメインネームサーバ（オプション）
192.168.0.1
IP アドレス：192.168.0.2
（DHCP サーバから割り当てられます）
サブネットマスク：255.255.255.0
ルータ：192.168.0.1
IPアドレスが取得されていない場合は表示されません。
DHCP クライアント ID：
（オプション）
Ethernet アドレス：00:03:93:05:87:a0
④クリック
変更できないようにするにはカギをクリックします。
今すぐ適用

【⑤設定画面を開く】（48ページ）へお進みください。

※Mac OSでは、IPアドレスの確認は不要です。

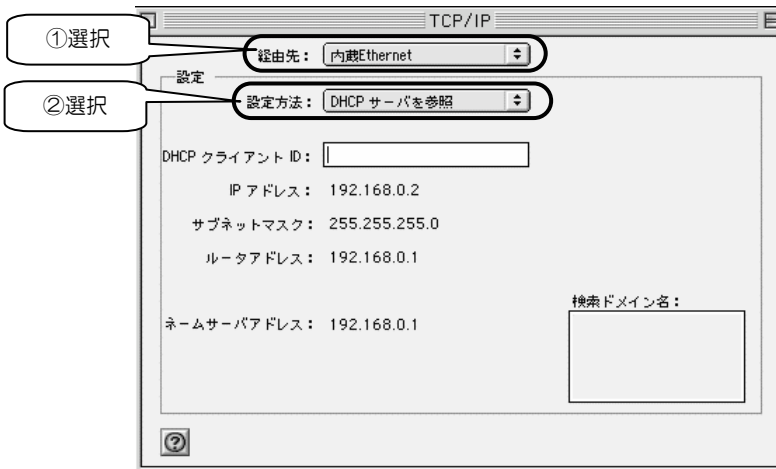
Mac OS(Classic)でIPアドレスを設定する

1 [アップルメニュー] → [コントロールパネル] 内の[TCP/IP] をクリックします。

2 ネットワーク環境設定をします。

①[経由先]で、ご使用のLANアダプタ（内蔵Ethernet、AirMacなど）を選びます。

②[設定方法]で[DHCPサーバを参照]を選びます。

③画面を閉じます。

【⑤設定画面を開く】（48ページ）へお進みください。

※Mac OSでは、IPアドレスの確認は不要です。

④IPアドレスを確認する

設定用パソコンのIPアドレスが正しく取得できているかを確認します。
Mac OSの場合は、【③IPアドレスを設定する】内の手順*2*で確認できます。

～IPアドレスの調べ方～
▼お使いのOSによって設定方法が異なります

Windows XP/2000でIPアドレスを確認する

1 [コマンドプロンプト]を起動します。

・Windows XPの場合
［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

・Windows 2000の場合
［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

2 IPCONFIG　-ALL　と入力し、[ENTER]キーを押します。
（「G」と「-」の間には、半角スペースが入ります。）

```
C:¥>IPCONFIG -ALL
```

Windows XP/2000でIPアドレスを確認する（つづき）

3 それぞれの値が下記のようになっていることを確認します。

①	IP Address	192.168.0.xxx　（xxx は2～32）
②	Subnet Mask	255.255.255.0
③	Default Gateway	192.168.0.1
④	DHCP Server	192.168.0.1
⑤	DNS Servers	192.168.0.1

正常に［IP Address］が取得（表示）されていない場合は…

【困った時には】の144 ページをご覧ください。

① ［IP Address］…本製品から割り当てられたパソコンの IP アドレス値
② ［Subnet Mask］…本製品から割り当てられたパソコンのサブネットマスク値
③ ［Default Gateway］…本製品から割り当てられたパソコンのデフォルトゲートウェイ値（本製品の IP アドレスです。）
④ ［DHCP Server］…本製品から割り当てられたパソコンの DHCP サーバ値（本製品の IP アドレスです。）
⑤ ［DNS Servers］…本製品から割り当てられたパソコンの DNS サーバ値（本製品の IP アドレスです。プロバイダへ接続後に IP アドレスを取得した場合は、プロバイダの DNS アドレスが割り当てられます。）

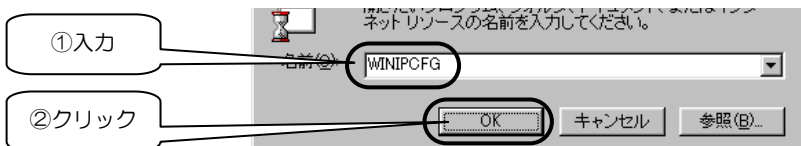
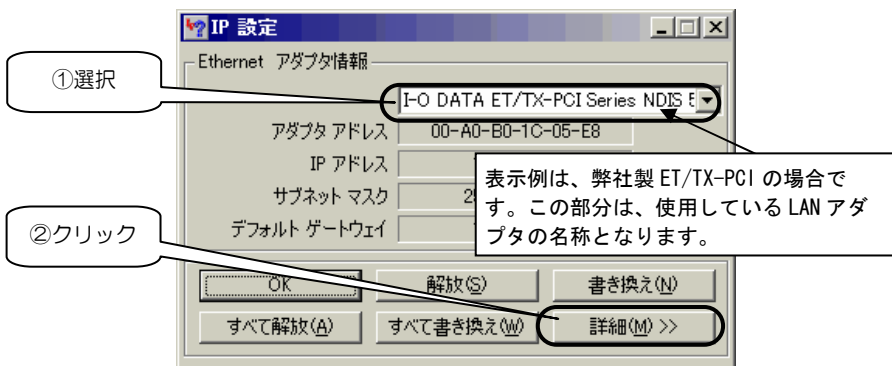
4 EXIT　と入力後、[Enter]キーを押して画面を閉じます。

```
C:¥WINDOWS>EXIT
```

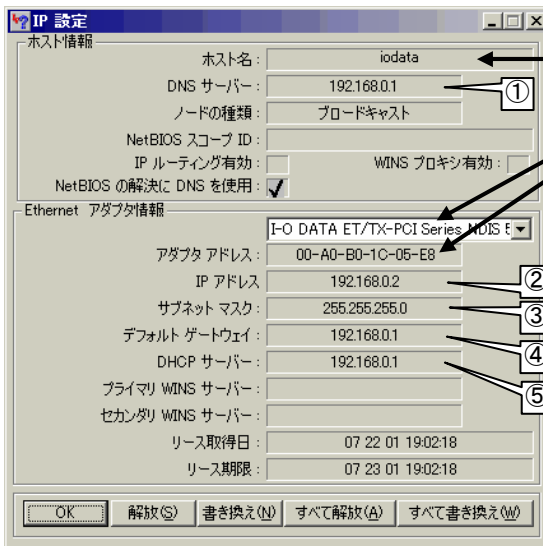
【⑤設定画面を開く】（48ページ）へお進みください。

Windows Me/98 SEでIPアドレスを確認する

1 ［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックします。

2 ［名前］に WINIPCFG と入力し、［OK］ボタンをクリックします。

3 お使いのLANアダプタを選択し、［詳細］ボタンをクリックします。

4 それぞれの値が下記のようになっていることを確認します。

①	DNSサーバー	192.168.0.1
②	IPアドレス	192.168.0.xxx　（xxx は2～32）
③	サブネットマスク	255.255.255.0
④	デフォルトゲートウェイ	192.168.0.1
⑤	DHCPサーバー	192.168.0.1

Windows Me/98 SEでIPアドレスを確認する(つづき)

正常に IP アドレスが取得（表示）されていない場合は…

【困ったときには】の144 ページをご参照ください。

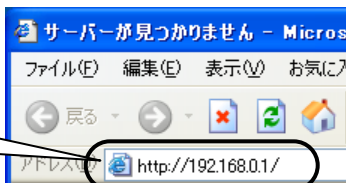
上記の①～⑤の値はすべて本製品から割り当てられた値（アドレス）です。
上記①、④、⑤は本製品の IP アドレスの値です。ただし、①の値は、プロバイダへ接続後に IP アドレスを取得した場合は、プロバイダの DNS アドレスが割り当てられます。

5 ［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じます。

【⑤設定画面を開く】（次ページ）へお進みください。

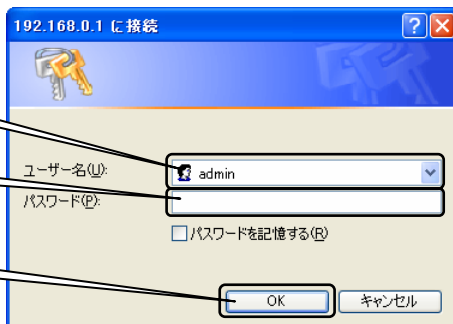
⑤設定画面を開く

本製品を設定するためのメニュー画面を起動します。

1 Webブラウザを起動して以下を開きます。
「http://192.168.0.1/」

注意！

上記 IP アドレスは、本製品内部にある設定画面を呼び出す IP アドレスです。本製品がパソコンに LAN 接続されていれば（インターネットに接続されていなくても）呼び出すことができます。

2 以下の画面が表示されますので、下記のように入力して、[OK] ボタンをクリックします。

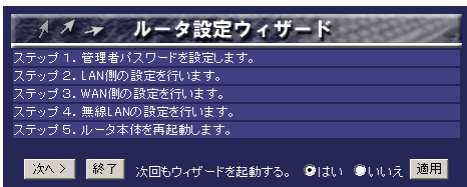
ユーザー名： admin
パスワード： （入力なし）

参考

パスワードは管理者以外が設定できないようにしたり、誤って設定したりすることを防ぐためのものです。出荷時のパスワードは［空白］ですが、後で変更することをおすすめします。変更方法の詳細は、71 ページを参照してください。

【困った時には】の
137 ページを
ご参照ください。

3 以下の画面が表示された場合は、内容を確認後、［はい］ボタンをクリックします。

4 設定ウィザードと設定画面が表示されます。
この画面から各種設定を行います。

▼設定ウィザード

▼設定画面

【インターネットに接続する】（51ページ）へお進みください。

設定ウィザードは一度設定したことがある場合でも、次回設定画面を開いた際に起動します。設定ウィザードを使用しない場合は、[終了]ボタンをクリックし、「設定を行わずにセットアップ終了しますか？」というメッセージで、[OK]ボタンをクリックします。

インターネットに接続する

インターネットに接続するための設定をします。

接続回線を確認する

インターネットに接続する際の回線を確認します。
接続する回線によって、設定方法が異なります。

☞ 52ページ

インターネットに接続する

本製品の設定ウィザードを使用して、インターネットに接続するための設定をします。

☞ 53ページ

接続回線を確認する

接続する回線により手順が異なりますので、インターネット接続を行うための接続回線を確認しておいてください。

●お使いの接続回線はどのタイプ？

下記の4種類の接続のうち、あてはまるタイプにチェックを付けてください。
タイプにより設定方法が異なります。

□	Aタイプ	**IPアドレス自動取得接続(DHCPクライアント)** プロバイダ例）一般的なCATV、アッカネットワークス、eAccess、Yahoo! BBなど

・PPPoE認証は行わない
・プロバイダからIPアドレスを自動で取得する

□	Bタイプ	**IPアドレス固定設定接続** プロバイダ例）一部のCATVなど

・PPPoE認証は行わない
・プロバイダから固定のIPアドレスを指定されている

□	Cタイプ	**PPPoE認証によるIPアドレス自動取得接続** プロバイダ例）フレッツシリーズ(NTT東日本、西日本)、一般的なFTTH(光ファイバ)サービスなど

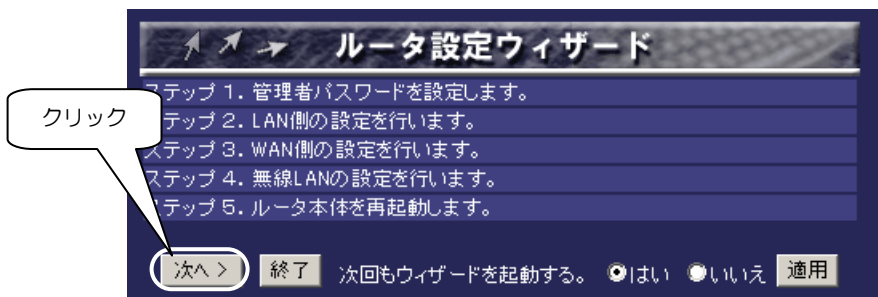
・PPPoE認証で接続する
・プロバイダからIPアドレスを自動で取得する

□	Dタイプ	**PPPoE認証によるIPアドレス固定設定接続** プロバイダ例）複数のIPアドレスを割り当てるサービスなど

・PPPoE認証で接続する
・プロバイダから固定のIPアドレスを指定されている

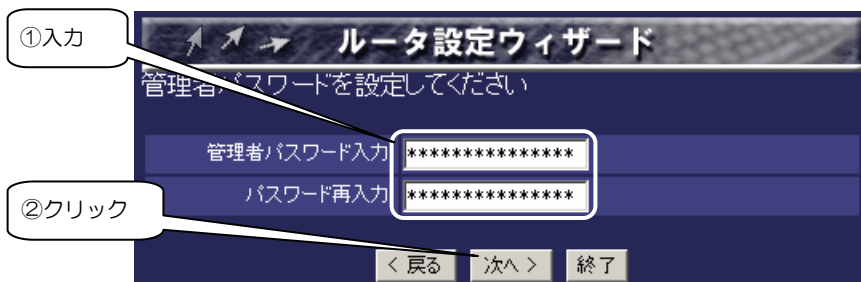
インターネットに接続する

①設定ウィザードで設定する

1 48ページの【⑤設定画面を開く】で開いた設定ウィザードで、［次へ］ボタンをクリックします。

2 管理者パスワードを設定します。

①すでに入力済みの ＊ を削除して、[管理者パスワード入力]と[パスワード再入力]に同じパスワード（15文字まで）を入力します。（パスワードを設定しない場合は、入力しないでください。）

※設定したパスワードは忘れないようにしてください。

②[次へ]ボタンをクリックします。

3 変更せずに、[次へ]ボタンをクリックします。

【①つなぐ前に確認する】内の23ページで記入したIPアドレスが、

192.168.0.xxx の場合は、下の参考をご覧ください。

23 ページで確認した IP アドレスが 192.168.0.xxx だった場合

次の手順にしたがって、本製品の IP アドレスを変更してください。

①IPアドレス欄に **192.168.254.1** と入力します。

②[DHCPサーバ]を[有効]に設定する場合、次のように入力します。

［開始IPアドレス］ **192.168.254.2**

［終了IPアドレス］ **192.168.254.32**

③[次へ]ボタンをクリックします。

この後本書内で、192.168.0.1と表記されているところは、192.168.254.1と読み替えてください。

4 接続方式を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

【接続回線を確認する】(52ページ)で確認したタイプにより、下記のように選択します。選択する接続方式により設定が異なります。

タイプ	選択する接続方式
Ａタイプ	【IPアドレス自動取得接続(DHCPクライアント)】
Ｂタイプ	【IPアドレス固定設定接続】
Ｃタイプ	【PPPoE認証によるIPアドレス自動取得接続】
Ｄタイプ	【PPPoE認証によるIPアドレス固定設定接続】

●【Bタイプ：IPアドレス固定設定接続】の場合

プロバイダからの資料にしたがって、下記を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。画面は設定例（架空のアドレス）です。

項目	説明
IPアドレス	プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。
サブネットマスク	プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。
デフォルトゲートウェイ	プロバイダから指定されたデフォルトゲートウェイを入力します。
DNS(ネーム)サーバアドレスプライマリ	プロバイダから指定されたDNS(ネーム)サーバアドレスプライマリを入力します。
DNS(ネーム)サーバアドレスセカンダリ	プロバイダから指定されたDNS(ネーム)サーバアドレスセカンダリを入力します。

[次へ]ボタンをクリックして手順*5*（59ページ）へお進みください。

●【Cタイプ：PPPoE認証によるIPアドレス自動取得接続】の場合

プロバイダからの資料にしたがって、下記を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。画面は設定例（架空のアドレス）です。

項目	説明
接続ユーザー名	プロバイダから指定された接続ユーザー名を入力します。（NTTフレッツシリーズの場合は、@から後ろもすべて入力します。）
接続パスワード	プロバイダから指定されたパスワードを入力します。（すでに入力済みの ＊ を削除して入力します。）
パスワード再入力	確認のため、再度パスワードを入力します。（すでに入力済みの ＊ を削除して入力します。）

[次へ]ボタンをクリックして手順*5*（59ページ）へお進みください。

●【Dタイプ：PPPoE認証によるIPアドレス固定設定接続】の場合

プロバイダからの資料にしたがって、下記を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。画面は設定例（架空のアドレス）です。

項目	説明
接続ユーザー名	プロバイダから指定された接続ユーザー名を入力します。（NTTフレッツシリーズの場合は、@から後ろもすべて入力します。）
接続パスワード	プロバイダから指定されたパスワードを入力します。（すでに入力済みの ＊ を削除して入力します。）
パスワード再入力	確認のため、再度パスワードを入力します。（すでに入力済みの ＊ を削除して入力します。）
IPアドレス	プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。

[次へ]ボタンをクリックして手順*5*（59ページ）へお進みください。

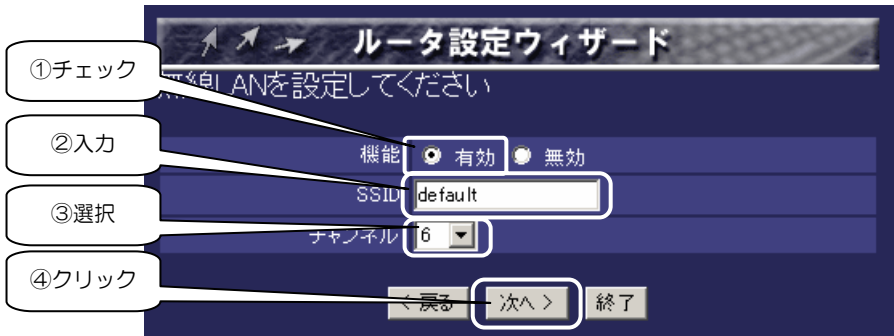
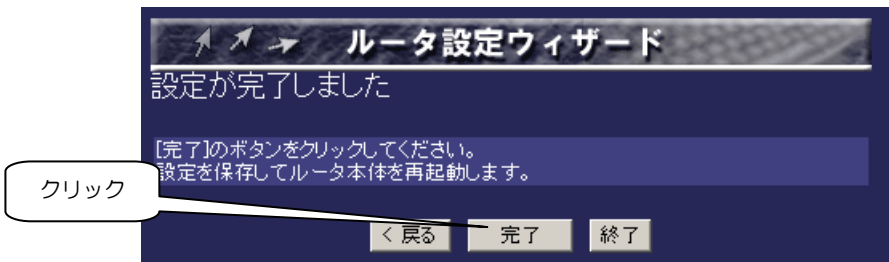
5 無線LANの設定をします。（詳しくは、75ページをご覧ください）

①[有効]にチェックを付けます。

②[SSID]にお好きな名前を入力します。（半角英数32文字まで）

③チャンネルを設定します。（61ページの参考をご覧ください。）

> WN-AG/BBRの場合、無線通信規格（IEEE802.11g/bかIEEE802.11a）の切り替えはチャンネルで行います。
>
> ※ IEEE802.11g/b と IEEE802.11a を同時に利用する通信はできません。（排他利用）
>
> ・IEEE802.11g/b ⇒ 1～13ch
>
> ・IEEE802.11a ⇒ 34/38/42/46ch

④[次へ]ボタンをクリックします。

6 [完了]ボタンをクリックします。

7 [閉じる]をクリックし、OSを終了します。

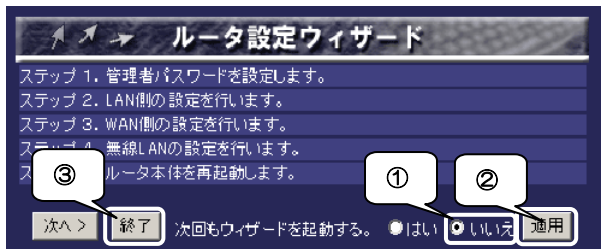
いったん、パソコンの電源を切ってください。

クリック

設定された内容は正常に保存されました。

閉じる

無線LANから設定していて、手順5にて[SSID]や[チャンネル]を変更した場合は、この時点でブロードバンドルータとの通信は切れます。
この場合は、無線LANアダプタの[SSID]や[チャンネル]を手順5で設定した値に合わせてください。

下記の方法で次回よりウィザードを起動させないようにできます。
①[次回もウィザードを起動する。] の [いいえ] にチェックをつけます。
②[適用]ボタンをクリックします。
③[終了]ボタンをクリックして、ウィザードを終了します。

次回ウィザードを起動する場合は、
設定画面の[ウィザード]をクリックしてください。

【②本製品をモデムに接続する】(63ページ)へお進みください。

WN-AG/BBR では、無線通信規格をチャンネルの選択によって切り替えます。
以下を参考にして、ご使用の環境に適した無線通信規格（周波数帯域）をお選びください

●5.2GHz 帯（IEEE802.11a）の無線で選択するチャンネル

5.2GHz 帯の無線では、34ch、38ch、42ch、46ch から選択できます。
電子レンジやアマチュア無線、普及率の高い IEEE802.11b 無線機器などでは、使用しない帯域であるため、マンションなどの集合住宅やオフィスといった電波の混信を起こしやすい環境で、より安定した高速通信ができます。
複数の無線ネットワークを使用する場合、隣り合ったチャンネルでも、干渉することはありませんが、同一チャンネルに設定すると通信にロスを生じます。
電波到達範囲内で複数の無線ネットワークが存在する場合は、別のチャンネルに設定することをおすすめします。

▼無線LANチャンネル一覧（5.2GHz帯の場合）
（例：34チャンネルの場合、5161～5179MHzの帯域を使用します。）

34チャンネル	38チャンネル	42チャンネル	46チャンネル
(5170MHz)	(5190MHz)	(5210MHz)	(5230MHz)
5161 ～ 5179	5181 ～ 5199	5201 ～ 5219	5221 ～ 5239

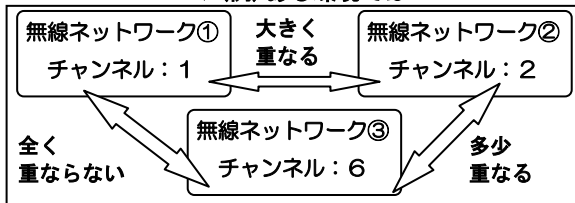
5150MHz ◀――――▶ 5250MHz

（次ページへつづく）

●2.4GHz 帯（IEEE802.11g/b）の無線で選択するチャンネル

2.4GHz 帯の無線では 1～13 ch まで選択できます。（一部製品では 1～14 ch まで）
一般に IEEE802.11a より電波到達エリアが広いため、より広いエリアで高速無線通信をするのに適しています。また、IEEE802.11g と IEEE802.11b は互換性があるため、双方の機器を混在させて使用することができます。
複数の無線ネットワークを使用する場合、隣り合ったチャンネルは、電波の帯域が重なるため通信にロスを生じます。
電波到達範囲内で複数の無線ネットワークが存在する場合は、下の表をご覧になり、帯域が重ならないように設定することをおすすめします。
また、14ch（2473～2495MHz）は、IEEE802.11、IEEE802.11b で使用されている可能性がありますので、重ならないように設定することをおすすめします。
例）無線ネットワークが 3 つある場合は、それぞれ 1,6,11 チャンネルに設定

▼無線LANチャンネル一覧（2.4GHz帯の場合）
（例：１チャンネルの場合、2401～2423MHzの帯域を使用します。）

▼(例)ある環境では

②本製品をモデムに接続する

1 モデム、本製品、パソコンの電源をすべて切ります。

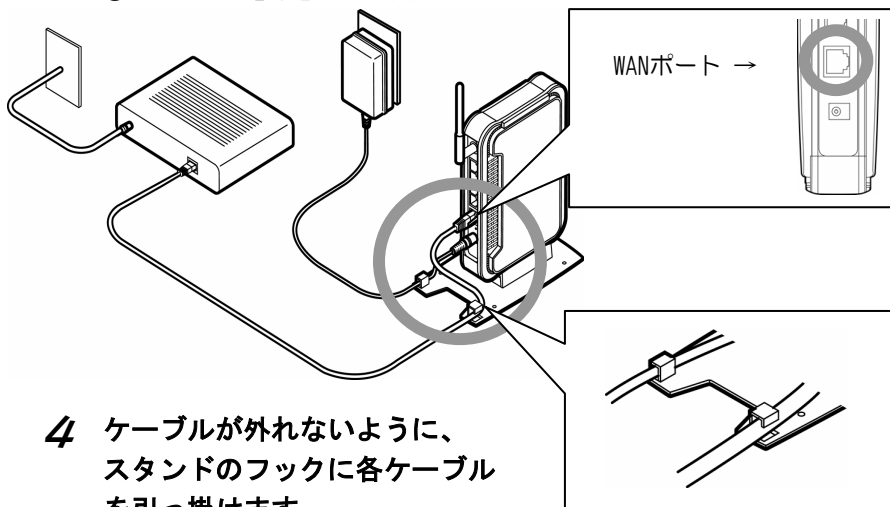
2 本製品背面の[WAN]ポートにモデムのLANケーブルを接続します。

3 モデム⇒本製品⇒パソコンの順に電源を入れます。

①モデムの電源を入れます。（モデムの取扱説明書を参照）

②本製品[DC-IN]にACアダプタを接続し、コンセントにつなぎます。

⇒しばらくして、本製品の[POWER]ランプと[WAN]ランプが点灯します。

③パソコンの電源を入れます。

4 ケーブルが外れないように、スタンドのフックに各ケーブルを引っ掛けます。

LAN ケーブルを接続してから AC アダプタを接続してください。AC アダプタを接続した後に LAN ケーブルを接続すると、本製品を正しく使用できません。

【③インターネット接続を確認する】（次ページ）へお進みください。

③インターネット接続を確認する

1 Webブラウザを起動し、設定画面を開きます。

2 設定画面の[ステータス]をクリックします。 ステータス

3 [デバイス情報]をクリックし、[WANポート]の項目を確認します。【接続回線を確認する】(52ページ)で確認したタイプによって確認項目が異なります。

Ａタイプ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 下記
Ｂタイプ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 次ページ
Ｃ、Ｄタイプ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 次ページ

Bタイプ：【IPアドレス固定設定接続】の場合

▼[IPアドレス]に、正しいIPアドレスが表示されていることを確認します。

WANポート	
MACアドレス	
接続	手動設定
IPアドレス	
サブネット マスク	
デフォルト ゲートウェイ	
DNS(ネーム)サーバ	

これで設定は完了です。インターネットをお楽しみください。

●[IPアドレス]に、正しいIPアドレスが表示されていない場合は、【困った時には】の(148ページ)をご覧ください。

Cタイプ：【PPPoE認証接続によるIPアドレス自動取得接続】の場合
Dタイプ：【PPPoE認証接続によるIPアドレス固定設定接続】の場合

▼[接続]が、**[PPPoE接続中]**になっていることを確認します。

これで設定は完了です。インターネットをお楽しみください。

▼[接続]が、**[PPPoE未接続]**となっている場合は、【困った時には】の(147ページ)をご覧ください。

他の設定をする

有線設定をする（有線設定）

IPアドレスの設定、パスワードの設定、時刻設定などを行います。

☞ 68ページ

無線設定をする（無線設定）

無線設定、暗号化(WEP)設定などを行います。

☞ 75ページ

現在の状態を確認する（ステータス）

本製品のステータス、ログなどを確認できます。

☞ 84ページ

ルーティングを設定する（ルーティング）

ルーティングの設定ができます。

☞ 90ページ

接続制限をする（アクセス制御）

MACフィルタ、ポートフィルタ、仮想サーバなどの設定ができます。

☞ 94ページ

本体管理をする（管理設定）

セキュアホスト、UPnPなどの設定ができます。

☞ 111ページ

設定の管理をする（メンテナンス）

設定保存や初期化、ファームウェアのバージョンアップなどができます。

☞ 113ページ

有線設定をする(有線設定)

主にIPアドレス変更などの有線関連の設定ができます。

LAN側設定

[LAN側設定]では本製品のLAN側IPアドレスの設定やDHCPサーバの動作設定を行うことができます。
また本製品のDHCPサーバが割り当てたIPアドレスのリストを参照することができます。

項目	説明
ホスト名	本製品のネットワーク上での名前を入力します。 プロバイダからコンピュータ名が指定されている場合には指定のコンピュータ名を入力します。
IPアドレス	本製品のIPアドレスを入力します。 初期値：192.168.0.1
サブネットマスク	本製品のサブネットマスクを入力します。 初期値：255.255.255.0
DHCPサーバ機能	有効：本製品のLANポート([1]～[4])に接続したパソコンのIPアドレスを自動的に割り当てます。 無効：DHCP機能を使用しません。 初期値：有効
開始IPアドレス	DHCPサーバ機能を有効にした場合に、割り当てるIPアドレス範囲の最初のIPアドレスを指定します。 初期値：192.168.0.2
終了IPアドレス	DHCPサーバ機能を有効にした場合に、割り当てるIPアドレス範囲の最後のIPアドレスを指定します。最大253個まで割り当てられます。 初期値：192.168.0.32
ドメイン名	必要に応じてドメイン名を入力します。 設定したドメイン名がクライアントへ割り当てられます。
リース時間	DHCPサーバからクライアントに割り当てたIPアドレスの有効期限を設定します。1/2/3時間、1/2/3日、1週間の中から選択してください。初期値：1日

ページ下部には本製品が割り当てたパソコンのコンピュータ名、IPアドレス、LANアダプタのMACアドレスのリストが表示されます。

ボタン	説明
設定	設定内容を反映するため、本製品を再起動します。設定内容を製品に反映します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

WAN側設定(IPアドレス自動取得/固定設定接続)

[WAN側設定]では本製品のWAN側ネットワークの接続形態を設定できます。
[IPアドレス自動取得/固定設定接続]ではユーザ認証(PPPoE認証)を行わずにIPアドレスを割り当てるプロバイダの場合に使用します。

項目	説明
接続方法	プロバイダへの接続方法を指定します。 [IPアドレス自動取得/固定設定接続]ではユーザ認証作業(PPPoE認証)を行わずにIPアドレスを割り当てが可能なプロバイダの場合に選択します。
IPアドレス	IPアドレス自動取得：プロバイダがIPアドレスを自動的に割り当てる形式の場合に選択します。 IPアドレス固定設定：プロバイダから固定のIPアドレスを割り当てられている場合に選択します。
DNS(ネーム)サーバ プライマリ	プロバイダから指定されている場合はここにDNSサーバアドレスを入力してください。
DNS(ネーム)サーバ セカンダリ	プロバイダから２つDNSサーバアドレスが指定されている場合は２つ目のDNSサーバアドレスをここに入力してください。

ボタン	説明
設定	設定内容を反映するため、本製品を再起動します。設定内容を製品に反映します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

WAN側設定(PPPoE認証接続)

[WAN側設定]では本製品のWAN側ネットワークの接続形態を設定できます。
[PPPoE認証接続]ではNTTフレッツシリーズなど、インターネット接続の際に、ユーザ名、パスワードを利用してユーザ認証（PPPoE認証）作業を行う場合に使用します。

LAN側設定 | WAN側設定 | パスワードの設定 | 時刻設定

接続方法	PPPoE認証接続		
IPアドレス	IPアドレス自動取得		
	IPアドレス固定設定	IPアドレス	0.0.0.0
DNS(ネーム)サーバ プライマリ	0.0.0.0 (オプション)		
DNS(ネーム)サーバ セカンダリ	0.0.0.0 (オプション)		
接続ユーザ名			
接続パスワード	***********************		
パスワード再入力	***********************		
オンデマンド接続	有効 無効		
無通信タイムアウト	10 分		
MTU値	1362 バイト		

設 定 キャンセル

項目	説明
接続方法	プロバイダへの接続方法を指定します。 [PPPoE認証接続]では接続時、プロバイダへユーザ認証作業(PPPoE認証)を行うプロバイダの場合に選択します。
IPアドレス	IPアドレス自動取得：プロバイダがIPアドレスを自動的に割り当てる形式の場合に選択します。 （通常はこちらを選択します。） IPアドレス固定設定：プロバイダから固定のIPアドレスを割り当てられている場合に選択します。
DNS(ネーム)サーバプライマリ	プロバイダから指定されている場合は、DNSサーバアドレスを入力します。
DNS(ネーム)サーバセカンダリ	プロバイダから２つDNSサーバアドレスが指定されている場合は、２つ目のDNSサーバアドレスを入力します。
接続ユーザ名	プロバイダ指定のユーザ名を入力します。プロバイダの資料に記載されているユーザ名と同じものを入力します。 NTTフレッツシリーズの場合は、@から後ろもすべて入力します。
接続パスワード	プロバイダ指定の接続パスワードを入力します。 （すでに入力済みの ＊ を削除して入力します。）
パスワード再入力	確認のためプロバイダ指定の接続パスワードを再入力します。 （すでに入力済みの ＊ を削除して入力します。）
オンデマンド接続	有効：インターネット利用時、自動的にプロバイダと接続する場合に設定します。 無効：手動で接続する場合に設定します。 初期値：有効
無通信タイムアウト	自動切断を行う時間を設定します。 ブラウザやメールソフトが全く通信していない場合、この項目で設定した時間を超えると自動的に切断します。 0に設定すると切断されなくなります。 初期値：10分
MTU値	IPパケットデータのサイズを表します。MTU値が小さすぎると、パケットサイズが減って通信するパケット量が増大し、結果的にヘッダ部分の占めるデータ量が増えるため、ADSLなどのブロードバンド環境で効果を発揮できなくなります。 初期値：1362

ボタン	説明
設定	設定内容を反映するため、本製品を再起動します。設定内容を製品に反映します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

パスワードの設定

[パスワードの設定]では、ユーザパスワードを設定することができます。
これらのパスワードは、本製品を設定・管理するために使用します。
※本製品の管理者（ユーザ）のログイン名は変更できません。

項目	説明
管理者	管理者が、本製品の設定画面を表示するためのパスワードを入力します。パスワードは、確認のため再度入力が必要です。
ユーザー	ユーザーが、本製品の設定画面を表示するためのパスワードを入力することができます。パスワードは、確認のため再度入力が必要です。 ※ユーザーによるルータ機能の設定はできません。設定画面の参照のみできます。

ボタン	説明
設定	設定内容を保存します。設定内容を製品に反映します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

時刻設定

[時刻設定]では本製品のリアルタイムの時間、および日付設定、時間帯の選択、タイムサーバの指定が可能です

項目	説明
現在の時刻	現在設定されている時刻を表示します。
NTPサーバ	インターネット上に公開されているタイムサーバと時刻同期を行う場合にタイムサーバ（NTPサーバ）のIPアドレスまたはURL(ドメイン名)を入力します。 有効(初期設定)：タイムサーバと時刻同期を行う 無効：タイムサーバと時刻同期を行わない 同期間隔：60分
時刻の設定	現在の日付、時刻を設定します。設定後、[時刻設定]ボタンをクリックします。下の[設定]ボタンでは変更が反映されませんので、ご注意ください。

ボタン	説明
設定	設定内容を保存します。設定内容を製品に反映します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

無線設定をする(無線設定)

主に無線関連の設定（WEPなど）ができます。

基本設定

[基本設定]では、[無線LAN機能を有効/無効]、[SSIDの入力]、[無線通信用チャンネルの設定]をすることができます。

⇒**WN-AG/BBR**の場合、無線通信規格(IEEE802.11g/bかIEEE802.11a)の切り替えは【基本設定】の[チャンネル]で行います。（次ページ参照）

IEEE802.11g/bとIEEE802.11aを同時に利用する通信はできません。（排他利用）

- IEEE802.11g/b ⇒ 1～13ch
- IEEE802.11a ⇒ 34/38/42/46ch

⇒SSIDを無線LANアダプタに通知しないようにするには、【高度な設定】(82ページ)をご覧ください。

項目	説明
機能	有効：本製品の無線機能を有効に設定します。 無効：本製品の無線機能を無効に設定します。
SSID	SSIDを設定します。半角英数字で32文字まで入力できます。（大文字、小文字の区別もあります。） 複数のアクセスポイントがあり、自動的にアクセスポイント接続を切り替えるローミング機能を使用する場合は、すべてのアクセスポイントのSSIDを統一します。 グループ毎にアクセスポイントを分ける場合などは、アクセスポイント毎に別のSSIDを設定してください。設定後、本製品と通信する無線LAN製品は、すべてその値を設定してください。

項目	説明
チャンネル	通信チャンネル（使用する電波の周波数帯域を分割して、それぞれの帯域に番号を割り当てたもの）の設定を行います。 本製品以外にアクセスポイントやアクセスポイント内蔵機器がない場合は、初期値のまま変更する必要はありません。 本製品の近くに他のアクセスポイントやアクセスポイント内蔵機器がある場合は、それぞれの機器で別の通信チャネルの値を設定してください。（2.4GHz帯(IEEE802.11g/b)を使用する場合は、電波の干渉を防ぐため５チャンネル間隔を空けることをおすすめします。詳しくは61～62ページの参考をご覧ください。） 初期値：６(IEEE802.11g/bで動作) 設定値：・IEEE802.11g/b ⇒ 1～13ch ・IEEE802.11a ⇒ 34/38/42/46ch ※IEEE802.11aはWN-AG/BBRのみ設定可能

ボタン	説明
設定	設定内容を保存します。設定内容を製品に反映します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

注意！

- 初期設定では無線 LAN 製品（弊社製「WN-AG/CB」や「WN-G54/CB」など）の［SSID］の設定を［ANY］とした場合、本製品で設定した SSID の値にかかわらず、無線でアクセスできるようになります。不正アクセスを防ぐためにも、通信の暗号化や通信できるパソコンを制限することをおすすめします。
- 本製品にアクセスする無線 LAN は、すべて同じ SSID にしてください。
- SSID は、ご購入時[default]に設定されていますが、セキュリティのため、変更することをおすすめします。
- SSID やチャンネルの値が他の無線 LAN グループと重なると、他の無線 LAN グループに通信内容が流れたり、他の無線 LAN グループの通信内容が見えてしまったりします。そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- SSID をそろえたローミングでご利用の際は、各アクセスポイントのチャンネルを別にしてください。(1/6/11 など)
- 《WN-AG/BBRでの注意》
  IEEE802.11g/b と IEEE802.11a の同時利用による通信はできません。(排他利用)

WEP

無線LANの暗号化の標準であるWEP（Wired Equivalent Privacy）での暗号化を行うことによって、通信傍受の危険を回避することができます。

項目	説明
機能	有効：暗号化を有効にします。 無効：暗号化を無効にします。
入力形式	入力方法を設定します。（16進数、ASCII）
キーの長さ	64(40)ビットより128(104)ビットの方がより高いセキュリティレベルを確保できますが速度は低下する場合があります。 **[64(40)ビット]**：送受信するデータを64ビットで暗号化します。 **[128(104)ビット]**：送受信するデータを128ビットで暗号化します。
キー１～４	16進数　：0～9またはA～Fの文字列を入力します。 ASCII　：半角英数字を入力します。 （下表参照） 無線LANアダプタなど通信相手側と同じ暗号キーを入力する必要があります。暗号化の設定方法は次ページ以降を参照してください。

	ASCII	16進数
64bit	5文字	10文字
128bit	13文字	26文字

※ServicePack１にアップグレードしていないWindows XPでは、[キーの長さ]と[キーのインデックス]が、弊社Web設定の標記と異なります。それぞれ以下のように読み替えてください。

40ビット=64ビット、104ビット＝128ビット
キー0=キー1、キー1=キー2、キー2=キー3、キー3=キー4

●暗号化(WEP)の設定例

有線LAN接続したパソコンから本製品を設定することをおすすめします。

無線LAN接続のパソコンで本製品を設定している場合、暗号キーを変更すると、本製品と通信できなくなります。
その場合、無線LAN接続の設定用パソコンの暗号キーを、変更した内容に合わせると接続できます。ただし、変更した内容を忘れた場合など、本製品に接続できなくなった場合は、有線LANから接続しなおすか、本製品を出荷時状態に戻す必要がありますので、設定する暗号キーはメモしてください。

1 [機能]で[有効]にチェックをつけ、［入力形式］［キーの長さ]を選びます。

①[機能]では、[有効]にチェックをつけます。
②[入力形式]では、[16進数]と[ASCII]から選びます。
③[キーの長さ]では、暗号キーの長さを[64(40)ビット]と[128(104)ビット]から選びます。

・ご使用の無線LAN製品によっては、[128bit(104)ビット］に対応していない製品（弊社製WN-B11/USB、WN-B11/PRSなど）があります。
・ご利用のネットワークのWEP認証方式(Open System、Shared Key)をご確認ください。その上で、本製品の設定（【高度な設定】→【認証方式】）でご利用になる認証方式を設定してください。

2 **下記の表にしたがって、［キー１］に暗号キーを入力します。**

[16 進数]で［64(40)ビット］キーの設定例（10 桁の 16 進数）

例）0123456789

[16 進数]で［128(104)ビット］キーの設定例（26 桁の 16 進数）

例）01234567890123456789012345

入力形式	16進数　：0～9またはA～Fの文字列 ASCII　：半角英数字
キーの長さ	ASCII　16進数 64bit　5文字　10文字 128bit　13文字　26文字

すでに無線LANの暗号キーをお使いで、そのキーに合わせる場合は、そのキーを入力してください。

はじめて暗号キーを設定する場合などは、キーを入力後、キーの種類とキー自体をメモしてください。このキーは他の無線LANアダプタ側に設定するために必要です。

※通常、キー２～４は変更/入力の必要はありません。

▼入力したキーをメモしてください。

キー１	

注意！

メモした暗号キーは、無線 LAN アダプタで暗号化を行う際に使用します。
本製品ではパスフレーズによる暗号化はできませんので、必ず無線 LAN アダプタ側では、[16 進数]や[ASCII]による暗号キーを使用してください。

3 **画面下の［設定］ボタンで設定を保存します。**

クリック

設　定　キャンセル　クリア

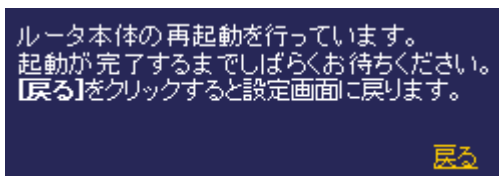
4 **以下の画面が表示され、本製品が再起動します。**

無線LANから設定した場合は、WEPを変更したため通信は途絶えます。

10秒ほどお待ちになり、[POWER]ランプ、[WLAN]ランプが点灯する状態になったら再起動は完了です。（他にモデムやパソコンなどを接続しているポートのランプも点灯します。）

ここで設定画面は終了できます。

ルータ本体の再起動を行っています。
起動が完了するまでしばらくお待ちください。
[戻る]をクリックすると設定画面に戻ります。

戻る

5 **無線LANアダプタのWEP設定を本製品のWEP設定にあわせます。**

無線LANアダプタの暗号化設定は、各無線LANアダプタによって異なります。それぞれの取扱説明書をご覧ください。

これで暗号化設定はできました。

暗号キー入力方式の異なる他社製品との暗号化について

本製品を含む WN シリーズでは、暗号キーとして 16 進コードでの暗号キー入力方式を採用していますが、他社製品には、５文字の英数字・記号で暗号キーを指定する方式や、文字列から 16 進コードへ変換する際、本製品と変換方式の異なる製品があります。
これらの製品と暗号化を行う場合は、最初に英数字・記号の５文字で暗号キーに使用する文字列を決め、16 進コードを入力できない他社製品はこの５文字の文字列を入力します。
WN シリーズや 16 進コードを入力可能な他社製品にはこの５文字の文字列を下記対応表に基づき、16 進コードに変換したうえで入力することで通信可能となります。
各文字と 16 進コードの対応については下記の表を参照してください。
〈例〉 文字で ″WNG54″ と設定している場合、
16進コードでは [57 4e 47 35 34] となります。

文字	16進
!	21
″	22
#	23
$	24
%	25
&	26
’	27
(	28
)	29
*	2a
+	2b
,	2c
－	2d
.	2e
/	2f

文字	16進
0	30
1	31
2	32
3	33
4	34
5	35
6	36
7	37
8	38
9	39
:	3a
;	3b
<	3c
=	3d
>	3e

文字	16進
?	3f
@	40
A	41
B	42
C	43
D	44
E	45
F	46
G	47
H	48
I	49
J	4a
K	4b
L	4c
M	4d

文字	16進
N	4e
O	4f
P	50
Q	51
R	52
S	53
T	54
U	55
V	56
W	57
X	58
Y	59
Z	5a
[	5b
¥	5c

文字	16進
]	5d
^	5e
_	5f
`	60
a	61
b	62
c	63
d	64
e	65
f	66
g	67
h	68
i	69
j	6a
k	6b

文字	16進
l	6c
m	6d
n	6e
o	6f
p	70
q	71
r	72
s	73
t	74
u	75
v	76
w	77
x	78
y	79
z	7a

文字	16進
{	7b
|	7c
}	7d
~	7e

高度な設定

[高度な設定]では、無線機能の詳細設定することができます。通常は初期値が適正値であり、変更の必要はありません。

項目	説明
ビーコン間隔	ビーコンの間隔を20ms～1000msで設定します。ビーコンとは無線ネットワークを同期させるためにアクセスポイントから一定間隔で送信するパケットのことです。 初期値：100
RTSスレッショルド	RTSパケットのサイズを256～2346で設定します。 アクセスポイントは実際のデータを送信する前に、RTS(送信要求)パケットを送信して、データを送信して良いか確認しています。パケットのサイズを低めに設定すると、頻繁にRTSパケットが送出されるので、一般にスループットは低下します。 初期値：2346
フラグメンテーションスレッショルド	パケットが断片化される時のパケットサイズを256～2346(偶数のみ)で設定します。 電波状況が悪い場所では値を低めに設定すると効果的ですが、一般にスループットは低下します。 初期値：2346

項目	説明
DTIMインターバル	ビーコンに対し、どの程度の間隔でDTIMを挿入するかを1～255の間隔で設定します。 DTIM（delivery traffic indication message）とは省電力モードの無線クライアントに対して、パケットが送信待ちであることを伝えるメッセージのことです。DTIMはビーコンに含まれて送信されています。 例えば“2”と設定すると、DTIMが含まれたビーコンと含まれていないビーコンが交互にアクセスポイントから送信されるようになります。 初期値：1
送信レート(Mbps)	データを送受信する際に、使用できる速度を設定できます。 通常、[自動]から変更する必要はありません。 従来の無線LAN製品と接続できない場合、速度を固定することによって接続できる場合があります。
認証方式	暗号化(WEP)の際に使用される認証方式を選択します。 Open System（初期値）：開放型認証方式 Shared Key：共有鍵式認証方式
SSID通知※	有効（初期値）：SSIDの存在を本製品と通信する無線LANアダプタに通知します。 無効：SSIDの存在を本製品と通信する無線LANアダプタに通知しなくなります。無線LANアダプタ側のSSIDを検索する機能で検出されなくなります。
802.11g専用モード	有効に設定すると、IEEE802.11gでのみ接続されるようになります。IEEE802.11bとの併用による速度の低下を抑えます。 このとき、IEEE802.11b無線LANアダプタとは接続できなくなります。

ボタン	説明
設定	設定内容を保存します。設定内容を製品に反映します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

※SSID通知を無効にすると、本製品と通信する無線LANアダプタ側のSSIDを検索する機能で本製品が検出されなくなります。SSID通知を無効にして無線LANアダプタから接続する場合、SSIDを直接入力する必要があります。SSIDの入力方法については、無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。

※弊社製「WN-B11/USB」「WN-B11/USBH」の場合、SSID通知を無効に設定すると、本製品と接続できません。SSID通知を有効に設定してお使いください。

現在の状態を確認する(ステータス)

本製品の現在の状態などを確認できます。

デバイス情報

[デバイス情報]では、[LANポート]、[無線LAN]、[WANポート]の設定を表示することができます。

デバイス情報 | ログ | ログの設定 | 統計情報 | 無線情報

ファームウェア バージョン	1.0.0
LANポート	
MACアドレス	00-A0-B0-40-00-01
IPアドレス	192.168.0.1
サブネット マスク	255.255.255.0
DHCPサーバ	有効 DHCPテーブル
無線LAN	
状態	802.11g アクセスポイント有効
SSID	default
チャンネル	6
WEP	無効
WANポート	
MACアドレス	00-A0-B0-40-00-02
接続	PPPoE 接続中 接続 切断
IPアドレス	202.xxx.xxx.xxx
サブネット マスク	255.0.0.0
デフォルト ゲートウェイ	202.xxx.xxx.xxx
DNS(ネーム)サーバ	202.xxx.xxx.xxx 202.xxx.xxx.xxx

【ファームウェアバージョン】

説明
本製品の現在のファームウェアバージョンを表示します。

【LANポート】

項目	説明
MACアドレス	本製品(LAN側)のMACアドレスを表示します。
IPアドレス	本製品(LAN側)のIPアドレスを表示します。
サブネットマスク	本製品(LAN側)のサブネットマスクを表示します。
DHCPサーバ	[DHCPテーブル]をクリックすると、本製品が割り当てたDHCPクライアント情報を表示します。

【無線LAN】

項目	説明
状態	本製品の無線LAN機能が有効かどうかを表示します。 無効と表示されている場合、無線通信できません。
SSID	本製品に設定されているSSIDを表示します。
チャンネル	本製品に設定されている無線のチャンネルを表示します。
WEP	本製品のWEP(暗号化)が有効かどうかを表示します。

【WANポート】

項目	説明
MACアドレス	本製品のWAN側のMACアドレスを表示します。
接続	本製品のWAN側の接続状態を表示します。 WAN側の接続形態により以下の操作ができます。 ・IPアドレス自動取得接続の場合 [DHCP解放]：IPアドレスの解放 [DHCP取得]：IPアドレスの再取得 ・PPPoE認証接続の場合 [接続]：プロバイダへの接続 [切断]：プロバイダからの切断
IPアドレス	本製品(WAN側)のIPアドレスを表示します。
サブネットマスク	本製品(WAN側)のサブネットマスクを表示します。
デフォルト ゲートウェイ	本製品(WAN側)のデフォルトゲートウェイを表示します。
DNS(ネーム)サーバ	本製品(WAN側)のDNS(ネーム)アドレスを表示します。

ログ

[ログ]では、ルータシステムの[統計]、[状況]、[作業の実行ログ]を表示することができます。ログは、最高200件まで記録されます。古い記録は、新しい記録に上書きされます。

ボタン	説明
最初へ	ログの最初のページを表示します。
前へ	現在のページのすぐ前のページを表示します。
次へ	現在のページのすぐ後のページを表示します。
最後へ	ログの最後のページを表示します。
ログをクリア	ログの内容を削除し、新しいログを開始します。
情報の更新	ログの統計を更新します。

項目	説明
時刻	ログが記録された時刻を表示します。
メッセージ	接続情報や本体情報など現在の状態を表示します。
送信元	ログに記録されたパケットの送信元を表示します。
送信先	ログに記録されたパケットの宛先を表示します。
備考	LANアダプタへIPアドレスを割り当てたり、無線接続が確立した際、LANアダプタのMACアドレスを表示します。

ログの設定

[ログの設定]では、ルータが出力できるSYSLOG(シスログ)の内容を設定することができます。

項目	説明
SYSLOG(シスログ)サーバ	SYSLOGサーバソフトが起動しているパソコンのIPアドレスを指定します。 パソコンがDHCPサーバからIPアドレスを取得している場合などIPアドレスが固定ではない場合、ブロードキャストアドレスを指定することもできます。 【ブロードキャストアドレスの例】 255.255.255.255:すべてのIPアドレス宛に送信します。 192.168.0.255:192.168.0.xxxの範囲すべてに送信します。 ※ブロードキャストアドレスを指定した場合はネットワークの負荷が大きくなりますので、企業内ネットワークなどでは特定のIPアドレス宛に送信することを推奨します。
ログの種類	システム情報:本製品の動作に関する情報を出力します。 デバッグ情報:エラーや誤動作に関する情報を出力します。 攻撃情報:ネットワーク上の不正(悪質)なアクセスに関する情報を出力します。 ドロップパケット:正常に転送できなかったパケットに関する情報を出力します。 参考情報:その他参考になる情報を出力します。

ボタン	説明
設定	設定内容を保存します。設定内容を製品に反映します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

統計情報

[統計情報]では、[LANポート]、[無線LAN]、[WANポート]経由でのパケット伝送率（バイト／秒）を示すテーブルを表示します。

項目	説明
利用状況	パケット伝送統計を受信と送信に分類します。 最大：記録を開始してから記録されたパケット伝送の最大値を表示します。 平均：記録を開始してから記録された全てのパケット伝送の平均値を表示します。

ボタン	説明
クリア	全統計を消去し、ログ統計を再度開始します。

無線情報

[無線情報]では、本製品へ無線LANで接続する無線機器についての情報を表示することができます。

項目	説明
接続時刻	無線LAN機器が本製品の無線LAN部分と接続を確立した時刻を表示します。
MACアドレス	接続されている無線LANアダプタのMACアドレスを表示します。

ルーティングを設定する(ルーティング)

ルーティングの設定をします。

ルーティング

スタティックルート

本製品がデータを宛先となるネットワークにパケットを転送するときの静的ルーティング情報を設定します。

スタティックルート　ダイナミックルート　ルーティングテーブル

ネットワークアドレス
ネットワークマスク
ゲートウェイアドレス
ポート　LAN
メトリック

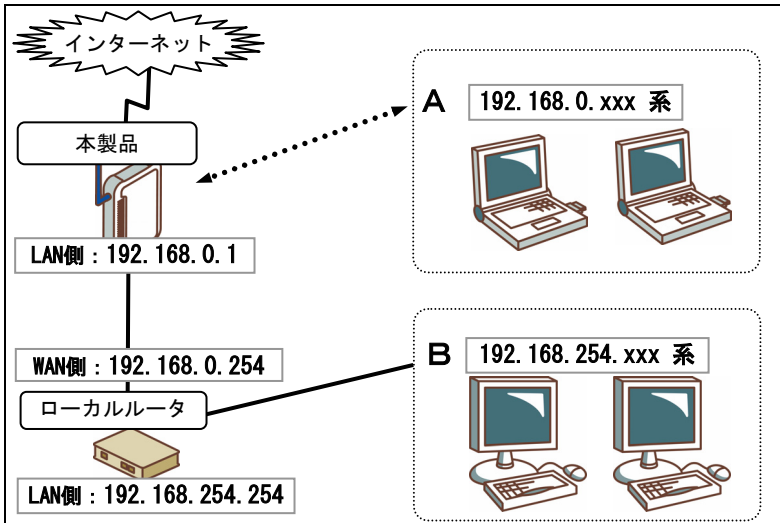
追加　修正　削除　クリア

ネットワークアドレス	ネットワークマスク	ゲートウェイアドレス	ポート	メトリック
192.168.1.0	255.255.255.0	192.168.0.201	LAN	1

項目	説明
ネットワークアドレス	宛先のIPアドレスグループを入力します。
ネットワークマスク	宛先のサブネットマスクを入力します。
ゲートウェイアドレス	宛先ネットワークへのゲートウェイとなる機器のアドレスを入力します。
ポート	宛先の存在するインターフェイス（WAN側またはLAN側）を選択します。
メトリック	宛先のネットワークに到達するまでのルータの数を入力します。

ボタン	説明
追加	項目を入力後に、クリックするとリストに追加されます。
修正	画面下部のリストから、修正したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、項目を修正できます。
削除	画面下部のリストから、削除したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、情報を削除できます。
クリア	入力した内容を消去します。

ページ下部には設定したスタティックルーティング情報のリストが表示されます。

《ルーティングの設定例》
図(四角内の値はIPアドレス)のような環境で「ネットワークＡ」と「ネットワークＢ」で通信する場合の設定例です。（例えば、ネットワークの負荷軽減のため必要な情報のみを流すことができるように、Aという部署とBという部署でネットワークを分けたいときに利用します。以下の設定では、Bからもインターネットに接続することができます。）

本製品の[スタティックルート]設定でローカルルータが宛先となるように設定し、ローカルルータ側では本製品が宛先となるように設定します。

	本製品で設定する宛先の値
ネットワークアドレス	192.168.254.0
ネットワークマスク	255.255.255.0
ゲートウェイアドレス	192.168.0.254

※ローカルルータ側の設定については、ローカルルータの取扱説明書をご覧ください。

ダイナミックルート

[ダイナミックルート]では、NATパラメータの設定とRIP(Routing Information Protocol)に対応したルータ同士で動的なルーティングを行うための設定ができます。

項目	説明
NAT/IPマスカレード	有効：LANで使用しているプライベートIPアドレスをインターネットで使用するグローバルIPへ変換します。 本製品でインターネット接続を行う場合は、有効にします。 無効：複数のLANを接続し、本製品をローカルルータとして使用する場合に設定します。
送信	無効：RIPの情報を本製品から送信しません。 RIP1：RIP1の情報を本製品から送信します。 RIP2：RIP2の情報を本製品から送信します。
受信	無効：RIPの情報を他のルータから受信しません。 RIP1：RIP1の情報を他のルータから受信します。 RIP2：RIP2の情報を他のルータから受信します。

ボタン	説明
設定	設定内容を保存し、本製品を再起動します。設定内容を製品に反映します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

ルーティングテーブル

[ルーティングテーブル]では、ルータのルーティングテーブルを表示することができます。ルーティングテーブルは、ネットワーク相互接続形態を表示するルータによって作成されたデータベースです。

項目	説明
ネットワークアドレス	宛先のIPアドレスグループを表示します。
ネットワークマスク	宛先のサブネットマスクを表示します。
ゲートウェイアドレス	宛先のゲートウェイアドレスを表示します。
ポート	宛先が、WAN と LANのどちらを経由して接続されているかを表示します。
メトリック	宛先のネットワークに到達するまでのルータの数を表示します。
タイプ	ルーティングテーブルが、静的（スタティック）と動的（ダイナミック）のどちらであるかを表示します。

接続制限をする(アクセス制御)

本製品やインターネットへのアクセス制限をします。

MACフィルタ

[MACフィルタ]では、有線および無線LANアダプタのMACアドレスごとに、本製品への接続の許可または拒否をすることによって、特定のパソコンのみが接続できるようにします。

【MACアドレスフィルタ】

項目	説明
許可	チェックをつけると、MACアドレスを登録した無線/有線LANアダプタのみ通信を許可します。
拒否	チェックをつけると、MACアドレスを登録した無線/有線LANアダプタのみ通信を拒否します。
無効	MACアドレスフィルタ機能を無効にします。

ボタン	説明
設定	[MACアドレスフィルタ]の[許可][拒否][無効]をチェックした後に、クリックすると、本製品に設定を保存します。

【MACアドレステーブル】

項目	説明
名前	通信可能なLANアダプタの任意の名称を入力できます。 （半角英数文字31文字まで）
MACアドレス	接続を拒否/許可するパソコン（LANアダプタ）のMACアドレスを半角英数文字２桁ずつ入力します。 例）[00]-[A0]-[B0]-[00]-[00]-[01]

ボタン	説明
追加	項目を入力後に、クリックするとリストに追加されます。
修正	画面下部のリストから、修正したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、項目を修正できます。
削除	画面下部のリストから、削除したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、情報を削除できます。
クリア	入力した内容を消去します。

ページ下部にはMACアドレスフィルタで登録したLANアダプタのリストが表示されます。

詳しくは、次ページの設定手順をご覧ください。

以下の手順で設定します

①接続許可リストを作るか、接続拒否リストを作るかを決めます。

許可	MACアドレステーブルに登録するMACアドレスに対して、 本製品やインターネットへのアクセスを許可します。 未登録のMACアドレスはアクセスを拒否します。
拒否	MACアドレステーブルに登録するMACアドレスに対して、 本製品やインターネットへのアクセスを拒否します。 未登録のMACアドレスはアクセスを許可します。

②接続許可（拒否）したいMACアドレスをひとつずつ登録し、リストを作ります。
※必ず先にMACアドレスを登録してください。
※相手側機器のMACアドレスを調べる方法は、相手側機器の取扱説明書をご覧ください。

③拒否／許可の設定をすると、設定完了です。

MACアドレスフィルタの設定手順

1 **設定画面（メインメニュー）の［アクセス制御］をクリックします。**

2 **［MACフィルタ］をクリックします。**

3 [MACアドレステーブル]でMACアドレスを登録します。

⇒MACアドレスを新規登録する場合

①[名前]に接続を許可もしくは拒否するLANアダプタの名称を任意の名称で入力します。（例：iodata）

②[MACアドレス]に接続を許可もしくは拒否するLANアダプタのMACアドレスを半角英数文字で２桁ずつ入力します。

（例：[00]-[A0]-[B0]-[00]-[00]-[01]）

③[追加]ボタンをクリックします。

④以下の画面が表示され、設定が保存されます。

[戻る]をクリックすると設定画面に戻ります。

設定された内容は正常に保存されました。

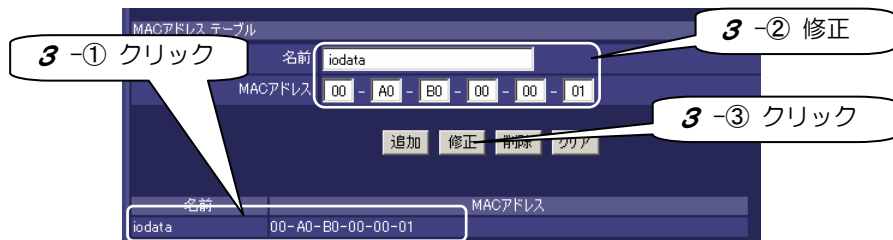
[戻る]をクリックすると設定画面に戻ります。

戻る

⇒登録済みのMACアドレスを修正する場合

①リストから修正したいMACアドレスをクリックして選択します。

②MACアドレステーブルで情報を修正します。

③[修正]ボタンをクリックします。

④以下の画面が表示され、設定が保存されます。

　[戻る]をクリックすると設定画面に戻ります。

設定された内容は正常に保存されました。

[戻る]をクリックすると設定画面に戻ります。

戻る

⇒登録済みのMACアドレスを削除する場合

①リストから修正したいMACアドレスをクリックして選択します。

②[削除]ボタンをクリックします。

③以下の画面が表示され、情報が削除されます。

　[戻る]をクリックすると設定画面に戻ります。

選択された項目を削除しました。
設定された内容は正常に保存されました。

[戻る]をクリックすると設定画面に戻ります。

戻る

4 [MACアドレスフィルタ]で以下のいずれかにチェックを入れます。

許可	登録したMACアドレスのみが本製品に接続できるようになります。
拒否	登録したMACアドレスは本製品に接続できなくなります。
無効	MACアドレスフィルタ機能が無効になり、すべてのLANアダプタの接続を許可します。

設定用パソコンのMACアドレスを拒否しないよう、ご注意ください。
拒否してしまうと、設定用パソコンから本製品に接続できなくなります。

5 [設定]ボタンをクリックします。

6 以下の画面が表示され、設定が保存されます。

これで設定は完了です。

ポートフィルタ

[ポートフィルタ]では、LAN内から外部にアクセスできるサービスをポートごとに制限できます。
例えば、プロトコルリストの[Filter SMTP](出荷時登録済み)を有効にすると、本製品（LANポート）に接続したパソコンすべてから、e-mailを送信できないようにすることができます。

【ポートフィルタ】

項目	説明
有効	ポートフィルタ機能を有効にします。登録したプロトコルリスト（[有効]になっているもののみ）は外部にアクセスできなくなります。
無効	ポートフィルタ機能を無効にします。

ボタン	説明
設定	[ポートフィルタ]の[有効][無効]をチェックした後に、クリックすると、本製品に設定を保存します。

【ポートフィルタの編集】

項目	説明
項目	有効：これから追加する内容や、編集する内容を動作させます。([追加]や[修正]をクリックし登録すると、画面下のリストでチェックがつき、動作することを示します。) 無効：これから追加する内容や、編集する内容を動作させません。([追加]や[修正]をクリックし登録しても、画面下のリストでチェックが付かず、動作させないことを示します。)
名前	リストに登録する際の名前を任意の名称で入力します。 (半角英数文字31文字まで)
プロトコル	接続を拒否するプロトコルの種類(TCP/UDP/ICMP)を選択します。

項目	説明
ポート番号	接続を拒否するポート番号の範囲を入力します。 左の枠に最初のポート、右の枠に最後のポートを入力します。 単一のポートを指定する場合は、両方の枠に同じ値を入力します。

ボタン	説明
追加	項目を入力後に、クリックするとリストに追加されます。
修正	画面下部のリストから、修正したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、項目を修正できます。
削除	画面下部のリストから、削除したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、情報を削除できます。
クリア	入力した内容を消去します。

ページ下部にはポートフィルタで登録したリストが表示されます。

IPフィルタ

[IPフィルタ]では、IPアドレスによって本製品やインターネットへの接続を拒否することができます。

項目	説明
項目	有効：これから追加する内容や、編集する内容を動作させます。([追加]や[修正]をクリックし登録すると、画面下のリストでチェックがつき、動作することを示します。) 無効：これから追加する内容や、編集する内容を動作させません。([追加]や[修正]をクリックし登録しても、画面下のリストでチェックが付かず、動作させないことを示します。)
開始IPアドレス	接続を拒否するIPアドレス範囲の最初のIPアドレスを入力します。
終了IPアドレス	接続を拒否するIPアドレス範囲の最後のIPアドレスを入力します。単一のポートを指定する場合は、[開始IPアドレス]と同じ値を入力します。

ボタン	説明
追加	項目を入力後に、クリックするとリストに追加されます。
修正	画面下部のリストから、修正したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、項目を修正できます。
削除	画面下部のリストから、削除したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、情報を削除できます。
クリア	入力した内容を消去します。

ページ下部にはIPフィルタで登録したリストが表示されます。

仮想サーバ

LAN内のサーバをインターネットに公開する場合に設定します。[サーバIPアドレス]は固定で使用してください。(DHCPで割り当てる範囲外のIPアドレスとしてください。)

項目	説明
項目	有効：これから追加する内容や、編集する内容を動作させます。 ([追加]や[修正]をクリックし登録すると、画面下のリストでチェックがつき、動作することを示します。) 無効：これから追加する内容や、編集する内容を動作させません。 ([追加]や[修正]をクリックし登録しても、画面下のリストでチェックが付かず、動作させないことを示します。)
名前	リストに登録する際の任意の名前を入力します。 (半角英数文字31文字まで)
プロトコル	仮想サーバで使用するプロトコルの種類(TCP/UDP/＊)を選択します。(＊：プロトコルの判別をしない)
LANポート番号	公開するサーバで使用するポート番号を指定します。
WANポート番号	通常はLANポートと同じポート番号です。LAN内のサーバとは異なるポート番号で待ち受けする場合に入力が必要です。
サーバIPアドレス	公開するサーバのLAN側IPアドレスを指定します。

ボタン	説明
追加	項目を入力後に、クリックするとリストに追加されます。
修正	登録した仮想サーバを修正します。 画面下部のリストから、修正したい仮想サーバをクリックし選択後、[修正]ボタンをクリックすると、項目を修正できます。 ([項目]の[有効/無効]を変更する場合にも使用します。)
削除	登録した仮想サーバを削除します。 画面下部のリストから、削除したい仮想サーバをクリックして選択後、[削除]ボタンをクリックすると、情報を削除できます。
クリア	入力した内容を消去します。

ページ下部には仮想サーバで登録したリストが表示されます。

《Webサーバを公開する場合の設定例》

以下はWebサーバをポート番号80で公開する際の設定手順です。

1. 下のリストから[Virtual Server HTTP]を選択します。
2. 項目で[有効]にチェックします。
3. サーバIPアドレスにWebサーバのローカルIPアドレスを入力します。
4. [修正]ボタンをクリックします。

これで設定は完了です。

《ポート番号を指定する場合の設定例》

●準備

ご使用になるアプリケーションで指定されている｢ポート番号｣｢プロトコル｣をあらかじめ確認しておきます。確認方法については各アプリケーションの取扱説明書をご覧ください。

●設定手順

※複数のポート番号を指定する場合は、ポート番号ごとに設定してください。

1 [項目]の[有効]にチェックを入れます。

2 [名前]に任意の名前を入力します。

3 [プロトコル]で指定されたプロトコル（TCP/UDP/＊）を選択します。

4 [LANポート番号]で指定されたポート番号を入力します。

5 [WANポート番号]でLANポートと同じ番号を入力します。

6 [サーバIPアドレス]にアプリケーションを使用するパソコンのIPアドレスを入力します。

7 [追加]ボタンをクリックします。

これで設定は完了です。

特殊アプリ

NATなどを超えて通信できないアプリケーションを使用する場合に利用します。各アプリケーションが使用するポート（トリガポート、インカミングポート）を指定することによりそのアプリケーションのインターネット通信が可能になります。

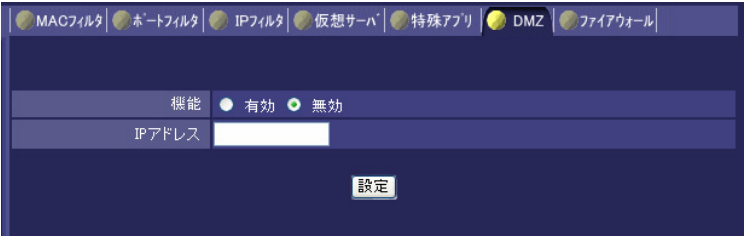
項目	説明
項目	有効：追加/編集する特殊アプリケーションを動作させる場合にチェックします。（リスト上でチェックがつきます。） 無効：追加/編集する特殊アプリケーションを追加するのみで動作させない場合にチェックします。（リスト上でチェックがつきません。）
名前	リストに登録する際の任意の名前を入力します。 （半角英数文字31文字まで）
トリガ	アプリケーション側で必要なポートを設定します。 左の枠に最初のポート、右の枠に最後のポートを入力します。 アプリケーションからの要求があるとここで設定したポートが開かれます。単一のポートを指定する場合は、両方の枠に同じ値を入力します。

項目	説明
インカミング	アプリケーションが使用するプロトコルとポートの番号を入力します。ポート指定では複数および範囲指定ができます。連続していない複数のポートは“，”(カンマ)で区切り、範囲を指定する場合は“-”(ハイフン)を使います。 例） 25,80,120-150

ボタン	説明
追加	項目を入力後に、クリックするとリストに追加されます。
修正	画面下部のリストから、修正したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、項目を修正できます。
削除	画面下部のリストから、削除したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、情報を削除できます。
クリア	入力した内容を消去します。

ページ下部には特殊アプリで登録したリストが表示されます。

DMZ

インターネット側（WAN側）から本製品に接続されたLAN側のパソコンにアクセスするための機能です。受け取った全パケットをここで設定したIPアドレスに転送しますので、セキュリティ上必要な時以外は、使用しないでください。
（LAN側パソコンのIPアドレスは固定で使用してください。）

項目	説明
機能	有効：DMZ機能を有効にします。 無効：DMZ機能を無効にします。
IPアドレス	DMZホスト機能を有効に設定するパソコンのIPアドレスを入力します。

ボタン	説明
設定	設定内容を製品に反映します。

ファイアウォール

本製品へのアクセスを監視し、決めたルール（プロトコルリスト）によって、通信を許可/拒否するファイアウォール機能です。
例えば、外部からの不正アクセスを防ぐため、特定の外部のパソコンからのみ、特定のLAN内パソコンへのアクセスを許可したりできます。

※出荷時設定で設定済みのプロトコルリストです。

項目	説明
項目	有効：追加/編集するファイアウォール設定を動作させる場合にチェックします。（リスト上でチェックがつきます。） 無効：追加/編集するファイアウォール設定を追加するのみで動作させない場合にチェックします。（リスト上でチェックがつきません。）
名前	リストに登録する際の任意の名前を入力します。 （半角英数文字31文字まで）
処理	許可：設定した規則のパケットを通過させます。 拒否：設定した規則のパケットを破棄します。

項目	説明
送信元	ポート：適用するインターフェイス(WAN,LAN,*)を選択します。（*：WANとLAN両方） 開始IPアドレス：適用する最初のIPアドレスを入力します。 終了IPアドレス：適用する最後のIPアドレスを入力します。単一のIPアドレスを指定する場合は、[開始IPアドレス]と同じ値を入力します。
送信先	ポート：適用するインターフェイス(WAN,LAN,*)を選択します。（*：WANとLAN両方） 開始IPアドレス：適用する最初のIPアドレスを入力します。 終了IPアドレス：適用する最後のIPアドレスを入力します。単一のIPアドレスを指定する場合は、[開始IPアドレス]と同じ値を入力します。 プロトコル：宛先のプロトコル(TCP,UDP,ICMP)を選択します。 ポート番号：ポートの範囲を選択します。左の枠に最初のポート、右の枠に最後のポートを入力します。単一のポートを指定する場合は、両方の枠に同じ値を入力します。

ボタン	説明
追加	項目を入力後に、クリックするとリストに追加されます。
修正	画面下部のリストから、修正したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、項目を修正できます。
削除	画面下部のリストから、削除したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、情報を削除できます。
クリア	入力した内容を消去します。
優先度アップ	リストで選択した情報の優先度を上げます。（リストで上に上がります。）
優先度ダウン	リストで選択した情報の優先度を下げます。（リストで下に下がります。）
優先度の修正	[優先度アップ][優先度ダウン]の設定を本製品に保存します。[優先度アップ][優先度ダウン]の設定をしたときは、必ずクリックしてください。

本体管理をする（管理設定）

本製品の他の設定を行います。

本体管理

[本体管理]ではWAN側からのリモート操作に関する設定、WAN側からのPingへの応答、UPnP、ゲームモード、VPNパススルーといった主にWAN側からLAN側へ通す各種プロトコルの設定を行います。

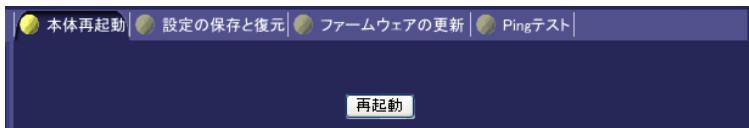
項目	説明
セキュアホスト HTTP(Web)設定	機能：WAN側からのリモート操作による設定の有効/無効を設定します。 ポート番号：WAN側からのアクセス時に使用するポート番号を指定します。（初期値：8080） IPアドレス：WAN側からのアクセスを許可するIPアドレスの範囲を指定します。単一のIPアドレスを指定する場合は、両方の枠に同じ値を入力します。 （＊を入力するとすべてのIPアドレスで許可）

項目	説明
WANポート Ping許可	機能：WAN側からのPingに応答するかどうかを指定します。 IPアドレス：遠隔地からのPing可能なネットワーク機器のIPアドレスの範囲を入力します。単一のIPアドレスを指定する場合は、両方の枠に同じ値を入力します。（＊を入力するとすべてのIPアドレスで許可） （初期値：機能⇒有効、IPアドレス⇒＊）
UPnP	有効：UPnPを有効にします。 無効：UPnPを無効にします。 UPnPとは、Universal Plug and Play（ユニバーサル・プラグ・アンド・プレイ）の略で、ネットワーク装置、ソフトウェア、および周辺機器の間での適合性を提供するネットワークアーキテクチャのことをいいます。本製品はUPnP方式対応ルータであり、UPnP方式に対応したOS/ソフトウェアとの組み合わせで動作します。
ゲームモード	有効：ゲームモードを有効にします。 無効：ゲームモードを無効にします。 オンラインゲームやボイスアプリケーションの使用中に問題が発生した際、ゲームモードを有効にすると、これらのアプリケーションが動作するようになる場合があります。オンラインゲームやボイスアプリケーションを使用していない時は、セキュリティ上、無効にしておくことをおすすめします。
VPNパススルー	PPTP：VPN接続時、PPTPを利用する場合に選択します。 IPsec：VPN接続時、IPsecを利用する場合に選択します。 VPN(Virtual Private Network)とは、インターネット経由で、専用線のように相互に接続し、パケットを暗号化するなど安全な通信を可能にするセキュリティ技術のことです。 WAN-LAN間にてVPNプロトコルを通し、本製品を介した状態であってもPPTPまたはIPsecを利用してVPN接続できます。

ボタン	説明
設定	設定内容を保存し、本製品を再起動します。設定内容を製品に反映します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

設定の管理をする(メンテナンス)

本製品の設定の処理ができます。

本体再起動

ボタン	説明
再起動	クリックすると本製品を再起動します。クリック後10秒ほどで再起動完了します。

設定の保存と復元

[設定の保存と復元]では、設定をファイルとして保存し、さまざまな状況に備えるためにファイルを復元することができます。また、工場出荷時の状態へ戻すことできます。（工場出荷時設定は、164ページをご覧ください。）

項目	説明
設定の保存	本製品の各種設定情報をファイルに保存できます。 ファイル名は、任意の名前を付けることができます。 （拡張子が.binで無くても使用できます。） デフォルトファイル名：config.bin
設定の復元	[設定の保存]で保存したファイルから、本製品の各種設定情報を復元できます。
初期設定に戻す	本製品を工場出荷時の状態へ戻します。

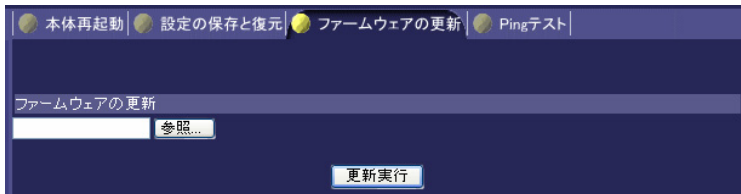
ファームウェアの更新

［ファームウェアの更新］では本製品のファームウェアを最新にアップデートすることができます。

1 弊社ホームページの「サポートライブラリ」（http://www.iodata.jp/lib/）から、最新のファームウェアファイルを入手します。

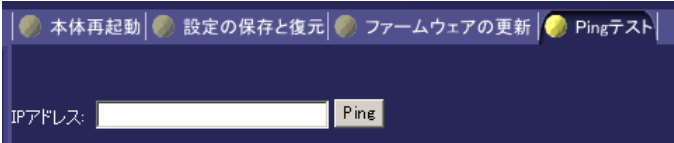
2 安全に更新するために、以下の作業を行ってください。
・本製品の設定をするパソコン以外のパソコンのケーブルを外します。
・WANポートのケーブルを外します。
・パソコンに常駐しているソフトウェアを停止します。

3 ［本体管理］の［ファームウェアの更新］をクリックします。

4 以下の画面が表示されますので、［参照］ボタンでファームウェアファイルの場所を指定します。
指定後、［更新実行］ボタンをクリックします。POWERランプが速く点滅しますので、２０秒ほどそのままお待ちください。
⇒更新が正常に終了すると、本製品は自動で再起動します。[戻る]ボタンをクリックするとトップページに戻ります。

更新中は、絶対に本製品の電源を切らないでください。故障の原因となります。

5 ［ステータス］→［デバイス情報］の［ファームウェアバージョン］で、更新後のバージョンになっていることをご確認ください。

Pingテスト

Pingテストでは、IPアドレスで接続先ネットワーク(WAN側/LAN側)と正常通信が行えているかどうかを確認することができます。

項目	説明
IPアドレス	IPアドレスをテキストボックスに入力し、[Ping]ボタンをクリックします。 正常通信時には、「Ping Result : Succeed」と表示されます。

Windows(MSN) Messengerについて

ここでは、Windows MessengerやMSN Messengerを利用する方法やUPnP設定について説明します。

Windows(MSN) Messengerを利用する

Windows（MSN） Messengerの確認方法を説明します。

☞ 118ページ

UPnPを設定する

UPnPの設定/確認方法を説明します。

☞ 119ページ

Windows(MSN) Messengerを利用する

本製品ではユニバーサルプラグアンドプレイ(UPnP)機能を使用し、下記に対応しております。

●Windows XPのWindows Messenger（Ver.4.6以上）
●Windows XPのMSN Messenger（Ver.5.0以上）
※UPnPを使用するときは、最新のアプリケーションをご利用ください。
※Windows MeのMSN Messengerは対象外です。

UPnP機能を有効にして、Windows(MSN) Messengerを利用すると、下記がお楽しみいただけます。

「インスタントメッセージの送信」
「音声チャット」
「ビデオチャット」
「アプリケーションの共有」
「ホワイトボード」
「リモートアシスタンス」
「ファイルまたは写真の送信」

以下のような環境の場合、UPnP機能を使用してもWindows Messenger、MSN Messengerの一部機能しかご利用できませんのでご注意ください。

・プロバイダから、プライベートIPアドレスを割り当てられている場合
・ルータ機能内蔵タイプのADSLモデムに接続して使用する場合

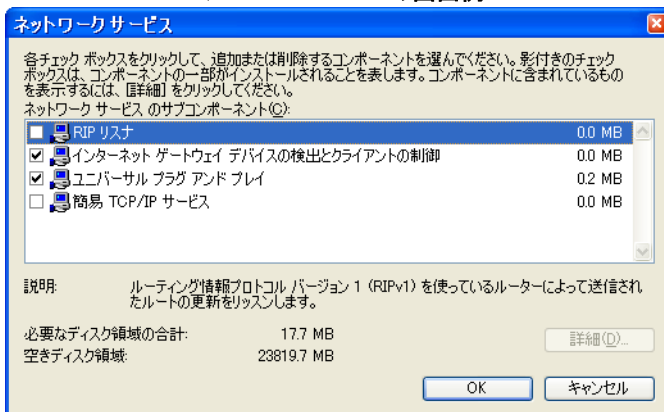
Windows Messenger、MSN Messengerの使用方法については、マイクロソフト株式会社にお問い合わせください。

UPnPを設定する

本製品は初期設定でUPnP機能が有効になっていますが、Windowsで下記設定をする必要があります。（【管理設定】の【本体管理】111ページ参照）

●UPnPを設定する

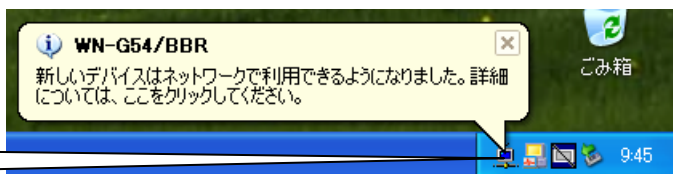
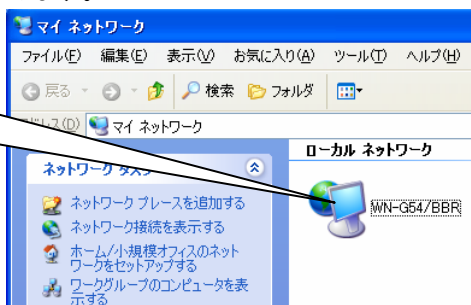
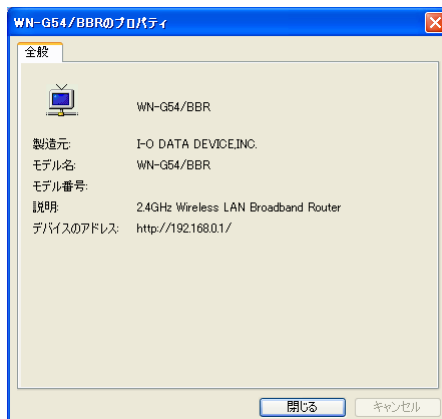
①[スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。
②[プログラムの追加と削除]を開き、[Windowsコンポーネントの追加と削除]を開きます。
③[ネットワークサービス]を選び、[詳細]ボタンをクリックします。
④[ユニバーサルプラグアンドプレイ]にチェックを入れて[OK]ボタンをクリックします。
また、Windows XP SP1の場合は、[インターネットゲートウェイ…]にもチェックがついていることを確認します。

▼Windows XP SP1の画面例

⑤「Windowsコンポーネントウィザード」に戻りますので[次へ]ボタンをクリックします。
⑥ウィザードが完了したら[完了]をクリックします。

これでUPnP機能は有効になります。

●UPnPを確認する

※画面例はWN-G54/BBRの場合です。
WN-AG/BBRの場合は、各画面で
WN-AG/BBRと表示されます。

①UPnP機能が有効になると、ネットワーク上の本製品が検出され以下の画面が表示されますのでクリックします。

②「WN-G54/BBR」（「WN-AG/BBR」）アイコン上で右クリックし、
[プロパティ]をクリックします。

③下の画面が表示されていたら、正常に本製品が認識されています。
※正常に認識されていない場合は、【●UPnPを設定する】(前ページ)をご覧の上、設定をご確認ください。

その他

出荷時設定に戻す

パスワードを忘れてしまったときなどに、本製品の設定を出荷時設定に戻します。（初期化）

☞ 122ページ

TCP/IPの基礎知識

本製品を設定するときに必要なTCP/IPについて説明します。

☞ 123ページ

AirMac、AirMac Extremeから接続する

AirMacやAirMac Extremeで本製品と接続する方法を説明します。

☞ 125ページ

困った時には

本製品を使用して異常があった場合にご覧ください。

☞ 135ページ

用語解説

用語について説明します。

☞ 152ページ

仕様

本製品の仕様です。

☞ 161ページ

出荷時設定に戻す

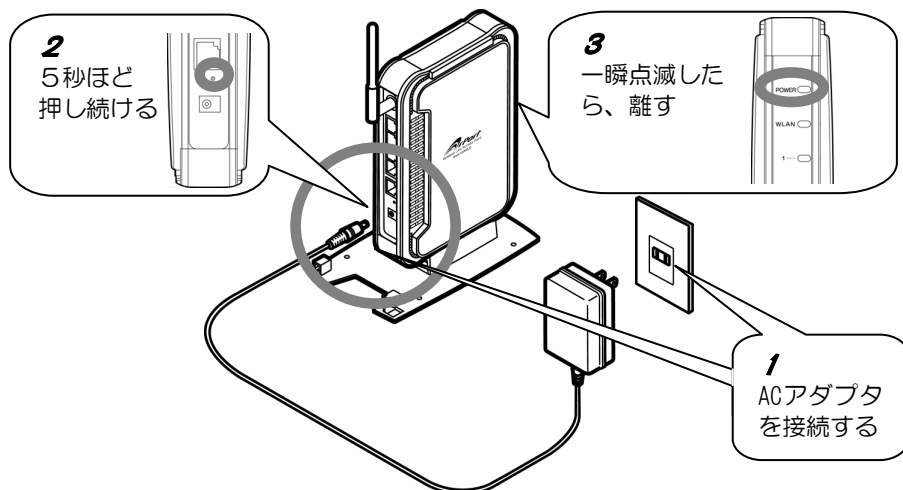
本製品のIPアドレスを忘れてしまったときなどに、本製品を出荷時設定に戻します。

以下の手順を行うと、設定内容はすべて出荷時設定に戻ります。

●リセットスイッチで戻す

1. すべてのLANケーブルを外し、ACアダプタを接続して、POWERランプが点灯したことを確認します。

2. 細いピンなどでリセットスイッチを5秒以上押し続けます。

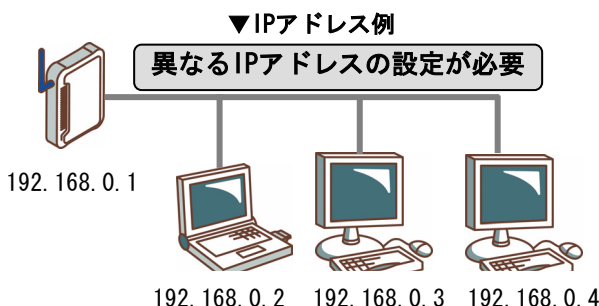
3. POWERランプが一瞬点滅したら、リセットスイッチを離します。
   →本製品が再起動します。[POWER]ランプ、[WLAN]ランプのみが点灯している状態になったら、再起動完了です。
   これで、出荷時設定に変更されました。

●Web設定画面で戻す

Web設定画面で行います。詳しくは、【設定の保存と復元】114ページをご覧ください。

TCP/IPの基礎知識

ここでは、本製品を使用する上で必要となるTCP/IPプロトコルのIPアドレスの基礎知識について説明します。必要に応じてお読みください。

同じネットワーク上では別々のIPアドレスが必要

ネットワーク上で使用するブロードバンドルータや各パソコンには、“192.168.0.1”のようにピリオドで４つに区切られた数字を設定する必要があります。
これをIPアドレスと言い、ネットワーク上で同じにならないように設定する必要があります。

▼IPアドレス例

インターネットのIPアドレスとLANのIPアドレス

IPアドレスには、「グローバルIPアドレス」と「ローカルIPアドレス」（プライベートIPアドレス）があります。
「グローバルIPアドレス」は、インターネットで使用するIPアドレスです。
「ローカルIPアドレス」は、LAN内で使用するIPアドレスです。

グローバル IP アドレス	ネットワーク上で別々の IP アドレスが必要であるように、インターネットを利用する世界中のすべてのパソコンがそれぞれ別々の IP アドレスを使用する必要があります。この IP アドレスがグローバル IP アドレスです。 通常、プロバイダより割り当てられます。
ローカル IP アドレス	インターネットに接続されていない環境（家庭内のみ、会社内のみなど）では、ネットワーク内で別々の自由な IP アドレスを使用することができます。 この IP アドレスがローカル IP アドレスです。

LAN内で使用するIPアドレスのクラス

IPアドレスは、ネットワークを構成するパソコンの台数に応じて、３つのクラスに分かれます。
大規模なネットワークならば［クラスＡのIPアドレス］、中規模なら［クラスＢのIPアドレス］、小規模の場合は［クラスＣのIPアドレス］となります。
同一のネットワーク内では、同一クラスのIPアドレスである必要があります。
実際には、IPアドレスの４つの数字の最初の数字の値で、クラスが分けられます。

この数字でクラス分け

IPアドレス　　xxx.xxx.xxx.xxx

例　本製品の出荷時のIPアドレス「192.168.0.1」の場合は「192」

クラスは次のように分類されています。

IP アドレスの最初の数字※	クラス	用途（ネットワークを構成するパソコンの台数）
1～126	クラスＡ	大規模ネットワーク用（最大約 1600 万台）
128～191	クラスＢ	中規模ネットワーク用（最大約 65000 台）
192～223	クラスＣ	小規模ネットワーク用（最大 254 台）

※「127、224～255」は通常の IP アドレスとしては使われていません。

例えば、数台～数十台で構成されるネットワークでは、クラスＣのIPアドレスを使用します。
通常、ネットワークを構成する場合は、以下の特別なローカルIPアドレスを使用します。

クラス	設定する IP アドレス
クラスＡ	10.0.0.0　～　10.255.255.255
クラスＢ	172.16.0.0　～　172.31.255.255
クラスＣ	192.168.0.0　～　192.168.255.255

AirMac、AirMac Extremeから接続する

ここでは、AirMacやAirMac Extremeで接続する手順を説明します。

AirMac、AirMac Extremeは、2.4GHz帯を使用します。61～62ページを参考にして、本製品のチャンネルを1～13chに設定しておいてください。

AirMac、AirMac Extremeから本製品に接続する

●Mac OS Xでの設定例 (Mac OS (Classic)の場合は125ページ参照)

1 メニューバーのAirMacアイコンをクリックし、[AirMacを入にする]を選択します。

2 AirMacのメニューから本製品に設定したSSIDを選択します。

SSIDは自動で検出されます。

※SSIDが表示されない場合は、129ページをご覧ください。

▼本製品のSSIDを“I-ODATA”に設定した時の選択例

AirMac、AirMac Extremeから本製品に接続する（つづき）

3 暗号化済みの本製品に接続する場合、暗号キーが要求されます。

AirMac、AirMac Extremeでは暗号キーの入力方法が特殊です。入力方法については、【AirMac、AirMac Extremeでの暗号化について】（133ページ）をご覧ください。

4 メニューバー上のAirMacアイコンが になっていることを確認します。

これで、接続完了です。

AirMac、AirMac Extremeから本製品に接続する（つづき）

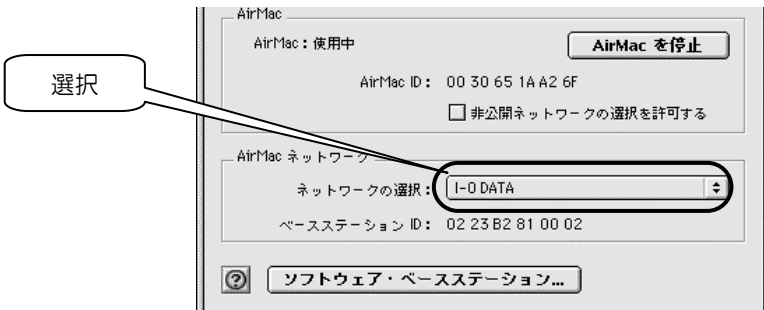
●Mac OS（Classic）での設定例

1 ［アップルメニュー］→［AirMac］をクリックします。

2 ［AirMacネットワーク］内の［ネットワークの選択］で本製品に設定したSSIDを選択します。

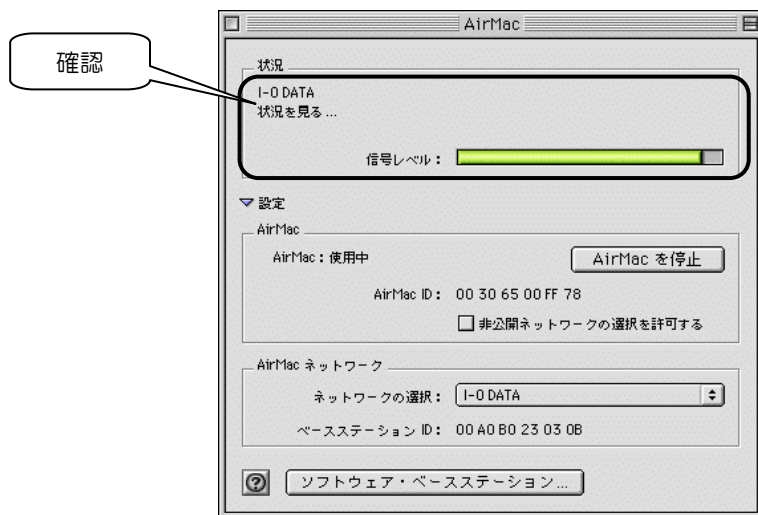
SSIDは自動で検出されます。

※SSIDが表示されない場合は、131ページをご覧ください。

▼本製品のSSIDを“I-O DATA”に設定した時の選択例

3 暗号化済みの本製品に接続する場合、暗号キーが要求されます。

AirMacでは暗号キーの入力方法が特殊です。入力方法については、【AirMac、AirMac Extremeでの暗号化について】（133ページ）をご覧ください。

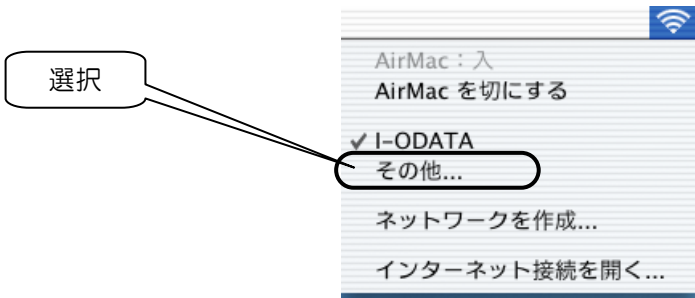
AirMac、AirMac Extremeから本製品に接続する（つづき）

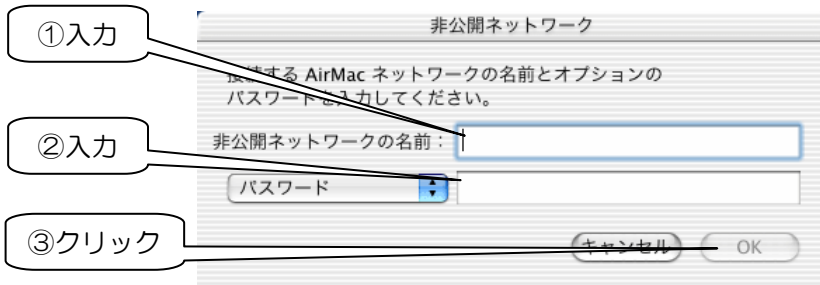
4 ［状況］内に本製品に設定したSSIDと信号レベルの表示があることを確認します。

これで、接続完了です。

SSIDを選択できない場合

本製品でSSID通知機能を無効に設定している場合は、SSIDが表示されません。
その場合下記の手順にしたがってください。

●Mac OS X の場合 (Mac OS (Classic)の場合は131ページ参照)

1 AirMacのメニューから[その他...]を選択します。

2 SSIDと暗号キーを入力し、[OK]ボタンをクリックします。

①[非公開ネットワークの名前]にSSIDを入力します。
②暗号化済みの場合、[パスワード]に暗号キー(WEP)を入力します。
AirMac、AirMac Extremeでは暗号キーの入力方法が特殊です。
入力方法については、【AirMac、AirMac Extremeでの暗号化について】（133ページ）をご覧ください。
③[OK]ボタンをクリックします。

SSIDを選択できない場合（つづき）

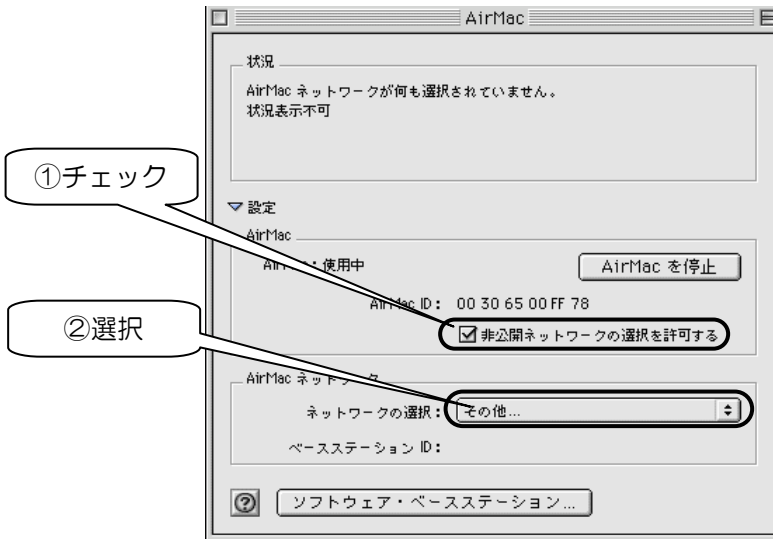
3 メニューバー上のAirMacアイコンが 📶 になっていることを確認します。

確認

これで、接続完了です。

SSIDを選択できない場合（つづき）

●Mac OS (Classic)の場合

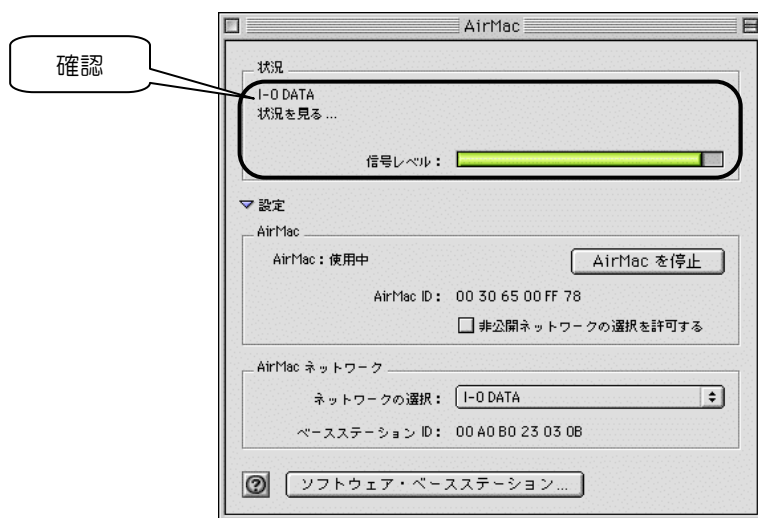
1 [非公開ネットワークの選択を許可する]にチェックを入れ、[その他]を選択します。

2 SSIDと暗号キーを入力し、[OK]ボタンをクリックします。

①[名前]にSSIDを入力します。

②暗号化済みの場合、[パスワード]に暗号キー(WEP)を入力します。
AirMacでは暗号キーの入力方法が特殊です。
入力方法については、【AirMac、AirMac Extremeでの暗号化について】（133ページ）をご覧ください。

③[OK]ボタンをクリックします。

SSIDを選択できない場合（つづき）

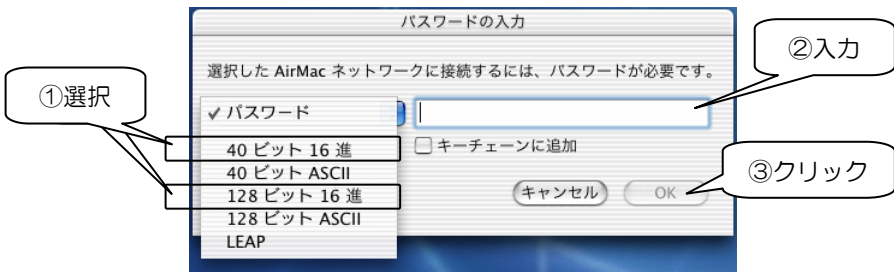
3 ［状況］内に本製品に設定したSSIDと信号レベルの表示があることを確認します。

これで、接続完了です。

AirMac、AirMac Extremeでの暗号化について

※[パスワード]とは、本製品で設定したWEP(暗号キー)のことです。

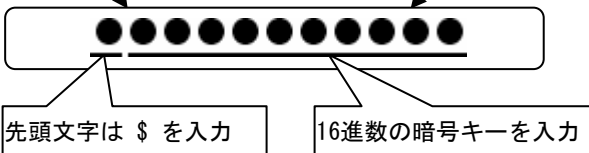
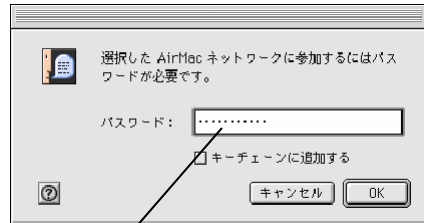
●本製品に16進数での暗号化を行っている場合

Mac OS X でパスワード項目を選択できる場合

①[40 ビット 16 進]または[128 ビット 16 進]を選択します。
②本製品で設定した暗号キーをそのまま入力してください。
③[OK]ボタンをクリックします。

上記以外の場合（パスワード項目を選択できない場合）

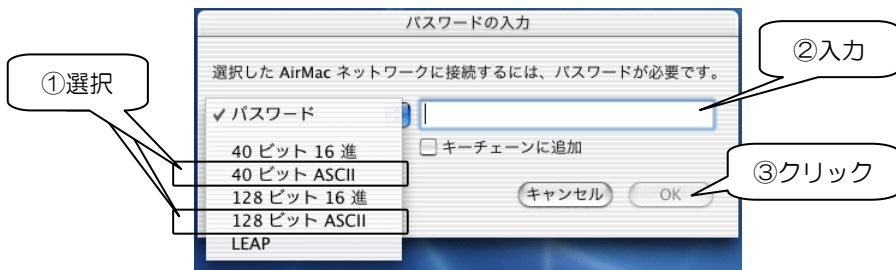
本製品で設定した暗号キーの頭に　$　(半角ドル記号)を付けて入力します。

例）$1234567890

▼Mac OS X　　▼Mac OS (Classic)

AirMac、AirMac Extremeでの暗号化について（つづき）

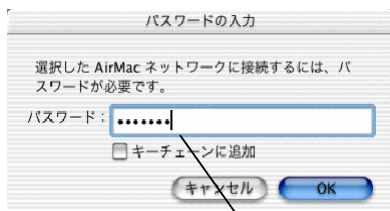
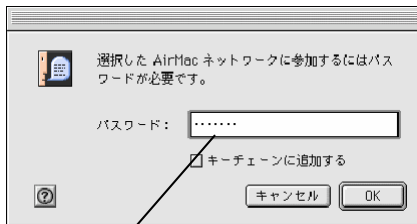
●本製品にASCII文字での暗号化を行っている場合

Mac OS X でパスワード項目を選択できる場合

①[40 ビット ASCII]または[128 ビット ASCII]を選択します。
②本製品で設定した暗号キーをそのまま入力してください。
③[OK]ボタンをクリックします。

上記以外の場合（パスワード項目を選択できない場合）

本製品で設定した暗号キーの前後を " (半角ダブルクォート)で囲んで入力します。

例）"abcde"

▼Mac OS X　　▼Mac OS (Classic)

困った時には

本製品を使用していて異常があった場合にご覧ください。

弊社ホームページをご覧ください

サポートWebページ内には、過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。

http://www.iodata.jp/support/

製品Ｑ＆Ａ
Newsなど

ファームウェアをバージョンアップすると解決することがあります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のファームウェアをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
ファームウェア

【設定時のトラブル】

状態	参照ページ
ランプが点灯しない	137
設定画面が表示されない	137
パスワードを入力しても、設定画面が起動しない	143
パスワードを忘れてしまった	143
設定画面で文字が入力できない	143
CATV 局がユーザを［コンピュータ名］で管理している場合の設定方法がわからない	143
PPPoE 接続で取得したグローバル IP アドレスを調べたい	143
パソコンを IP アドレスなどの自動取得（DHCP クライアント）として設定しているのに、IP アドレスなどを取得できない	144
LAN 側の IP アドレスを変更したら接続できなくなった	145
［TCP/IP］が表示されていない　（Windows Me/98 SE の場合）	145

【インターネット接続時のトラブル】

状態	参照ページ
PPPoE 認証でインターネットに接続できない	147
IP アドレス自動取得/固定設定接続でインターネットに接続できない（IP アドレスが取得できない）	148
ブラウザを起動すると、以下のエラーが表示される *「モデムが正しく応答していません。モデムが電話回線およびコンピュータに正しく接続されているかどうかを確認してください。」*	149

【無線LAN接続時のトラブル】

状態	参照ページ
暗号化（WEP）を使用したら通信速度が低下した	150
他のアクセスポイントと無線通信できない	150
無線LAN製品側のパソコンと通信できない	150
無線LAN製品側のパソコンとの通信速度が遅い、不安定	151
WN-AG/BBRを使用していて、IEEE802.11g/bとIEEE802.11aを切り替えたい	151

ランプが点灯しない

原因１	《[POWER]ランプが点灯しない場合》 ACアダプタを取り付けていない
対処	付属のACアダプタを取り付けてください。ACアダプタは必ず付属のものをご使用ください。ACアダプタを抜いた直後は、5秒以上待ってから取り付けてください。

原因２	《[WAN]ランプが点灯しない場合》 [WAN]ポートに取り付けたモデムのLANケーブルが正しく接続できていない、モデムの電源が入っていない
対処	モデムの接続とモデムの電源が入っていることをご確認ください。

原因３	《[LAN]ランプ(1～4)が点灯しない場合》 [LAN]ポート(1～4)に取り付けたパソコンのLANケーブルが正しく接続できていない、パソコンの電源が入っていない
対処	パソコンの接続と電源が入っていることをご確認ください。

設定画面が表示されない

原因１	接続が正しくない
対処	【②設定用パソコンをつなぐ】(27ページ)をご覧になり、接続が正しいことをご確認ください。

原因２	設定用パソコンのIPアドレスが自動取得になっていない。
対処	【③IPアドレスを設定する】(35ページ)をご覧になり、IPアドレスの設定が正しいことをご確認ください。

原因３	セキュリティ関連のソフトウェアをインストールしている。
対処	セキュリティ関連のソフトウェアの機能を一部解除すると動作する場合があります。詳しくは、セキュリティ関連のソフトウェアメーカにお問い合わせください。

原因４	【54ページの参考で本製品のIPアドレスを変更した場合】 IPアドレスが正常に取得できていない
対処	現在、設定用パソコンで取得しているIPアドレスをいったん解放し、再取得します。次ページの参考にしたがってください。

●IPアドレスの解放と更新方法

《Windows XP/2000の場合》

①コマンドプロンプトを起動します。

・Windows XPの場合

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→
［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows 2000の場合

［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］
を順にクリックして起動します。

②IPCONFIG -RELEASE　と入力し、[Enter]キーを押します。
→IPアドレスなどがすべて0.0.0.0になります。

③IPCONFIG -RENEW　と入力し、[Enter]キーを押します。
→IPアドレスを再取得します。

④IPCONFIG -ALL　と入力し、[Enter]キーを押します。
→IPアドレスをご確認ください。

《Windows Me/98 SEの場合》

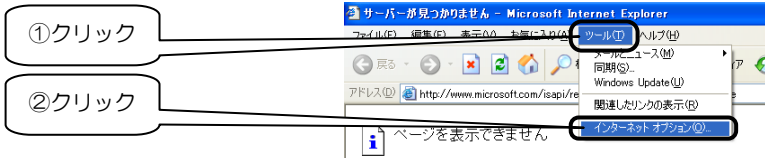
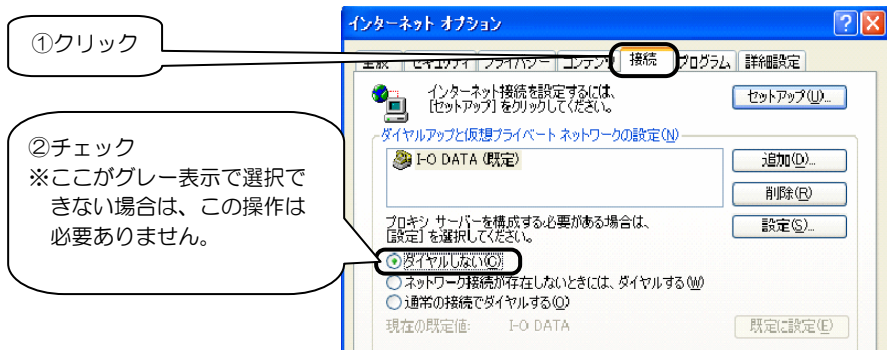
①WINIPCFGを起動します。
［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックして、WINIPCFG
と入力し、[OK]ボタンをクリックします。

②[すべて解放]ボタンをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。

③パソコンを再起動します。

原因５	Webブラウザがダイヤルアップする設定になっている。
対処	下記の手順にしたがってください。

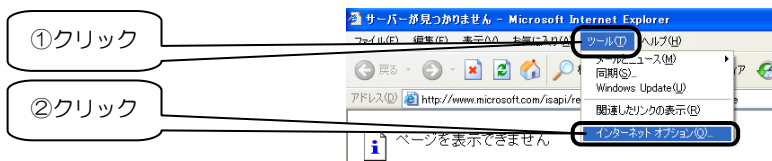
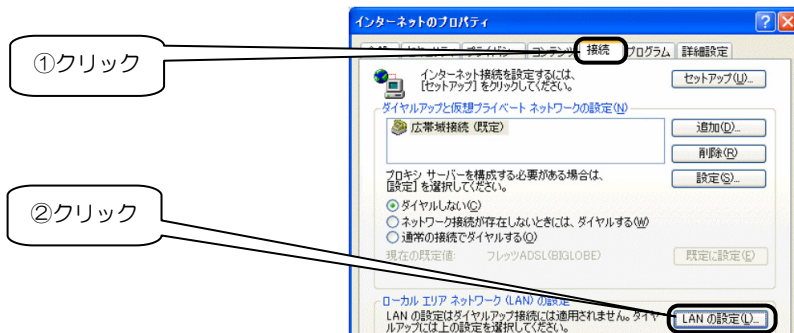
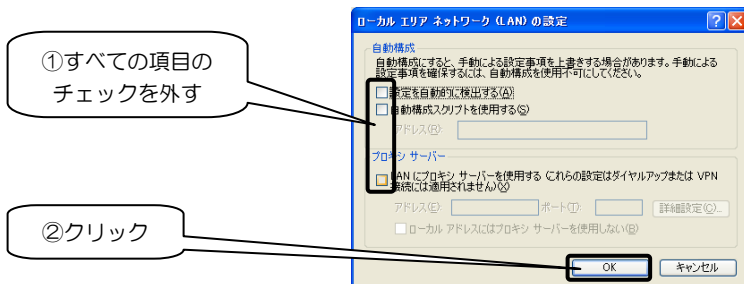
1 ［Internet Explorer］画面の［ツール］メニューの［インターネット オプション］をクリックします。

※本手順以降、画面は［Internet Explorer 6.0］を例にしています。

2 ［接続］タブをクリックし、［ダイヤルしない］をチェックします。

これで設定は完了です。

原因６	Webブラウザが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている。
対処	ブラウザがプロキシサーバを使用する設定になっている場合、 本製品の設定画面を呼び出す事ができません。 ブラウザの設定でプロキシサーバを使わない設定にしてください。 下記の各ページをご覧ください。 Windows の場合⇒次ページ Mac OS X の場合⇒141 ページ Mac OS(Classic)の場合⇒142ページ

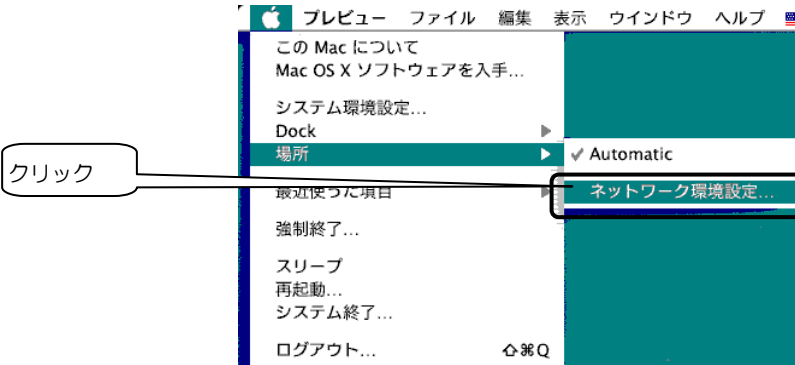
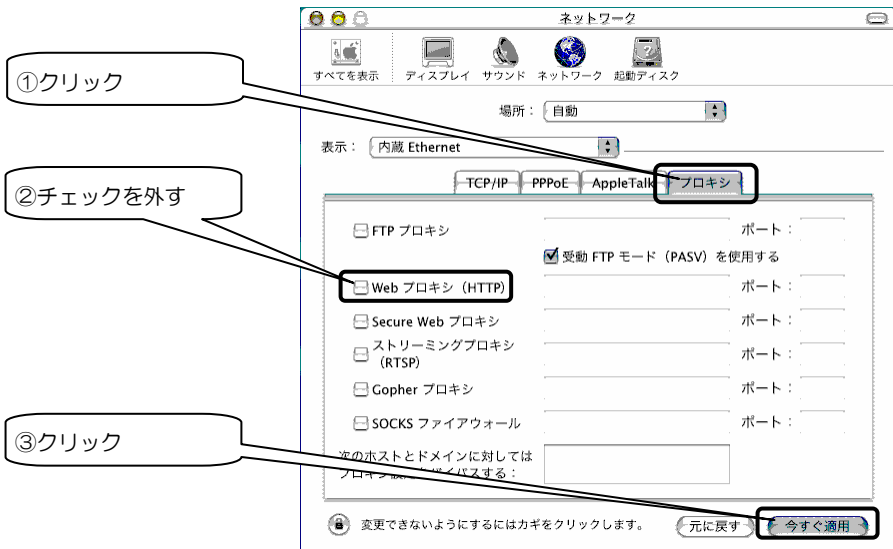
Windowsでプロキシの設定をする

1 Internet Explorerを起動し、[ツール]メニューの[インターネット オプション]をクリックします。

※本手順以降、画面は［Internet Explorer 6.0］を例にしています。

2 [接続]タブをクリックし、[LANの設定]ボタンをクリックします。

3 下記の設定を行います。

4 [インターネット オプション](または[インターネットのオプション])へ戻りますので、[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。

これで設定は完了です。

Mac OS Xでプロキシの設定をする

1 ［アップルメニュー］→［場所］→［ネットワーク環境設定...］を選択します。

2 ［プロキシ］タブをクリックし、以下の設定を行います。

3 設定後、左上の（×）をクリックして画面を閉じます。

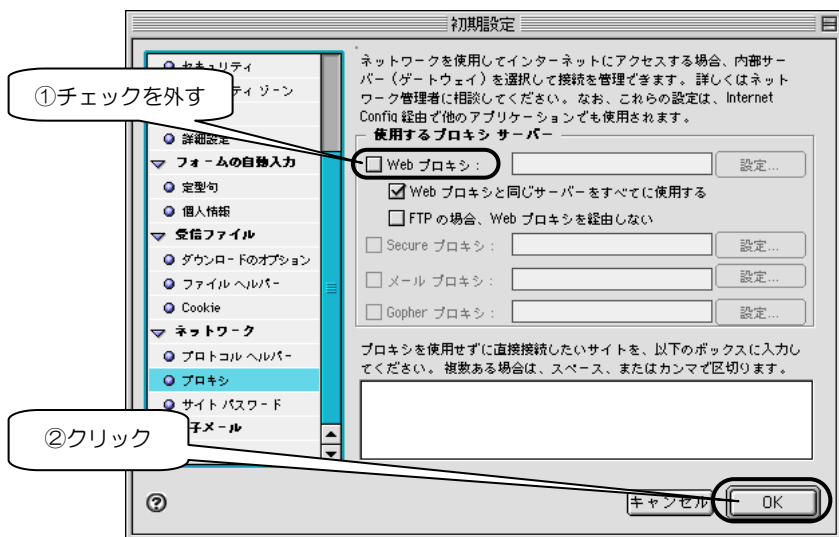
これで設定は完了です。

Mac OS (Classic)でプロキシの設定をする

1 Internet Explorerを起動します。

2 ［編集］→［初期設定...］を選択します。

3 ［▽ネットワーク］の［プロキシ］を選択します。

4 以下の設定を行います。

これで設定は完了です。

パスワードを入力しても、設定画面が起動しない

原因	パスワードが間違っている
対処	正しいパスワードを入力してください。（大/小文字もご確認ください。）パスワードを忘れてしまった場合は、【パスワードを忘れてしまった】（下記）をご覧ください。

パスワードを忘れてしまった

対処	【出荷時設定に戻す】（122ページ）で、出荷時設定に戻してください。パスワードは出荷時設定で設定されていません。（未入力） また、その他の設定も初期化されますので、再設定してください。

設定画面で文字が入力できない

原因１	入力個所をクリックしていない
対処	一度入力したい個所をクリックしてから入力してください。

原因２	入力できない文字を入力しようとしている
対処	入力できる文字（半角英数字）かを確認してから入力してください。

CATV局がユーザを［コンピュータ名］で管理している場合の設定方法がわからない

対処	CATV局からの［コンピュータ名］を、本製品の［ホスト名］に設定してください。 （[有線設定]→[LAN側設定]→[ホスト名]で設定してください。）

PPPoE接続で取得したグローバルIPアドレスを調べたい

対処	設定メニューから［ステータス］をクリックします。 PPPoEで取得したグローバルIPアドレス（[IPアドレス]）、プロバイダ側でゲートとなっているマシンのグローバルIPアドレス（[デフォルトゲートウェイ]）、DNS(ネーム)サーバーアドレスを確認する事ができます。

パソコンをIPアドレスなどの自動取得（DHCPクライアント）として設定しているのに、IPアドレスなどを取得できない

原因	ネットワークの設定に問題がある
対処	本製品の[1]～[4]ランプ(LAN)が正しく点灯している場合は、以下の対応方法が考えられます。 ⇒ 138 ページのアドレスの解放と更新を行う。 ⇒ LAN アダプタのドライバを最新のものへ更新する。 （ドライバの更新、通信方式の変更方法につきましては LAN アダプタのメーカへお問い合わせください。） ⇒ パソコンとの間にスイッチングハブがある場合は、スイッチングハブを初期化する。 （スイッチングハブの初期化方法についてはスイッチングハブのメーカへお問い合わせください。） ⇒ 本製品を再起動する。（AC アダプタを抜き差ししてください。） ⇒ FTTH/ADSL/CATV モデムを初期化（リセット）する。 （モデムの初期化（リセット）方法についてはモデムメーカへお問い合わせください。） これらの方法でも DHCP クライアントとして IP アドレスなどを取得することができない場合は、固定（手入力）でネットワークの設定を行ってください。なお、固定でネットワークの設定を行う場合は、ネットワークアドレスを合わせる必要があります。 デフォルト値（工場出荷値）で運用する場合は、TCP/IP 設定に以下の値を使用します。 **IP アドレス：192.168.0.2～192.168.0.254 から他の機器と重複しない任意の IP アドレス** **サブネットマスク：　255.255.255.0** **デフォルトゲートウェイ（ルータアドレス）：　192.168.0.1** **DNSアドレス：　192.168.0.1**

LAN側のIPアドレスを変更したら接続できなくなった

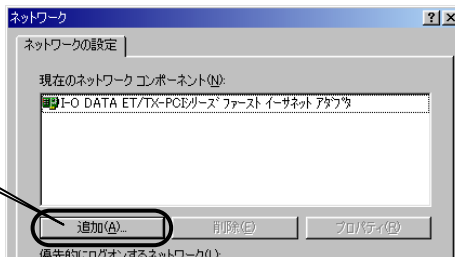
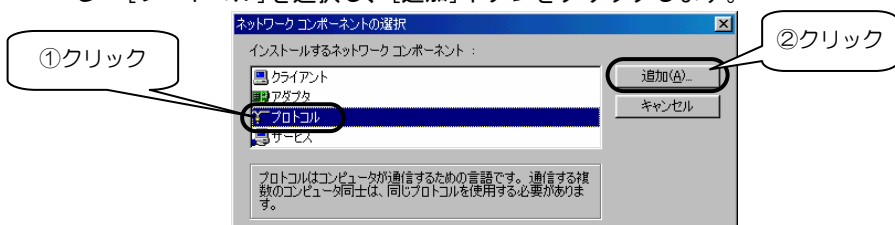
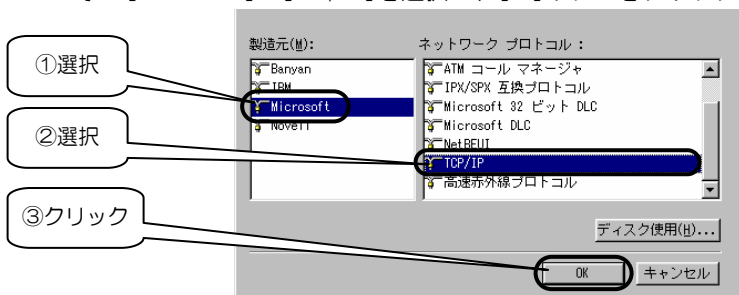
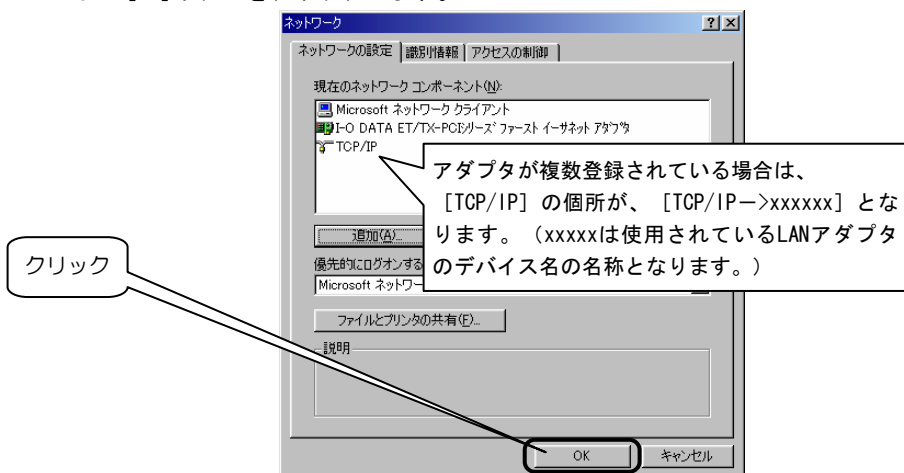
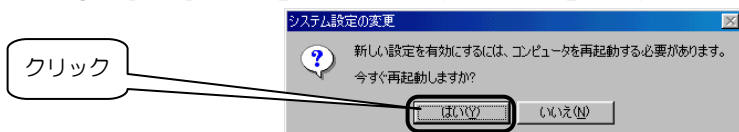
対処	**・パソコンに固定で IP アドレスを設定している場合** ①パソコンの IP アドレスには、新しく設定した（変更した）ルータの LAN 側 IP アドレスと同じネットワーククラスの IP アドレスを設定してください。 ②パソコンのゲートウェイ（ルータアドレス）と DNS アドレスには、新しく設定した（変更した）ルータの LAN 側 IP アドレスを設定してください。 **・パソコンに IP アドレスを自動的に取得させている場合** パソコンの再起動、または、パソコンが自動的に取得しているアドレスの解放と書き換えを行ってください。（【IPアドレスの解放と更新方法】（138ページ）参照）

[TCP/IP]が表示されていない （Windows Me/98 SEの場合）

原因	TCP/IPプロトコルがインストールされていない
対処	下記の手順でTCP/IPをインストールします。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

2 [追加]ボタンをクリックします。

※以下の画面は、弊社製ET/TX-PCIシリーズを例にしています。

3 ［プロトコル］を選択し、［追加］ボタンをクリックします。

4 ［Microsoft］の［TCP/IP］を選択し、［OK］ボタンをクリックします。

5 ［OK］ボタンをクリックします。

6 ［はい］ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。

PPPoE認証でインターネットに接続できない

原因１	モデム(ONU)が正しく接続されていない
対処	本製品の[WAN]ランプが点灯していることをご確認ください。 点灯していない場合は、モデム(ONU)の接続と電源が入っていることをご確認ください。 モデムのファームウェアをアップデートできる場合は、ファームウェアアップデートしてください。方法については、モデムの取扱説明書をご覧ください。

原因２	［WAN］側でPPPoE接続の設定が有効になっていない（PPPoEの認証に失敗している）
対処	設定画面の[有線設定]→[WAN側設定]→[PPPoE認証接続]で［接続ユーザー名］と［接続パスワード］などの設定を再度確認してください。（接続ユーザー名は、NTTフレッツシリーズの場合、@ から後ろもすべて入力します。）

原因３	本製品に接続したパソコンのTCP/IP設定に誤りがある
対処	パソコンの TCP/IP 設定をご確認ください。 ⇒本製品の DHCP 機能を利用して、IP アドレスを自動的に取得している場合は、IP アドレスの解放と書き換えを行ってください。 （138 ページの【参考】をご覧ください。） ⇒IPアドレスを固定で設定している場合は、パソコンに設定したIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバのアドレスを確認してください。

原因４	ADSLモデム(ブリッジタイプ)を使用するが、PPPoE認証を使用しないプロバイダである
対処	PPPoE 認証を行わない場合は、ADSL モデム(ブリッジタイプ)であっても PPPoE の設定を行う必要はありません。 設定画面の[有線設定]→[WAN側設定]→[IPアドレス自動取得/固定設定接続]で設定してください。（70ページ参照）

原因５	使用しているADSLモデムがルータタイプのモデムである
対処	ルータタイプの ADSL モデムと接続する場合には、PPPoE の設定を行う必要はありません。 設定画面の[有線設定]→[WAN 側設定]→[IP アドレス自動取得/固定設定接続]で設定してください。(70 ページ参照)

原因６	IPアドレスが固定されていても、実際はIPアドレス自動取得接続で設定するタイプである
対処	[D タイプ : PPPoE 認証による IP アドレス固定設定接続] で設定していた場合、[C タイプ : PPPoE 認証による IP アドレス自動取得接続] で設定してみてください。(52 ページ以降参照)

原因７	回線が不安定である
対処	モデムを再起動（リセット）してください。方法についてはモデムの取扱説明書をご覧ください。 その後、パソコンとモデムを直接つないで、インターネットに接続できるかをご確認ください。 接続できない場合は、しばらく時間をおいてからお試しください。

IPアドレス自動取得/固定設定接続でインターネットに接続できない（IPアドレスが取得できない）

原因１	回線が不安定である
対処	モデムを再起動（リセット）してください。方法についてはモデムの取扱説明書をご覧ください。 その後、パソコンとモデムを直接つないで、インターネットに接続できるかをご確認ください。 接続できない場合は、しばらく時間をおいてからお試しください。

原因２	（Bタイプ : IPアドレス固定設定接続の場合のみ） [WAN]ポートにIPアドレスが設定されていない
対処	設定画面で本製品のWAN側IPアドレスをプロバイダ指定のものに設定してください。設定画面の[有線設定]→[WAN側設定]→[IPアドレス自動取得/固定設定接続]で設定してください。（70ページ参照）

原因３	本製品に接続したパソコンのTCP/IP設定に誤りがある
対処	パソコンの TCP/IP 設定をご確認ください。 ⇒本製品の DHCP 機能を利用して、IP アドレスを自動的に取得している場合は、IP アドレスの解放と書き換えを行ってください。 （138 ページの【参考】をご覧ください。） ⇒IPアドレスを固定で設定している場合は、パソコンに設定したIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバのアドレスを確認してください。

原因４	プロバイダからIPアドレスを取得できていない
対処	プロバイダによっては、MAC アドレスを登録したネットワーク機器しか接続できない場合があります。 MAC アドレスは、LAN ボード/カードや本製品などにそれぞれ別々の値が設定されていますが、プロバイダ側が本製品導入以前に接続していたパソコンの LAN ボード/カードの MAC アドレスを登録したままにしていると、本製品を導入してもプロバイダ側が本製品の MAC アドレスを認識しません。プロバイダへ本製品の WAN 側 MAC アドレスに登録を変更する手続きを行ってください。 本製品のWAN側MACアドレスは本体背面のシールか、設定メニューの[ステータス]の[デバイス情報]で確認することができます。

ブラウザを起動すると、以下のエラーが表示される

「モデムが正しく応答していません。モデムが電話回線およびコンピュータに正しく接続されているかどうかを確認してください。」（以下の画面）

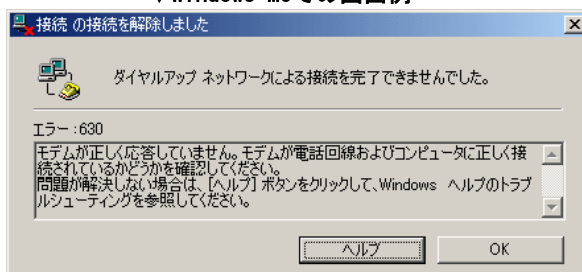
▼Windows Meでの画面例

接続 の接続を解除しました

ダイヤルアップ ネットワークによる接続を完了できませんでした。

エラー：630

モデムが正しく応答していません。モデムが電話回線およびコンピュータに正しく接続されているかどうかを確認してください。
問題が解決しない場合は、[ヘルプ] ボタンをクリックして、Windows ヘルプのトラブルシューティングを参照してください。

ヘルプ　OK

原因	Webブラウザがダイヤルアップする設定となっている
対処	【設定画面が表示されない】の原因５（139ページ）をご覧ください。

暗号化（WEP）を使用したら通信速度が低下した

原因	暗号化通信では、送信するデータをすべて暗号化／復号化する必要がありますので、通信速度が若干低下する場合があります。

他のアクセスポイントと無線通信できない

原因	本製品同士を含むアクセスポイント同士の無線通信はできません。

無線LAN製品側のパソコンと通信できない

原因１	無線LAN製品側パソコンの無線の設定が正しくない
対処	無線LAN製品側のモードが[Infrastructure]になっていることと、SSIDが本製品の値と同じになっていることを確認してください。

原因２	暗号キーの設定があっていない
対処	⇒本製品と無線LAN製品側の暗号キーの設定を同じ暗号キーにしてください。 ⇒デフォルトキー（キー１～４）を変更した場合は、無線LANアダプタ側のデフォルトキーを本製品で設定したものと合わせてください。

原因３	パソコンのIPアドレスの設定が正しくない
対処	⇒本製品のDHCP機能を利用してIPアドレスを取得している場合は、本製品の電源が入っていることを確認してから、パソコンの電源を入れてください。または、以下の条件のIPアドレスに手動設定してください。 ”本製品が割り当てるIPアドレスと同一クラス”　かつ ”本製品が割り当てるIPアドレスの範囲外” ⇒固定のIPアドレスを設定する場合は、本製品のIPアドレスと同一クラスのIPアドレスを設定してください。

原因４	無線LAN製品側のパソコンがWindows Me/98 SEの場合で、正常にログインしていない（パソコン起動時の［ユーザー名］［パスワード］の入力画面で［キャンセル］ボタンをクリックしているなど）
対処	パソコン起動時の［ユーザ名］［パスワード］の入力画面で正しい［ユーザ名］［パスワード］を入力してください。

原因５	電波の状態が悪い
対処	無線LAN製品と本製品間の距離を短くしたり、障害物を取り除いて見通しをよくしたり、チャンネルを変更してみてください。

原因６	MACアドレスなどで接続制限されているLANアダプタから通信している
対処	接続制限を解除してください。（【接続制限する(アクセス制御)】94ページ参照)

無線LAN製品側のパソコンとの通信速度が遅い、不安定

原因１	電波の状態が悪い
対処	無線LAN製品と本製品間の距離を短くしたり、障害物を取り除いて見通しをよくしたり、チャンネルを変更してみてください。

原因２	ノートパソコンで省電力機能が有効になっている
対処	省電力機能の設定を無効にしてください。（詳しくはパソコンの取扱説明書をご覧ください。）

WN-AG/BBRを使用していて、IEEE802.11g/bとIEEE802.11aを切り替えたい

対処	WN-AG/BBRの無線通信規格(IEEE802.11g/bかIEEE802.11a)の切り替えはチャンネルで行います。 ・IEEE802.11g/b ⇒ 1～13ch ・IEEE802.11a ⇒ 34/38/42/46ch チャンネルについて詳しくは、61～62ページの【参考】をご覧ください。

用語解説

10BASE-T

ツイストペアケーブル（10BASE-T ケーブル）を使用した Ethernet の通信方式の一つで、最大伝送速度は 10Mbps です。

100BASE-TX

ツイストペアケーブル（100BASE-TX ケーブル）を使用した Ethernet の通信方式の一つで、最大伝送速度は 100Mbps です。

Ad hoc

「アドホック」といい、アクセスポイントを介さずに、パソコン同士が直接通信しあう形態です。
他にインフラストラクチャモード（Infrastructure mode）があります。

ADSL　*(Asymmetric Digital Subscriber Line)*

従来の電話回線（メタルケーブル）を利用し、専用のモデムで高速なデータ伝送を可能にしたデジタル技術の１つです。

CATV　*(CAble TV)*

同軸ケーブルによって接続した限定地域に対して、多様なサービスを提供する TV 放送システムです。

DHCP　*(Dynamic Host Configuration Protocol)*

自動的にネットワークの設定を行うプロトコル（通信手順）のことです。
DHCP サーバーはネットワークの DHCP クライアントに対して、自動的にネットワークの設定を行います。

DMZ　*(DeMilitarized Zone)*

Web、DNS、FTP などの公開サーバをインターネット側からの不正な攻撃から守るため、ファイヤウォールにより設けられたセグメントです。

DNS (*Domain Name System*)

TCP/IP ネットワークで使われ、コンピュータについた名前と実際の IP アドレスを関連付けるシステムです。

DNS サーバ

ネットワークのグループについた名前を問い合わせると、その IP アドレスを教えてくれるサーバのことです。DNS サーバを使用することにより、WWW ブラウザ等のアドレス入力欄でアドレスを文字で入力することができます。
（IP アドレスの数値を直接入力する必要が無くなります）

DS-SS (*Direct Sequence-Spread Spectrum*)

「直接拡散・スペクトラム拡散」方式といい、無線通信における変調方式の１つです。干渉がおきにくい、ノイズの影響を受けにくい、などの特徴があります。

Ethernet

Xerox 社、DEC 社、Intel 社の 3 社が仕様を開発した LAN の通信方式で、100BASE-TX、10BASE-T があります。

FTTH (*Fiber To The Home*)

光ファイバーを用いた高速デジタル通信網を個々の家庭まで敷設する通信ネットワーク構想です。

IEEE802.11

IEEE（The Institute of Electrical and Electronics Engineers,Inc.）という非営利団体が定める無線LANの国際的な標準規格です。
IEEE802.11bでは、通信速度が11Mbpsまで拡張されています。
IEEE802.11gとIEEE802.11aでは、通信速度が54Mbpsまで拡張されています。

Infrastructure

「インフラストラクチャ」といい、アクセスポイントを介して通信する無線 LAN の形態のことです。

IP アドレス

TCP/IP プロトコル（インターネットで使用されている規約）を使用して構築されるネットワークで、接続されている全ての機器を区別するために付けられるアドレス（番地）のことです。

IP マスカレード

プロバイダから提供された一つのグローバル IP アドレスを複数のプライベート IP アドレスへ変換し、同時に複数台のコンピュータでインターネットに接続できるようにする機能です。NAT とは異なり、同時にインターネットへ接続できるコンピュータの台数は、プロバイダから提供されたグローバル IP アドレスの数には依存しません。
ただし、IP マスカレードでは正しく動作しないアプリケーションもありますので、その場合は NAT を使用します。

ISP　*(Internet Service Provider)*

インターネット・サービス・プロバイダの略称です。（単にプロバイダと呼ばれることが多い）
企業や個人に対しインターネットへ接続する通信サービスを提供する回線業者のことです。

LAN　*(Local Area Network)*

ローカル・エリア・ネットワークの略称です。小規模なコンピュータネットワークのことです。
LAN に対して WAN(Wide Area Network)があり、WAN は LAN 同士を結ぶ大規模なネットワーク（インターネット等）のことです。

MAC アドレス　*(Media Access Control Address)*

Ethernet 機器ごとの固有の物理アドレスです。
MAC アドレスは、先頭からの３バイトのベンダーコードと残り３バイトのユーザコードの６バイトで構成されています。
ベンダーコードはIEEEが管理／割当を行っており、ユーザコードは、Ethernet機器の製造メーカが独自の番号（重複することのない）で管理を行い、世界中で単一のアドレスが割り当てられています。Ethernetではこのアドレスを元にしてフレームの送受信を行っています。

NAT　*(Network Address Translator)*

LAN で使用しているプライベート IP アドレスをインターネットで使用できるグローバル IP アドレスへ変換することにより、プライベート IP アドレスしか持たない LAN のコンピュータからインターネットへ接続できるようにする機能です。
NAT の場合、プライベート IP アドレスとグローバル IP アドレスは 1 対 1 で対応していなければなりません。同時にインターネットへ接続できるコンピュータの台数は、ISP や RAS サーバーから提供されたグローバル IP アドレスの数に依存します。

OFDM　*(Orthogonal Frequency Division Multiplex)*

「直交周波数分割多重」方式といい、フェージング（電波の受信レベル変動）やマルチパス（多重波伝送路）に強いという特徴があります。

POP　*(Post Office Protocol)*

電子メールをスプールしているシステムから、TCP/IP プロトコルを使ってメール
スプールの内容を読み出すためのプロトコルです。
プロトコル仕様は RFC1939 で定義されています。
POP3 サーバとは受信メールサーバのことを指します。

PPPoE　*(PPP over Ethernet)*

ネットワーク（Ethernet）上で、ダイヤルアップ接続（PPP 接続）のような利用者のユーザー名、パスワードのチェックを行うために作り出された規格です。

SMTP　*(Simple Mail Transfer Protocol)*

電子メールを送信するためのプロトコルです。
プロトコル仕様は RFC821 などで定義されています。
SMTP サーバとは送信メールサーバのことを指します。

SS ID　*(Service Set ID)*

複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。
SS IDが一致していないとそのネットワークには参加できません。

TCP/IP　*(Transmission Control Protocol / Internet Protocol)*

通信プロトコルの１つ。
最も普及しているプロトコルで、インターネット上の通信にも使われています。

Telnet

遠隔地からほかのコンピュータにログインして、遠隔操作を行なう仮想端末プロトコルです。
プロトコル仕様はRFC854で定義されています。
テキストベースの通信を行ない、コマンドを送信する際にはエスケープコードを利用します。一般的にはTCP/IPのポート番号23番を使用します。

WAN　*(Wide Area Network)*

通常はLANに対比して使用される言葉で、遠隔地にあるコンピュータ同士（LAN同士）を公衆回線網を使って接続したネットワークのことです。

WEP　*(Wired Equivalent Privacy)*

IEEE802.11bに含まれる標準の暗号化方式です。
各無線通信機器同士が共通の暗号鍵を使用して通信データを暗号化します。
暗号鍵を知らないパソコンは通信に参加することができません。

xDSL　*(x Digital Subscriber Line)*

ADSLやSDSL、HDSL、VDSLなどを総称して呼ぶ言葉です。

アクセスポイント

インフラストラクチャモード（Infrastructure mode）での通信の中継点となるポイントです。
他のパソコンでは、アクセスポイントと通信することで他のパソコンと通信します。
有線LANと無線LANの中継点ともなります。

クライアント

ネットワーク内で、サービスを受ける側のことです。

グローバルIPアドレス

インターネットを使うことを許されたIPアドレスです。

ゲートウェイ

通信手順の異なるネットワーク同士を接続するための機器やシステムです。
ゲートウェイに該当する機器のIPアドレス（ゲートウェイアドレス）をゲートウェイと呼ぶこともあります。

サーバ

ネットワーク内で、他のパソコン（クライアント）からの要求を受け、サービスを提供する側のコンピュータのことです。

サブネットマスク

LANで使用可能なアドレスの範囲を決めるために、IPアドレスと組み合わせる値です。

スタティックルーティング

ルーティングするための情報をあらかじめルータに設定しておき、常に決まったルートを通って目的のノード（ネットワークに接続されているコンピュータ等）へパケット（ネットワーク内を流れるデータ）を送る方法です。
静的ルーティングとも呼びます。

セッション

TCP/IP プロトコルによるデータ処理の単位です。

ダイヤルアップ IP

インターネットへ接続する際に、モデムや TA 等で ISP へ電話をかけて接続する方法です。

チャンネル

無線通信では、使用する周波数帯域を分割して、それぞれの帯域で異なる通信を行うことができます。
チャンネルとは、その分割された個々の周波数帯域のことです。

パケット

ネットワーク内を流れるデータです。

パケットフィルタ

ルータの機能を強化して、個々のパケットの単位で通過させたり、禁止したりできるようにしたものです。

ハブ

10BASE-T ケーブル（RJ-45 規格）を複数本集めて、通信を行うための LAN 機器（集配線装置）です。

ピアツーピア接続

サーバ／クライアントのような上下関係の無い対等な関係で行う通信のことです。

ファイアウォール

組織内外からの通信すべてに対して、通過させたり、禁止したりすることによって、必要なサービスだけをユーザーに提供しつつ、セキュリティを確保します。名前の由来は「防火壁（firewall)」にちなんでいます。

ファームウェア

本製品内部で動作し、本製品のコントロールを行うプログラムです。

プライベートIPアドレス

組織内部のネットワークアドレスとして、自由に利用できるIPアドレス。
以下のものが利用できるとされています。

ClassA　:　10.0.0.0～10.255.255.255
ClassB　:　172.16.0.0～172.31.255.255
ClassC　:　192.168.0.0～192.168.255.255

ブリッジ

LANのセグメント間を相互接続する機器で、OSI参照モデルのデータリンク層で動作します。
パケットの衝突(コリジョン)が増え、パフォーマンスが低下するという事態を回避するためコリジョンドメインを制限して、ネットワークを効率化するために作られたネットワーク機器です。

リンク

各機器間を接続することです。

ルータ

複数のLAN等、ネットワークを相互に接続するための機器です。
異なるネットワーク間の中継点に設置して、ネットワークを介して送信されるデータをきちんと目的の場所に届ける役目を持っています。
ネットワーク内を流れてきたデータが外部のネットワーク宛であれば、ルータはそのデータを外部に送り出します。
ルータはそのときにどういう経路でデータを配信するかまで判断し、最適なルートに送り出しています。
必要によっては通過させるデータやプロトコルの種類を制限することも可能です。

ルーティング

ネットワークのパケットを、正しく目的ノード（ネットワークに接続されている機器）へ届くように制御することです。

ローミング

複数のアクセスポイントを設置した環境で、各アクセスポイントのサービスエリア間を移動した場合に、自動的にアクセスポイントを切り替える機能です。
その場合、それぞれのアクセスポイントのSS IDとWEPが同じ設定である必要があります。

バーチャルサーバ（仮想サーバ）

「バーチャルサーバ機能」といい、本製品ではWeb、DNS、FTPなどのサーバをインターネット上へ公開する場合に使用します。

仕様

●ハードウェア仕様【ブロードバンドルータ：WN-G54/BBR】

項目	内容
商品名	IEEE802.11g 無線LAN アクセスポイント付ブロードバンドルータ
製品型番	WN-G54/BBR
■WAN側ネットワーク部	
インターフェイス	RJ-45×1
準拠規格	IEEE802.3（10BASE-T）、IEEE802.3u（100BASE-TX）
クロス/ストレート自動判別	可能
■LAN側ネットワーク部	
インターフェイス	RJ-45×4（4ポートスイッチングハブ）
準拠規格	IEEE802.3（10BASE-T）、IEEE802.3u（100BASE-TX）
クロス/ストレート自動判別	全ポート可能
■無線LAN側ネットワーク部	
準拠規格	IEEE802.11g,IEEE802.11b,RCR STD-33,ARIB STD-T66
周波数帯域	2.4GHz帯　（2.4～2.4835GHz）
チャンネル	1ch～13ch
伝送方式	IEEE802.11g：直交周波数分割多重(OFDM) IEEE802.11b：直接拡散・スペクトラム拡散方式(DS-SS)
伝送速度	IEEE802.11g：6/9/12/18/24/36/48/54Mbps IEEE802.11b：1/2/5.5/11Mbps
変調方式	IEEE802.11g：OFDM with BPSK,QPSK,16QAM,64QAM IEEE802.11b：DBPSK,DQPSK,CCK
データ到達距離（最大）	屋内：約100m、屋外：約300m（環境により変化します。）
無線設備の種別	小電力データ通信システム
アンテナ方式	ダイバシティ方式(外付け可動式アンテナ×1,内蔵固定アンテナ×1)
■その他の仕様	
ＬＥＤ表示	POWER,WLAN,LAN1～4,WANランプ
ACアダプタ	入力：AC100V、出力：DC 5V　2.0A
電源電圧	DC 5V±5%
消費電流	最大 1.3A
リセットスイッチ	タクトスイッチ型、出荷時設定復帰用(背面)
動作温度範囲	0℃～35℃
動作湿度範囲	10%～85%（結露しないこと）
外形寸法	約38(W)mm×120(D)mm×171(H)mm(アンテナ、スタンド含まず)
質量	約360g（本体のみ）

●ハードウェア仕様【ブロードバンドルータ：WN-AG/BBR】

商品名	IEEE802.11g/aデュアルバンド 無線LAN アクセスポイント付 ブロードバンドルータ	
製品型番	WN-AG/BBR	
■WAN側ネットワーク部		
インターフェイス	RJ-45×1	
準拠規格	IEEE802.3（10BASE-T）、IEEE802.3u（100BASE-TX）	
クロス/ストレート 自動判別	可能	
■LAN側ネットワーク部		
インターフェイス	RJ-45×4（4ポートスイッチングハブ）	
準拠規格	IEEE802.3（10BASE-T）、IEEE802.3u（100BASE-TX）	
クロス/ストレート 自動判別	全ポート可能	
■無線LAN側ネットワーク部		
準拠規格	IEEE802.11a,IEEE802.11g,IEEE802.11b,RCR STD-33,ARIB STD-T66	
周波数帯域	2.4GHz帯　（IEEE802.11g/b）	5.2GHz帯　（IEEE802.11a）
チャンネル	1ch～13ch	34,38,42,46ch
伝送方式	IEEE802.11g：直交周波数分割多重(OFDM) IEEE802.11b：直接拡散・スペクトラム拡散方式(DS-SS)	直交周波数分割多重(OFDM)
伝送速度	IEEE802.11g：6/9/12/18/24/36/48/54Mbps IEEE802.11b：1/2/5.5/11Mbps	6/9/12/18/24/36/48/54Mbps
変調方式	IEEE802.11g：OFDM with BPSK,QPSK,16QAM,64QAM IEEE802.11b：DBPSK,DQPSK,CCK	OFDM with BPSK,QPSK,16QAM,64QAM
データ到達距離（最大）	屋内：約100m、屋外：約200m （環境により変化します。）	屋内：約100m、屋外：利用不可 （環境により変化します。）
無線設備の種別	小電力データ通信システム	
アンテナ方式	ダイバシティ方式(外付け可動式アンテナ×1,内蔵固定アンテナ×1)	
■その他の仕様		
ＬＥＤ表示	POWER,WLAN,LAN1～4,WANランプ	
ACアダプタ	入力：AC100V、出力：DC 5V　2.0A	
電源電圧	DC 5V±5%	
消費電流	最大 1.3A	
リセットスイッチ	タクトスイッチ型、出荷時設定復帰用(背面)	
動作温度範囲	0℃～35℃	
動作湿度範囲	10%～85%（結露しないこと）	
外形寸法	約38(W)mm×120(D)mm×171(H)mm(アンテナ、スタンド含まず)	
質量	約340g（本体のみ）	

●ハードウェア仕様【PCカード：WN-AG/CB2】

商品名	IEEE802.11a/g/bデュアルバンド 無線LAN PCカード	
製品型番	WN-AG/CB2	
規格	IEEE802.11a/ IEEE802.11g / IEEE802.11b	
周波数帯域	5.2GHz帯 （5.15～5.25GHz）	2.4GHz帯 （2.4～2.4835GHz）
チャンネル	34,38,42,46ch	1～13ch
伝送速度	54,48,36,24, 18,12,9,6Mbps	・IEEE802.11g 54,48,36,24,18,12,9,6Mbps ・IEEE802.11b 11,5.5,2,1Mbps
伝送方式	OFDM （IEEE802.11a準拠）	OFDM （IEEE802.11g準拠） DS-SS （IEEE802.11b準拠）
データ到達距離※2 （最大）	屋内：約100m 屋外：利用不可	屋内：約100m 屋外：約300m
無線設備の種別	小電力データ通信システム	
セキュリティ方式	WEP（Wired Equivalent Privacy） SSID（Service Set ID） ※SSIDはアクセスポイント使用時	
アクセス方式	アドホック（Ad hoc） インフラストラクチャ（Infrastructure） ※インフラストラクチャはアクセスポイント使用時	
LED	PWR,NET	
アンテナ方式	ダイバーシティ方式	
ホストインターフェイス	PCMCIA PC CARD TYPEⅡ(CardBus)	
使用電源	DC3.3V±0.3V	
消費電流（最大）	送信：700mA 受信：460mA	送信：710mA 受信：480mA
使用温度範囲	0℃～50℃（パソコンの動作する温度範囲であること）	
使用湿度範囲	10%～85%（結露しないこと）	
外形寸法	約54（W）×119（D）×9(H)mm（アンテナ部含む）	
質量	約39g	
適応規格	TELEC	

※環境条件により変化します。5.2GHz帯の電波は屋外での使用は電波法上禁止されています。

●ブロードバンドルータの初期値（出荷時設定）【WN-G54/BBR、WN-AG/BBR共通】

項目		初期値
LAN側設定	ホスト名	（設定なし）
	IPアドレス	192.168.0.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバ	有効
	→開始IPアドレス	192.168.0.2
	→終了IPアドレス	192.168.0.32
	ドメイン名	（設定なし）
	リース時間	1日
WAN側設定	接続方法	IPアドレス自動取得/固定設定接続
	IPアドレス	IPアドレス自動取得
	DNS(ネーム)アドレス プライマリ	0.0.0.0（自動取得）
	DNS(ネーム)アドレス セカンダリ	0.0.0.0（自動取得）
無線LAN側設定	SSID	default
	チャンネル	6 (WN-AG/BBRはIEEE802.11g/bで動作)
	WEP	無効
アクセス制御	MACフィルタ	無効
	ポートフィルタ	無効
	IPフィルタ	無効
	仮想サーバ	無効
	特殊アプリ	無効
	DMZ	無効
管理設定	HTTP設定	無効
	WebポートPing許可	有効
	UPnP	有効
	ゲームモード	無効
	VPNパススルー	無効

●ブロードバンドルータの機能仕様【WN-G54/BBR、WN-AG/BBR共通】

■ルータ部	
ルーティング プロトコル	TCP/IP
設定プロトコル	HTTP(Webブラウザ設定) セキュアホスト設定によるリモート設定可能
アドレス変換	NAT/IPマスカレード(NAT無効設定可能)
IPセッション数	最大3000セッション
ファイヤウォール 機能	MACアドレス接続制限（無線・有線両対応） パケットフィルタリング ステートフルパケットインスペクション
パケットフィルタ	最大100エントリ ポート番号、IPアドレス、プロトコル種別(TCP,UDP,ICMP)での設定
IPフィルタ	最大20エントリ
ポートフィルタ	最大20エントリ
MACアドレスフィル タ	最大50エントリ
仮想サーバ	最大20エントリ
特殊 アプリケーション	最大20エントリ
DMZホスト登録機能	あり
ログ	簡易ログ機能(Webブラウザ画面表示)、SYSLOG転送機能
ファームウェア アップデート	Webブラウザより可能
■WAN側ネットワーク部	
接続方式	常時接続、オンデマンド接続 (IPアドレス自動取得/固定設定接続、PPPoE認証接続)
IPアドレス取得 方法	PPPoEクライアント機能 DHCPクライアント機能 IPアドレス固定割当機能
対応プロトコル	TCP/IP
PPPoEセッション数	1セッション
■LAN側ネットワーク部	
IPアドレス自動割 当（DHCP)	DHCPサーバ機能(最大253割当、無線LANと共用)
対応プロトコル	TCP/IP、IPX/SPX、NetBEUI、AppleTalk
■無線LAN側ネットワーク部	
IPアドレス自動割 当（DHCP)	DHCPサーバ機能(最大253割当、無線LANと共用)
対応プロトコル	TCP/IP、AppleTalk
無線部 セキュリティ	暗号化方式：WEP(Wired Equivalent Privacy) 64/128bit 接続制限：MACアドレスフィルタ(有線LANと共用) SSID通知のON/OFF

アフターサービス

① まず、弊社ホームページをご確認ください。

本書【困った時には】で解決できない場合は、サポートWebページ内の「製品Q&A、Newsなど」もご覧ください。過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。

http://www.iodata.jp/support/

製品Ｑ＆Ａ
Newsなど

ファームウェアをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のファームウェアをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
ファームウェア

② それでも解決できない場合は…

住所：　〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　サポートセンター

電話：　本社…**076-260-3644**　東京…**03-3254-1144**
※受付時間　9:30～19:00　月～金曜日（祝祭日を除く）

FAX：　本社…**076-260-3360**　東京…**03-3254-9055**

インターネット：　http://www.iodata.jp/support/

・お知らせいただく事項について

サポートセンターへお問い合わせいただく際は、事前に以下の事項をご用意ください。

1．ご使用の弊社製品名
2．ご使用のパソコン本体の型番
3．ご使用のOSのバージョン
4．トラブルが起こった状態、トラブルの内容、現在の状態（画面の状態やエラーメッセージなどの内容）

修理について

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。
その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について

・保証期間中は、無料にて修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有料となります。
※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。

・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。
※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時にFAX番号をお知らせいただければ、修理金額をFAXにて連絡させていただきます。）

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

●メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、シリアル番号、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

●これらを用意してください

・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）
※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。

・下の内容を書いたもの
返送先［住所/氏名/(あれば)FAX番号］,日中にご連絡できるお電話番号,
ご使用環境（機器構成、OSなど）,故障状況（どうなったか）

●修理品を梱包してください

・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。
・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。
※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

修理について（つづき）

●修理をご依頼ください

・修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。

※ 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　修理センター　宛

修理品の返送

・修理品到着後、通常約１週間ほどで弊社より返送できます。

※ただし、有料の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。